

Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server リリース 3.9

API リファレンスガイド

2024 年 3 月 5 日

目次

変更履歴	11
1 一般情報	13
1.1 このマニュアルの使用方法	13
1.1.1 インタラクティブ API レファレンスツール	13
2 オブジェクトの一般的な構造	16
2.1 オブジェクト階層	16
3 API にアクセスする	21
3.1 構成設定	21
3.2 認証	21
3.3 Web インターフェイスでの API アクセス	21
3.4 使用するサードパーティツール	22
3.4.1 サードパーティの API ツールを使用するためのヒント	23
4 API メソッド	25
4.1 URL の形式	25
4.2 GET メソッド	26
4.2.1 コレクションレベル	26
4.2.2 コレクションレベルで制限とオフセットを使用する	26
4.2.3 個々のオブジェクトレベル	27
4.2.4 HTTP の詳細	27
4.2.5 このマニュアルでの GET	メソッドの詳細の説明方法 28
4.3 POST メソッド	28
4.3.1 HTTP の詳細	28
4.3.2 このマニュアルでの POST メソッドの詳細の説明方法	29
4.4 PUT メソッド	29
4.4.1 HTTP の詳細	29
4.4.2 このマニュアルでの PUT	メソッドの詳細の説明方法 29
4.5 DELETE メソッド	29
4.6 障害理由	30
5 特定のメソッドのリクエストとレスポンスの例	37
5.1 現在アクティブなコールの取得	37
5.2 新しいコールをインスタンス化し、参加者をそのコールに接続する	37

6 coSpace 関連のメソッド	40
6.1 coSpace を取得する	40
6.2 coSpace を作成、変更する	42
6.2.1 セカンダリ coSpace URI	46
6.2.2 coSpace callId の自動生成	47
6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する	47
6.3.1 特定の coSpace のエントリの詳細を取得する	51
6.4 coSpace メンバーメソッド	51
6.4.1 coSpace のメンバーを取得する	51
6.4.2 coSpace メンバーを追加、変更する	53
6.4.3 coSpace メンバーの情報を取得する	55
6.5 複数の coSpace アクセス方式	55
6.5.1 一般情報	55
6.5.2 coSpace アクセス方式を取得する	56
6.5.3 coSpace アクセス方式を作成、変更する	57
6.5.4 個々の coSpace アクセス方式に関する情報を取得する	60
6.6 coSpace から呼び出す	60
6.7 coSpace を一括作成、更新、削除する	60
6.7.1 /cospaceBulkParameterSets を作成する	60
6.7.2 coSpace を一括作成するためのパラメータセットを取得する	62
6.7.3 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する	62
6.7.4 一括同期操作をキューに入れる	64
6.7.5 一括同期操作を取得する	64
6.7.6 特定の一括同期操作を取得する	66
6.7.7 例	67
6.8 coSpace 診断メソッド	68
6.9 coSpace テンプレートを使用する	68
6.9.1 coSpace テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する	68
6.10 アクセス方式テンプレートを使用する	70
6.10.1 coSpace テンプレートのアクセス方式 テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する	70
6.11 coSpace に関するテキストベースの会議エントリ情報を取得する	73
6.12 coSpace でのメタデータを構成する	75
7 ダイアルプランのメソッド	77
7.1 発信ダイアルプラン API メソッド	77

7.1.1	発信ダイヤルプランにアクセスする	77
7.1.2	発信ダイヤルプランルールを取得する	78
7.1.3	発信ダイヤルプランルールを作成、変更する	78
7.1.4	個々の発信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する	81
7.2	ダイヤル変換	81
7.2.1	ダイヤル変換を取得する	82
7.2.2	ダイヤル変換を設定、変更する	83
7.2.3	個々のダイヤル変換に関する詳細情報を取得する	84
7.3	着信コール マッチング ダイヤルプラン API メソッド	84
7.3.1	着信ドメインマッチングルールへのアクセス	84
7.3.2	着信ダイヤルプランルールを取得する	85
7.3.3	着信ダイヤルプランルールを作成、変更する	86
7.3.4	個々の着信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する	87
7.4	着信転送ダイヤルプラン API メソッド	87
7.4.1	着信コール転送ルールへのアクセス	87
7.4.2	着信コール転送ダイヤルプランルールを取得する	87
7.4.3	着信コール転送ダイヤルプランルールを作成、変更する	88
7.4.4	個別の着信コール転送ダイヤルプランルールに関する情報を取得する	89
8	コール関連のメソッド	90
8.1	コールメソッド	90
8.1.1	アクティブなコールに関する情報を取得する	90
8.1.2	新しいコールの作成とアクティブなコールの変更	91
8.1.3	個々のアクティブなコールに関する情報を取得する	95
8.1.4	個々のコールに関する診断を生成する	100
8.1.5	会議の参加者を取得する	101
8.1.6	指定されたコールの新しい参加者を作成する	101
8.1.7	会議のすべての参加者のプロパティを設定する	111
8.1.8	サードパーティの API ツールを使用してクローズドキャプションを送信する	113
8.2	コールプロファイルメソッド	113
8.2.1	コールプロファイルを取得する	113
8.2.2	コールプロファイルを設定、変更する	114
8.2.3	個々のコールプロファイルに関する詳細情報を取得する	119
8.3	コールレグメソッド	119
8.3.1	アクティブなコールレグに関する情報を取得する	119

8.3.2 コールレグを追加、変更する	122
8.3.3 /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe	131
8.3.4 API を使用した Far End Camera Control（遠端カメラ制御）を許可する ..	131
8.3.5 会議の参加者のスナップショットを撮る	131
8.3.6 個々のコールレグに関する情報を取得する	132
8.4 コールレグ プロファイル メソッド	150
8.4.1 一般情報.....	150
8.4.2 コールレグプロファイルを取得する	150
8.4.3 コールレグプロファイルを作成、変更する	159
8.4.4 個々のコールレグプロファイルに関する情報を取得する	169
8.4.5 コールレグプロファイルとアクセス方式の使用例	170
8.4.6 /callLegProfiles/<call leg profile id>/usage オブジェクトメソッド	170
8.4.7 /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトのメソッド	170
8.5 コールレグの個々の機能を設定する	173
8.6 レイアウト テンプレート メソッド.....	173
8.6.1 レイアウトテンプレートを追加、変更する	174
8.6.2 レイアウトテンプレートを取得（列挙）する	174
8.6.3 レイアウトテンプレートに関する情報を取得する	174
8.6.4 レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てる ..	175
8.6.5 レイアウトテンプレートでレイアウトテンプレートの説明を取得する	175
8.7 コールブランディング プロファイル メソッド	175
8.7.1 コールブランディング プロファイルを取得する	175
8.7.2 コールブランディング プロファイルを設定、変更する	176
8.7.3 個々のコールブランディング プロファイルに関する詳細情報を取得する ..	176
8.8 DTMF プロファイルメソッド	176
8.8.1 DTMF プロファイルを取得する	176
8.8.2 DTMF プロファイルを設定、変更する	178
8.8.3 個々の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する	180
8.9 IVR メソッド	180
8.9.1 IVR を取得する	180
8.9.2 IVR を設定、変更する	181
8.9.3 個々の IVR に関する詳細情報を取得する	181
8.10 IVR ブランディング プロファイル メソッド	182
8.10.1 IVR ブランディングプロファイルを取得する	182
8.10.2 IVR ブランディングプロファイルを設定、変更する	182
8.10.3 個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する	182

8.11 参加者関連のメソッド	183
8.11.1 参加者の取得	183
8.11.2 すでに会議に参加している参加者の設定を変更する	185
8.11.3 個々の参加者の詳細情報を取得する	185
8.11.4 参加者のコールレグを取得する	189
8.11.5 コールの参加者を制限する	189
9 ユーザー関連のメソッド	191
9.1 ユーザーを取得する	191
9.2 個々のユーザーに関する詳細情報を取得する	192
9.2.1 ユーザーの coSpace アソシエーションを取得する	192
9.2.2 ユーザーに coSpace テンプレートを適用する	192
9.2.3 ユーザー coSpace テンプレート情報を取得する	193
9.2.4 LDAP を使用した userCoSpaceTemplates を適用する	193
9.2.5 ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する	194
9.2.6 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、変更、 取得する	195
9.2.7 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変 更、取得する	197
9.3 ユーザー プロファイル メソッド	198
9.3.1 ユーザープロフィールを取得する	198
9.3.2 ユーザープロフィールを設定、変更する	199
9.3.3 個々のユーザープロフィールに関する詳細情報を取得する	200
10 システム関連のメソッド.....	201
10.1 システムステータスを取得する	201
10.2 システムアラームステータスを取得する	202
10.3 システム データベース ステータスを取得する	205
10.4 CDR レシーバ URI メソッド	206
10.4.1 CDR レシーバ URI を取得する	206
10.4.2 CDR レシーバ URI を設定する	207
10.5 グローバル プロファイル メソッド	207
10.5.1 グローバルプロフィールを取得する	207
10.5.2 グローバルプロフィールを設定する	207
10.6 ライセンスメソッド	208
10.6.1 Meeting Server インスタンスごとのライセンスファイル情報を取得する	209

10.6.2 クラスタのライセンス情報を取得する	217
10.7 TURN サーバーメソッド	219
10.7.1 TURN サーバーに関する情報を取得する	220
10.7.2 TURN サーバーを設定、変更する	220
10.7.3 個々の TURN サーバーに関する詳細情報を取得する	221
10.7.4 個々の TURN サーバーステータスを取得する	222
10.8 Web Bridge メソッド	223
10.8.1 Web Bridge に関する情報を取得する	223
10.8.2 Web Bridge を設定、変更する	224
10.8.3 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する	224
10.8.4 Web Bridge のカスタマイズを更新する	225
10.8.5 Web Bridge で診断を取得する (2.2 以降)	225
10.9 Web Bridge プロファイルメソッド	225
10.9.1 Web Bridge プロファイルを取得する	225
10.9.2 Web Bridge プロファイルを作成、変更する	228
10.9.3 指定した Web Bridge で現在有効な WebBridge プロファイルを確認する	230
10.9.4 最上位レベル (グローバル) システムレベルで現在有効な Web Bridge プロファイルを確認する	232
10.9.5 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する	233
10.9.6 webBridgeProfile の Web Bridge アドレスを作成、変更、取得する	234
10.9.7 webBridgeProfile の IVR 番号を作成、変更、取得する	236
10.10 Call Bridge メソッド	237
10.10.1 Call Bridge に関する情報を取得する	237
10.10.2 Call Bridge を設定、変更する	237
10.10.3 個々の Call Bridge に関する詳細情報を取得する	238
10.11 Call Bridge グループメソッド	238
10.11.1 Call Bridge グループに関する情報を取得する	238
10.11.2 Call Bridge グループを設定、変更する	238
10.11.3 個々の Call Bridge グループに関する詳細情報を取得する	239
10.12 Call Bridge クラスタメソッド	239
10.12.1 Call Bridge クラスタの詳細を取得する	239
10.12.2 Call Bridge クラスタを設定、変更する	240
10.13 システム負荷メソッド	241
10.14 互換性プロファイルメソッド	241

10.14.1	互換性プロファイル操作を取得する	241
10.14.2	互換性プロファイル操作を設定、変更する	242
10.15	Lobby プロファイルメソッド	245
10.15.1	lobby プロファイル操作を取得する	245
10.15.2	lobby プロファイル操作を設定、変更する	245
10.16	システム診断メソッド	246
10.16.1	システム診断を取得する	246
10.16.2	個々のシステム診断を取得する	246
10.16.3	個々のシステム診断の内容を取得する	247
10.17	システムの時間ロギングメソッド	247
10.17.1	ロギングサブシステムのアクティブ化	247
11	LDAP メソッド	249
11.1	LDAP サーバーメソッド	250
11.1.1	LDAP サーバーに関する情報を取得する	250
11.1.2	LDAP サーバーを追加、変更する	251
11.1.3	個々の LDAP サーバーに関する詳細情報を取得する	251
11.2	LDAP マッピングメソッド	252
11.2.1	LDAP マッピングを追加、変更する	252
11.2.2	セカンダリ LDAP マッピングパラメータ	253
11.2.3	LDAP マッピングに関する情報を取得する	253
11.2.4	個々の LDAP マッピングに関する詳細情報を取得する	254
11.3	LDAP ソースメソッド	254
11.3.1	LDAP ソースに関する情報を取得する	254
11.3.2	LDAP ソースを追加、変更する	255
11.3.3	LDAP ソースに関する詳細情報を取得する	256
11.4	LDAP 同期メソッド	256
11.4.1	スケジュールされた LDAP 同期の取得メソッド	257
11.4.2	新しい LDAP 同期を開始する	258
11.4.3	スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルする	258
11.4.4	単一の LDAP 同期メソッドに関する情報を取得する	258
11.5	外部ディレクトリ検索場所	259
11.5.1	外部ディレクトリ検索場所に関する情報を取得する	259
11.5.2	外部ディレクトリ検索場所を追加、変更する	259
11.5.3	外部ディレクトリ検索場所に関する詳細情報を取得する	260
11.5.4	外部ディレクトリ検索場所の追加例	260

12 マルチテナンシー	264
12.1 テナント	265
12.1.1 テナントを取得する	265
12.1.2 テナントを作成、変更する	266
12.1.3 個々のテナントに関する詳細情報を取得する	267
12.2 テナントグループを操作する	268
12.2.1 テナントグループを取得する	268
12.2.2 テナントグループを作成、変更する	268
12.2.3 個々のテナントグループに関する詳細情報を取得する	268
13 クエリメソッド	269
13.1 accessQuery メソッド	269
13.2 conversationIdQuery メソッド	269
13.3 uriUsageQuery メソッド	270
14 ダイヤルイン セキュリティ プロファイルのメソッド	271
14.1 一般情報.....	271
14.1.1 ダイヤルイン セキュリティ プロファイルを使用した最小パスコード長の実装	272
14.2 ダイヤルイン セキュリティ プロファイルを取得する	272
14.3 ダイヤルイン セキュリティ プロファイルの作成、変更、取得する	273
15 スケジューラ API	274
15.1 スケジューラの HTTPS インターフェイスを設定する	274
15.2 スケジューラ API メッセージ形式	275
15.3 コンテンツヘッダー形式.....	275
15.4 レスポンスコード	275
15.5 カスタムエラーコード	276
15.6 リクエストとレスポンスの例	276
15.7 スケジューラ関連メソッド	278
15.7.1 サービス正常性ステータスを取得する	278
15.7.2 coSpace で会議を作成、変更、削除する	279
15.7.3 個々の会議を取得、変更、削除する	282
15.7.4 会議の参加者リストを変更、取得する	284
15.7.5 会議のオカレンスの作成、変更、削除する	285
15.7.6 会議オカレンスの参加者を取得または変更する	287
15.7.7 coSpace の電子メールを更新する	288
15.7.8 単一の会議および一連の会議全体の電子メールを更新する	289
15.7.9 時間指定ログ情報を変更、取得する	289

16 プロファイルを使用する	290
付録 A Web アプリ会議の参加者のロールをモジュール変更する	292
A.1 使用可能なロール	292
A.2 特別なロール	293
A.2.1 スペースのデフォルトのロール	293
A.2.2 カスタムロール	294
A.3 ロールと coSpace メンバーシップを割り当てる	294
A.3.1 メンバー	294
A.3.2 その他の参加者	294
付録 B コールレグに関する追加情報	295
B.1 コールレグ情報	295
B.1.1 コールレグ構成	295
B.1.2 コールレグステータス	296
付録 C 追加の Multiparty ライセンス情報	298
C.1 /system/licensing に関する情報	298
C.2 /system/multipartyLicensing に関する情報	299
付録 D RESTer をインストールし API で使用する	300
D.1 RESTer のインストール	300
D.1.1 SSL 例外の追加/確認	301
D.1.2 Basic 認証ヘッダーを生成する	302
D.1.3 GET コマンドの例	303
D.1.4 POST コマンドの例	304
D.1.5 PUT コマンドの例	308
付録 E Web Bridge 3 によって提供される API メソッド	309
Cisco の法的情報	310
Cisco の商標または登録商標	311

☒ :

図 1 : リリース 3.9 の Cisco Meeting Server のドキュメント	15
図 2 : Meeting Server Web インターフェイスを介した Call Bridge API へのアクセス	22

図 3 : LDAP プロセスの概要	250
図 4 : マルチマルチテナンシー プロセスの概要	265
図 5 : プロファイルによる値の継承	291
図 6 : テナント使用時のプロファイルによる値の継承	291

変更履歴

日付	変更点
2024年3月5日	Cisco Meeting Server 3.9 の新しいバージョン。
2023年9月7日	Cisco Meeting Server 3.8 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2023年3月16日	Cisco Meeting Server 3.7 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2022年10月13日	マイナー編集。
2022年8月23日	Meeting Server 3.6 向けの新しいバージョン。
2022年7月21日	URI およびセカンダリ URI パラメータの説明を更新しました。
2022年4月20日	Cisco Meeting Server 3.5 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2021年12月23日	Cospace 関連のメソッドの Scope パラメータを更新しました。
2021年12月15日	Cisco Meeting Server 3.4 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2021年12月6日	パラメータ audioGainMode を更新しました。
2021年8月24日	Cisco Meeting Server 3.3 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2021年7月19日	電子メール招待 API セクションに FAQ リンクを追加しました。
2021年5月6日	パラメータ qualityMain、qualityPresentation、remoteParty、directorySearchLocation、sipMultistream の説明を更新しました。
2021年4月22日	マイナー編集。
2021年4月21日	Cisco Meeting Server 3.2 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。
2021年4月20日	パラメータ sipPresentationChannelEnabled および loadBalanceIndirectCalls に関する注記を追加しました。
2021年3月16日	Meeting Server の短期的なログイン情報が完全にサポートされる機能としてドキュメントを更新。
2020年12月2日	Web アプリに関する callLegPro- ファイルの qualityMain パラメータおよび qualityPresentation パラメータに注記を追加しました。
2020年11月30日	Cisco Meeting Server 3.1 向けの新しいバージョン。すべての API の変更、追加、削除、廃止の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。

日付	変更点
2020年11月4日	マイナー修正。
2020年9月4日	マイナー修正。
2020年8月12日	マイナー修正。
2020年7月29日	Cisco Meeting Server 3.0 の新しいバージョン。すべての API の変更、追加、削除、廃止の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。

1 一般情報

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、シスコユニファイドコンピューティングサーバー (UCS) 技術に基づく特定のサーバー、または仕様に基づく VM サーバーでホストできます。本書では、Cisco Meeting Server を Meeting Server と呼びます。

注： Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.0 以降では、X シリーズサーバをサポートしません。

このドキュメントでは、Cisco Meeting Server のアプリケーションプログラム インターフェイスのリリース 3.9 について説明します。

注： このガイドでは、Cisco Meetings Server ソフトウェアを Meeting Server と呼びます。

注： API 構成の変更、特に複数のユーザーやコールに影響を与える可能性のあるグローバルプロファイルの変更は、メンテナンスウィンドウ内の営業時間外に行うことを強くお勧めします。

1.1 このマニュアルの使用方法

このガイドは 2 つの部分に分かれています。

- ・ まずはセクション 2 から 5 までを順番に読むことをお勧めします。これらのセクションは、API の背後にある概念、API メソッドの使用方法を理解するのに役立ちます。また、いくつかの使用例も紹介しています。
- ・ 残りのセクション (セクション 6 以降) は、使用するメソッドを参照するための資料として使用します。

このガイドでは、次のさまざまな API について説明しています。

- セクション 6 ~ 14 では、XML ベースの Call Bridge API について説明します。
- セクション 15 では、JSON コンテンツ形式を使用するスケジューラ API について説明します。

このガイドは、Meeting Server のドキュメントセット (図 1 を参照) の一部です。これらのドキュメントは [cisco.com](https://www.cisco.com) から入手できます。

1.1.1 インタラクティブ API レファレンスツール

最近、新しいインタラクティブ API レファレンスツールを導入しました。詳細については、『API オブジェクトの高層のビューの表示と下層へのドリルダウン』を参照してください。また、開始する際に役立つ学習ラボもあり、今後追加されます。このツールを試してみることをお勧めします。将来、API レファレンスガイドの PDF バージョンの公開を中止します。

<https://developer.cisco.com/cisco-meeting-server/> ツ

ールを使用する手順:

1. [ガイドの表示 (View the docs)]をクリックします。
2. 左ペインのリストから、カテゴリを選択します。例: 関連するメソッドの呼び出し。
3. 任意のメソッドをクリックして URI: GET/POST/PUT を参照してください。パラメータと応答要素の表と説明を参照してください。例: GET

<https://ciscocms.docs.apiary.io/api/v1/calls?>

注: POST / PUT メソッドを使用している場合、メソッドを選択すると、関連する「属性」と説明が右側のペインに表示されます。

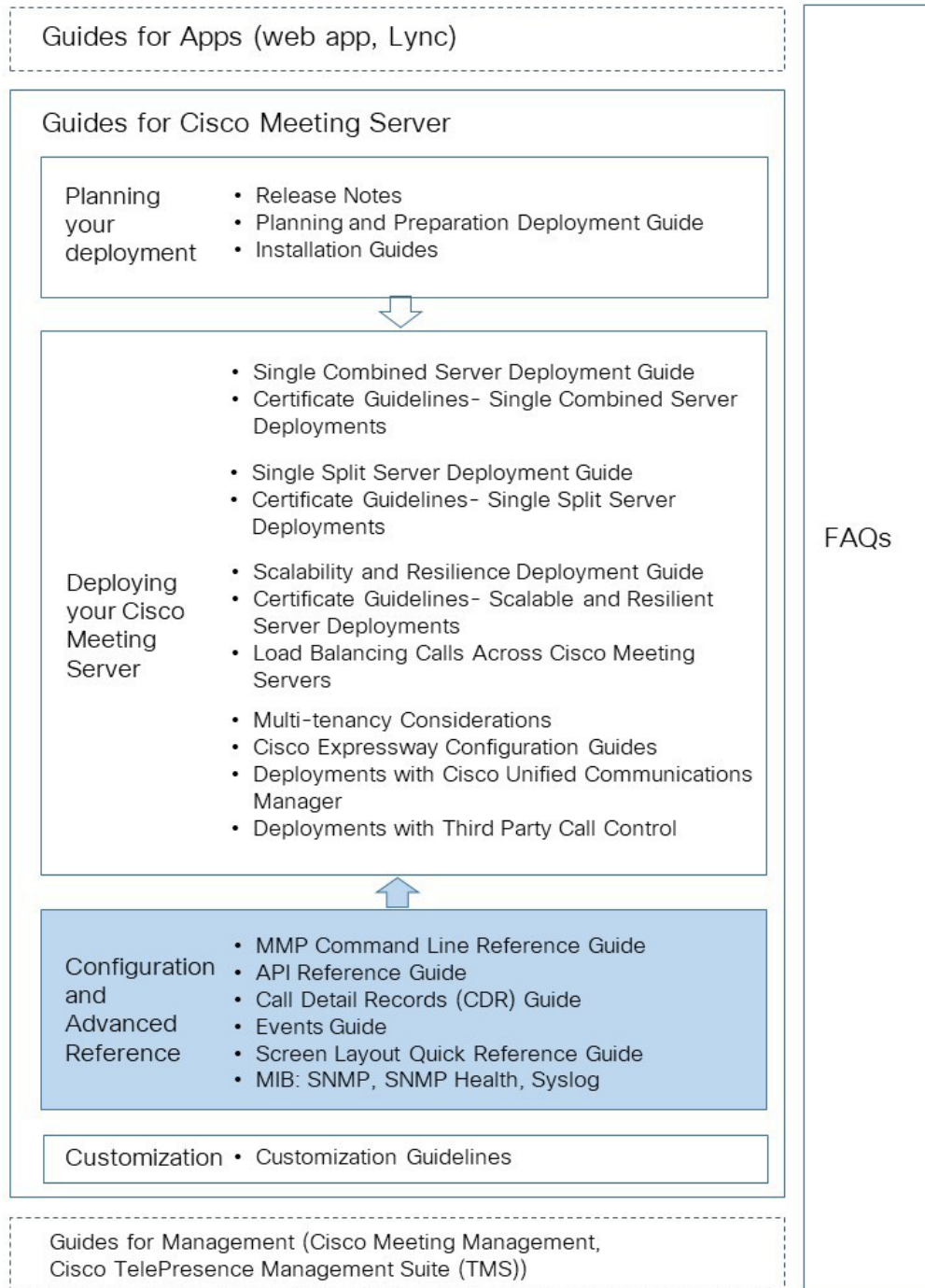
学習ラボ

<https://learninglabs.cisco.com/modules/cisco-meeting-server>

学習ラボは出発点として意図されており、Cisco Meeting Server API を使用してできることを横断的に幅広くカバーしています。すべての学習ラボは、タスクを最初から最後まで完了するための手順を順を追って説明するステップバイステップのチュートリアルです。

例: 「Cisco Meeting Server API を使用したホストおよびゲストアクセスのセットアップ」では、さまざまなオプションを使用してユーザーがスペースでの会議に参加する方法を設定する手順を説明しています。

図 1 : リリース 3.9 の Cisco Meeting Server のドキュメント



2 オブジェクトの一般的な構造

Meeting Server のアプリケーションプログラミング インターフェイス (API) は、ディレクトリ構造に似た、オブジェクトの階層として設計されています。たとえば、構成された各 coSpace はこのツリーのノードとして存在し、coSpace のメンバーであるすべてのユーザーは、coSpace オブジェクトのノードの「下」にノードとして存在します。API オブジェクトには、適切な REST クライアントを使用してアクセスします。詳しくは[セクション 3.4](#) を参照してください。

注： Cisco Meeting アプリケーションおよび他の Cisco Meeting Server ガイドでは、「coSpaces」ではなく「spaces」に言及していますが、API は引き続き /coSpace オブジェクトを使用します。

Meeting Server では、多数のアクティブなコールと coSpace をホストすることができます。1 回の応答でオブジェクトのコレクション全体を取得するオーバーヘッドを削減するために、応答は通常、最初の「N」個の一致するエントリと、そのタイプのオブジェクトの総数のカウントを返します。個々のオブジェクトのアクティブステータスを検索するか、オブジェクトを変更または削除するには、最初の取得でフィルタを使用して、目的のオブジェクトを識別します。フィルタと GET コマンドの詳細については、[セクション 4.2](#) を参照してください。

注： ツリー内の一部のノードはクラスタ全体で共有されるオブジェクトのセット（たとえば、構成された coSpace またはダイヤルプランルールのセット）を参照し、他のノード（「api/v1/system/alarms」の下のアラーム条件など）はアクセスされている Meeting Server に固有です。

2.1 オブジェクト階層

いずれの場合も、最上位の複数項は、潜在的に多くの個別のオブジェクトノードの上にあります。これらの個々のオブジェクトノードは <<ID>>（通常は GUID）で識別されます。たとえば、Meeting Server に 100 の coSpace が設定されている場合、概念的には、階層内の /coSpace のすぐ下に 100 のノードがあります。

Call Bridge API を介してアドレス指定可能なオブジェクトの階層は次のとおりです。

`/accessQuery`

`/callBrandingProfiles`

`/callBrandingProfiles/<call branding profile id>`

`/callBridges`

`/callBridges/<call bridge id>`

`/callBridgeGroups` (2.1 以降)

`/callBridgeGroups/<call bridge group id>` (2.1 以降)

`/calls`

`/calls/<call id>`

`/calls/<call id>/callLegs`

```

/calls/<call id>/diagnostics
/calls/<call id>/participants
/calls/<call id>/participants/* (2.2 以降)
/calls/<call id>/captions (3.4 以降)

/callProfiles
/callProfiles/<call profile id>

/callLegs
/callLegs/<callLeg id>
/callLegs/<callLeg id>/callLegProfileTrace
/callLegs/<call leg id>/cameraControl (2.9 以降)
/callLegs/<call leg id>/generateKeyframe (2.2 以降)
/callLegs/<call leg id>/snapshot (3.5 以降)

/callLegProfiles
/callLegProfiles/<call leg profile id>
/callLegProfiles/<call leg profile id>/usage

/clusterLicensing (3.0 以降)
/clusterLicensing/raw (3.0 以降)

/compatibilityProfiles (2.1 以降)
/compatibilityProfiles<compatibility profile id> (2.1 以降)

/lobbyProfiles (3.7 以降)
/lobbyProfiles/<lobby profile id> (3.7 以降)

/conversationIdQuery (2.3 以降)

/cospaceBulkParameterSets (2.0 以降)
/cospaceBulkParameterSets/<coSpace bulk parameter set id> (2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs (2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs<coSpace bulk sync id> (2.0 以降)

/coSpaces
/coSpaces/<coSpace id>
/coSpaces/<coSpace id>/emailInvitation (3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation (3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpaceUser> id>
/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics
/coSpaces/<coSpace id>/messages (3.0 で削除)
/coSpaces/<coSpace id>/metadata (3.2 以降)

/coSpaceTemplates (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id> (2.9 以降)

```

```
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates (2.9 以降)  
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access> method
```

template id> (2.9 以降)

/dialInSecurityProfiles (3.0 以降)

/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id> (3.0 以降)

/dialTransforms

/dialTransforms/<dial transform id>

/directorySearchLocations

/directorySearchLocations/<directory search location id>

/dtmfProfiles

/dtmfProfiles/<dtmf profile id>

/forwardingDialPlanRules

/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule id>

/inboundDialPlanRules

/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule id>

/ivr

/ivr/<ivr id>

/ivrBrandingProfiles

/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>

/layoutTemplates

/layoutTemplates/<layout template id>

/layoutTemplates/<layout template id>/template (2.8 以降)

/ldapMappings

/ldapMappings/<ldap mapping id>

/ldapServers

/ldapServers/<ldap server id>

/ldapSources

/ldapSources/<ldap source id>

/ldapSyncs

/ldapSyncs/<ldap sync id>

/ldapUserCoSpaceTemplateSources (2.9 以降)

/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<ldap user coSpace template source id>

(2.9 以降)

/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings (3.1 以降)

/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>

(3.1 以降)

/ldapUserProvisionedCoSpaceSources (3.1 以降)

/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace mapping id> (3.1

以降)

/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace source id> (3.1

以降)

/outboundDialPlanRules

/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule id>

```

/participants
/participants/<participantId>
/participants/<participantId>/callLegs

/recorders (3.0 で削除)
/recorders/<recorder id> (3.0 で削除)
/recorders/<recorder id>/status (2.2 以降) (3.0 で削除)

/streamers (2.1 以降) (3.0 で削除)
/streamers/<streamer id> (2.1 以降) (3.0 で削除)
/streamers/<streamer id>/status (2.2 以降) (3.0 で削除)

/system/alarms
/system/cdrReceiver (廃止)
/system/cdrReceivers
/system/cdrReceivers/<CDR receiver id>
/system/configuration/cluster
/system/configuration/xmpp (3.0 で削除)
/system/database
/system/diagnostics
/system/diagnostics/<diagnostics id>
/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents
/system/licensing (2.0 以降)
/system/load (2.1 以降)
/system/MPLicenseUsage (2.6 以降)
/system/MPLicenseUsage/knownHosts (2.6 以降)
/system/multipartyLicensing (2.0 以降)
/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses (2.0 以降)
/system/profiles
/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile (3.0 以降)
/system/status
/system/timedLogging (3.2 以降)

/tenantGroups
/tenantGroups/<tenant group id>

/tenants
/tenants/<tenant id>
/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile (3.0 以降)

/turnServers
/turnServers/<turn server id>
/turnServers/<turn server id>/status

/uriUsageQuery (2.3 以降)
/users
/users/<user id>
/users/<user id>/userCoSpaces
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates (2.9 以降)
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace Template id> (2.9 以降)

```

```
/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces (3.1 以降)
/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id> (3.1 以降)
/userProfiles
/userProfiles/<user profile id>

/webBridges
/webBridges/<web bridge id>
/webBridges/<web bridge id>/status (2.2 以降)
/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization

/webBridgeProfiles (3.0 以降)
/webBridgeProfiles<web bridge profile id> (3.0 以降)
/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile
  (3.0 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id> (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address
id> (3.1 以降)
```

3 API へのアクセス

API は、転送メカニズムとして HTTPS を使用します。

注：API 要求にかかる時間は、要求タイプ、未処理の要求の数、データベースのサイズ、サーバーのロード、API クライアントと API 要求を受信する Call Bridge 間の遅延、API 要求を受信する Call Bridge とプライマリデータベース間の遅延など、これらに限定されない要因によって異なります。アプリケーションを開発するときは、代表的なシステムで API パフォーマンスをテストすることをお勧めします。

以下の [構成設定](#) と [認証](#) を実行すると、次のいずれかの方法で API にアクセスして操作できます。

- [Meeting Server Web インターフェイスでの API アクセス](#)：Meeting Server Web インターフェイスは、Call Bridge API の API エクスプローラを提供します。
- [サードパーティツールの使用](#)：サードパーティツールは、スケジューラ API だけでなく Call Bridge へのアクセスも提供できます。

3.1 構成設定

API を使用するには、Web 管理インターフェイスへのアクセスに使用するのと同じ TCP ポート（通常はポート 443）を介して HTTPS 経由で接続する必要があります。つまり、同じインターフェイスを使用します。

ユーザー名とパスワードも構成する必要があります。API を使用するには、これらの資格情報を提供する必要があります。MMP コマンド `user add <username> (admin|crypto|audit|appadmin|api)` を使用して設定します。このコマンドは、ユーザーのパスワードの入力を求めます。詳細については、『[MMP コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

3.2 認証

API ユーザーは、共有シークレットのユーザー名とパスワードを、同じユーザー名とパスワードで構成された Meeting Server に提供します。ユーザー名とパスワードは、MMP コマンドラインで設定します。

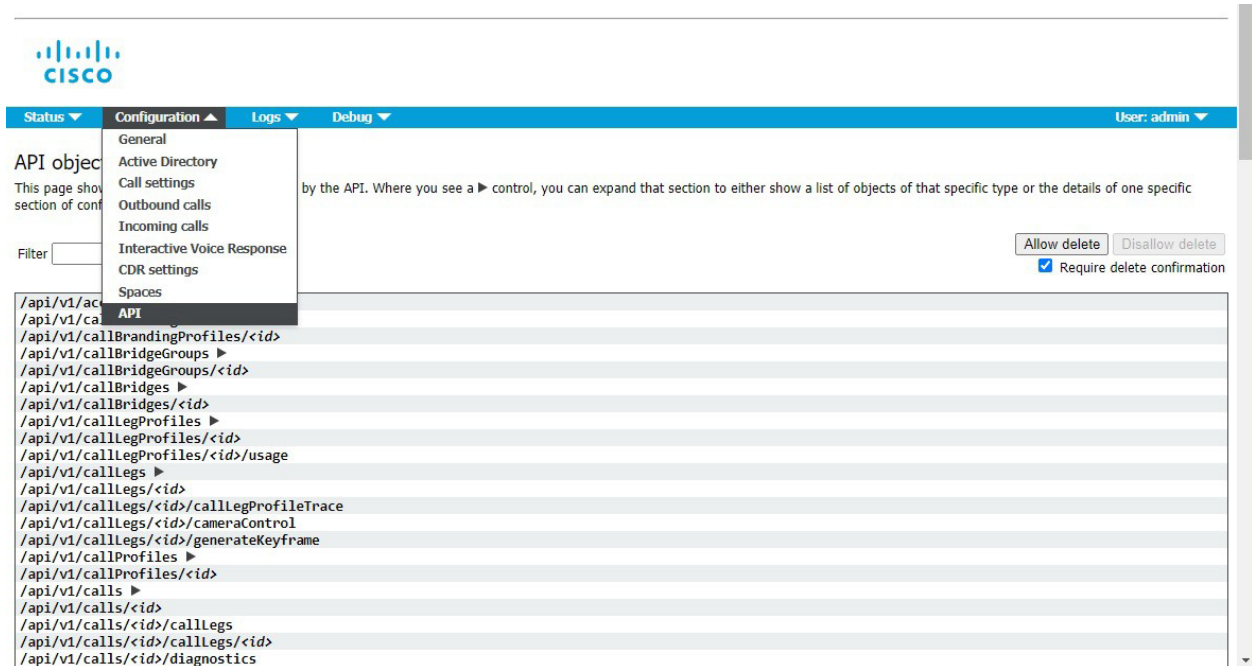
認証資格情報は HTTP トラフィック内で基本的にプレーンテキストで送信されますが、HTTPS を使用することにより、トラフィック自体を外部の当事者が読み取ることはできません。

3.3 Web インターフェイスでの API アクセス

バージョン 2.9 では、サードパーティ製アプリケーションを必要とせずに Call Bridge API の使用を簡素化するために、Call Bridge API 用のユーザーインターフェイスを導入しました。このインターフェイスには、Meeting Server Web インターフェイスの **[設定 (Configuration)]** タブからアクセスできます (図 2 を参照)。

バージョン 3.3 で導入されたスケジューラ API は、このインターフェイスではサポートされていません。[スケジューラ API へのアクセス](#)を参照してください。

図 2 : Meeting Server Web インターフェイスを介した Call Bridge API へのアクセス



注：構成済みの API オブジェクトを削除する場合は、画面右側にある [削除を許可 (Allow delete)] を選択します。デフォルトでは削除は許可されておらず、意図しない削除を防止するために [削除の確認を要求 (Require delete confirmation)] がオンになっています。

3.4 使用するサードパーティツール

カスタムソフトウェア、ビルド済みライブラリ、コマンドラインツール、GUI ベースの Web/REST ユーティリティなど、適切にフォーマットされた HTTPS リクエストを生成できるソフトウェアであれば、Meeting Server API との対話に使用できます。RESTful API の場合、REST API とのやり取りを簡素化するための既製のツールがオンラインで利用できるようになりました。

Meeting Server で動作することがわかっている一般的なサードパーティツールの例には、次のものがあります。

- Postman – これは、多くの開発ツールと堅牢な要求/応答ツールを備えた Windows、OSX、Linux 用のグラフィカルユーティリティです。
<https://www.getpostman.com/postman>からインストールします。
さらに、<https://github.com/ciscocms/cms-postman-collection> で、Postman での Meeting Server API の使用を簡素化するコミュニティコンテンツを利用できます。これは、コミュニティでサポートされている Meeting Server API 用のビルド済み Postman コレクションです。これには、

Meeting Server API を使用してすばやく起動して実行できるように、事前に入力されたすべての Meeting Server コマンドとプロパティが含まれています。

- RESTer – これは、変数、要求および履歴の保存などの高度な機能をサポートする、Google Chrome 用の軽量のブラウザベースの REST ツールです。Google Chrome ウェブストア (<https://chrome.google.com/webstore/category/extensions>) からインストールします。RESTer のインストールと使用例については、付録 D を参照してください。
- RESTED – これは、Mozilla Firefox 用の使いやすい軽量のブラウザベースの REST ツールで、変数、要求や履歴の保存などの高度な機能をサポートします。Firefox の [アドオン (Add-ons...)] オプションからインストールします。

コマンドラインを使用したい場合や、ご使用の環境にサードパーティのソフトウェアをインストールできない場合に使用できる一般的なールには、次のようなものがあります。

- curl – ほとんどの OSX および Linux インストールで使用可能なコマンドライン Web 要求ユーティリティ。Microsoft Windows にもインストールできます。
- Powershell – Microsoft のコマンドライン スクリプト ツール。すべての最新の Windows インストールでデフォルトで利用でき、より複雑な応答解析のために簡単にスクリプト可能です。

3.4.1 サードパーティの API ツールを使用するためのヒント

- https:// の **URL** を使用し、webbridge ではなく、webadmin がリッスンしているポートを含めるようにしてください。
- ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を検証し、証明書の検証に失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しないか、信頼できない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を見つけるか、API URL の例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。
- 要求で認証と **Basic 認証** が有効になっていることを確認してください。
- POST メソッドおよび PUT メソッドを使用する場合は、要求の **Body** と **Content-Type: x-www-form-urlencoded** を使用してください。
- Meeting Server API は、スペルが間違っている PUT/POST アクションのプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待どおりに実装されていることを確認するために、フォローアップ GET を使用して必ずチェックしてください。
- 結果のセットが大きい場合には、最初のいくつかのエントリ結果以上のエントリを表示するために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があります。
- ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を検証し、証明書の検証に失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しないか、信頼できない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を見つけるか、API URL

API URL の例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。

- 要求で認証と **Basic 認証**が有効になっていることを確認してください。
- POST メソッドおよび PUT メソッドを使用する場合は、要求の **Body** と **Content-Type: x-www-form-urlencoded** を使用してください。
- Meeting Server API は、スペルが間違っている PUT/POST アクションのプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待どおりに実装されていることを確認するために、フォローアップ GET を使用して必ずチェックしてください。
- 結果のセットが大きい場合には、最初のいくつかのエントリ結果以上のエントリを表示するために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があります。

4 API メソッド

メソッドには次の 4 つがあります。

- [GET](#) : 情報を取得します。
- [POST](#) : 階層内に新しいオブジェクトを作成します。
- [PUT](#) : 既存のオブジェクトを変更します。
- [DELETE](#) : ツリー内のオブジェクトを破棄します。

これらの方法については、以下で詳しく説明します。ただし、これらのメソッドを API に伝達するために使用される URL 形式を最初に理解する必要があります。

4.1 URL の形式

個々のオブジェクトをアドレス指定または作成するために、URL 形式はオブジェクトの概念的な階層を反映し、要求が API に対するものであることを識別するためのいくつかの先行タグが追加されています。たとえば、API オブジェクト「/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4」に関する情報を取得するには、次のコマンドを発行する必要があります。

```
GET /api/v1/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4 HTTP/1.1
```

この文字列は次のように構成されています。最上位の「/api」は、オンボード HTTP サーバープロセスがこの HTTP メソッドを通常のブラウザメソッドと区別できることを意味し、「v1」は、要求が API のバージョン 1 を理解するオブジェクトによって行われていることを API ハンドラが認識していることを意味します。

API メソッドが成功すると、Meeting Server から「200 OK」応答が返されます。エラーが発生した場合、Meeting Server は 4xx または 5xx HTTP ステータスコードで応答します。

503（「サービスが利用できません」）ステータスコードは、Meeting Server の一時的な「ビジー」状態のためにサービスを提供できない API 呼び出しに対して返されます。これは、後で同じメソッドを再試行すると有効であることを示している可能性があります。

指定した <coSpace id> が有効な coSpace オブジェクトに対応していない要求には、「404 Not Found」の応答が返されます。

4xx および 5xx エラーの場合、次のような拡張エラー情報が返される場合があります。

```
<failureDetails>  
<coSpaceDoesNotExist/>  
</failureDetails>
```

Call Bridge API では、情報は「text/xml」ボディデータとして返されますが、スケジューラ API では JSON 形式で返されます。

一般に、そのような応答は、「failureDetails」セクションとエラーのリストで構成されます。上記の例では、アクティブな coSpace と一致しない coSpace ID を使用してメソッドが試行されました。考えられる失敗の理由は、[セクション 4.6](#) で説明されています。

4.2 GET メソッド

GET メソッドでは、既存の API アクセス可能なオブジェクトに関する情報を取得できます。このメソッドは、コレクションレベルと個別オブジェクトレベルの 2 つのレベルで使用されます。

4.2.1 コレクションレベル

GET メソッドがコレクションレベル（複数形の名詞：「calls」、「coSpaces」など）で実行される場合、複数の一致する子ノードが取得されます。設計上、これがリスト全体であるとは限りませんが、Meeting Server に存在するそのタイプのオブジェクトの総数は、このメカニズムを介して知ることができます。

特定のアイテムのみを取得するために、コレクションレベルのほとんどの GET メソッドでは、フィルタ式を使用できます。したがって、管理ツールのインターフェイスは、最初に API ユーザーに coSpace の合計数（例）、最初の「N」個の coSpace の基本的な詳細（名前など）、人間のユーザーが対象となる特定の coSpace（複数可）の検索に使用できるフィルタボックスを表示します。

他の追加パラメータがない場合、コレクションレベルの GET メソッドは、Meeting Server の名目上の全リストの先頭からアイテムを返します。返されたアイテムの数を「合計」値と比較することにより、すべての要素が返されたかどうかを簡単に判断できます（返された要素の数が「合計」値と等しいかどうか）。

4.2.2 コレクションレベルで制限とオフセットを使用する

返される要素の数は、API リクエストに「limit=<limitValue>」を含めることで、リクエスト送信者が選択した上限で制限することができます。これにより、指定された「limitValue」数以下の要素が返されることが保証されます。ただし、この場合にも、Meeting Server には独自の制限があり、したがって、返される要素の数は、指定された「limitValue」の数と Meeting Server 独自の制限よりも少なくなります。

Meeting Server の名目上のリストの最初の「n」個以外の要素を取得するには、API リクエストで「offset=<offsetValue>」を指定することもできます。これにより、Meeting Server は、リスト内の指定された位置から始まる要素を返し、最初の「offsetValue」数の要素をスキップします。「offsetValue」がそのタイプのオブジェクトの数より大きい場合、要素は返されません。

注：オフセット値は、大きな全リストを取得するための一般的なメカニズムと見なされるべきではありません。これらのメソッドの合間にオブジェクトが削除または追加された場合、データの 1 つの「ページ」とそれに続く 2 番目の「ページ」の順次取得は、必ずしも同じ全リストで動作するとは限りません。

要求と応答ごとに、要求送信者は使用されるオフセットと制限値を常に把握しておき、この知識を、応答で返される要素の数と、Meeting Server によって示される「合計」と組み合わせることが期待されます。リクエスト送信者が指定した「offsetValue」と返された要素の数を合わせた値が、応答で示された「合計」値よりも少ない場合、

さらに値が存在することがわかります。次の表に、いくつかの例を示します。

表 1: リクエスト送信者のオフセット/制限の例

要求送信者のオフセット	リクエスト送信者の制限	XML 応答	意味
<not supplied>	<not supplied>	<coSpaces total="7"> <cospace /> x 7 </coSpaces>	すべての coSpace (0 ~ 6) が応答に含まれている
<not supplied>	1	<coSpaces total="7"> <cospace /> x 1 </coSpaces>	最初の coSpace が応答に含まれている
4	10	<coSpaces total="7"> <cospace /> x 3 </coSpaces>	coSpaces 4 ~ 6 が応答に含まれている
0	100	<coSpaces total="53"> <cospace /> x 10 </coSpaces>	Meeting Server は、リクエスト送信者が上限を 100 に指定しているにもかかわらず、レスポンスを内部制限の 20 に制限しています。
20	10	<coSpaces total="53"> <cospace /> x 10 </coSpaces>	Meeting Server はリクエスト送信者のオフセットと制限を受け入れ、スペース 20..29 を返します。

注: 次の GET 制限が適用されます。

- /api/v1/coSpaces - 20
- /api/v1/calls - 10

4.2.3 個々のオブジェクトレベル

GET メソッドが個々のオブジェクトレベルで実行されると、その 1 つのオブジェクトのみに関する完全な情報が返されます。たとえば、coSpace の一意の ID が「/coSpaces」ノードの GET (フィルタ処理されている可能性がある) を介して学習された後、後続の「/coSpaces/<coSpace id>」ノードは、その 1 つの coSpace に関する拡張情報を返します。

4.2.4 HTTP の詳細

GET メソッドには、完全なノードの場所と、API ユーザーによって指定された URI で実行される取得に固有のパラメータが含まれています。例えば、

最初の「N」個の coSpace の基本情報を取得する場合、URI は次のようになります。

/api/v1/coSpaces

名前に「sales」が含まれているものだけをリストするには、GET は次のように実行されます。

/api/v1/coSpaces?filter=sales

GET メソッドが成功し、「200 OK」応答が返された場合、Meeting Server は取得した情報を「text/xml/json（スケジューラ API の場合）」ボディデータとして返します。

4.2.5 このマニュアルでの GET メソッドの詳細の説明方法

コレクションレベルの各 GET メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- 上記のフィルタ、オフセット、制限などのフォームパラメータのテーブル。一部はオプションの場合があります。必須のパラメータは、アスタリスク (*) 付きで示されます。
- 返される情報を示した表

どちらの表も、パラメータの形式（ID または文字列など）または可能な値（true|false など）を示しています。

個々のオブジェクトレベルの各 GET メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- 返される情報を示した表

特に明記しない限り、フォームパラメータはコレクションレベルのパラメータです。

4.3 POST メソッド

POST メソッドは新しいオブジェクトを作成します。たとえば、新しい構成済みの coSpace またはダイヤルプランルールを作成します。POST メソッドを使用して、coSpace に関連付けられた新しいコールレグを作成することは、新しいアウトバウンド SIP 接続を作成する方法です。

4.3.1 HTTP の詳細

ほとんどの POST メソッドでは、いくつかのパラメータを指定する必要があります。たとえば、coSpace を作成するには、新しい coSpace の名前を指定する必要があります。新しいコールレグは、リモート側のアドレスがわかっている場合にのみ作成できます。このようなパラメータは、POST メソッドのイニシエータによって、HTML ドキュメントの「<form>」要素で使用される標準の HTTP 「x-www-form-urlencoded」形式を介して指定される必要があります。

POST メソッドが新しいオブジェクトを階層に追加することに成功した場合、そのオブジェクトの ID と階層内の位置が応答の「Location」フィールドで返されます。

4.3.2 このマニュアルでの POST メソッドの詳細の説明方法

各 POST メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- フォームパラメータのテーブル。一部はオプションの場合があります。必須のパラメータは、アスタリスク (*) 付きで示されます。
- パラメータの形式 (ID または文字列など) または可能な値 (true|false など)。必要に応じて、パラメータのデフォルト値 (パラメータを指定しない場合に使用される値) が太字で表示されます (例 : **true|false**) 。

4.4 PUT メソッド

PUT メソッドは既存のオブジェクトを変更します。たとえば、coSpace の名前の変更、特定のコールレグのミュート、またはレイアウトの変更です。

一般に、オブジェクトで PUT を使用する場合は次のようにします。

- 値を変更しない場合はパラメータを省略します。
- 新しい値を持つパラメータを使用して、この値に変更します。値を設定解除するには、空の値を指定します。たとえば、coSpace からテナントの関連付けを削除するには、「tenant=」を含むパラメータセットを使用してその coSpace を変更します。

4.4.1 HTTP の詳細

要求のパラメータは、「x-www-form-urlencoded」形式で提供する必要があります。

4.4.2 このマニュアルでの PUT メソッドの詳細の説明方法

各 PUT メソッドは、同じオブジェクトの POST メソッドと同じセクションにあります。たとえば、coSpace の作成と変更は一緒に処理されます。オブジェクトを変更する (PUT) ためのフォームパラメータは、POST メソッドと異なる場合にのみ注記されます。たとえば、callLegs などです。

4.5 DELETE メソッド

DELETE メソッドは、階層から個々のオブジェクトを削除します。たとえば、コールレグの接続を解除する、ユーザーを coSpace から関連付け解除してユーザーをメンバーから外すなどです。

したがって、DELETE メソッドは通常、個々のレベルで実行されます。たとえば、次に対して DELETE を実行します。

```
/api/v1/coSpace/<id>/accessMethods/<id>
```

オブジェクトの ID は、コレクションレベルでの以前の取得 (GET) メソッドから、または以前の作成 (PUT) メソッドへの応答の「Location」フィールドからわかります (coSpace はコレクションレベルで削除できます) 。

オブジェクトが正常に削除されると、Meeting Server は「200 OK」応答を送信します。

このメソッドは比較的単純であるため、このドキュメントの他の場所では詳しく説明しません。ただし、チャットメッセージの削除と、スケジューラ API の会議とイベントの削除については、説明があります。

4.6 障害理由

次の「failureDetails」コードは、ユーザーエラーに回答して、上記のメソッドのいずれかの API によって返される可能性があります。

```
<failureDetails>
<tenantDoesNotExist />
</failureDetails>
```

注：[このセクションで説明されている](#)エラーコードは、Call Bridge API に固有のものです。スケジューラの応答コードについては、[このセクションを参照してください](#)。

理由コード	説明
accessMethodDoesNotExist	有効なアクセス方式に対応しない ID を使用して、accessMethod を変更または削除しようとしてしました。 コールの coSpace に対応しないアクセス方式でコールレックまたは参加者の作成を試行しました（バージョン 3.2 以降）
callBrandingProfileDoesNotExist	有効なコールブランディング プロファイルに対応しない ID を使用して、コールブランディング プロファイルを変更または削除しようとしてしました。
callBridgeDoesNotExist	クラスタ化された有効な Call Bridge に対応しない ID を使用して、設定済みのクラスタ化された Call Bridge を変更または削除しようとしてしました。
callBridgeGroupDoesNotExist	有効な Call Bridge グループに対応しない ID を使用して、Call Bridge グループを変更、削除、または使用しようとしてしました（バージョン 2.1 以降）。
callBridgeGroupUnavailable	使用できない、またはコールを受け入れることができない Call Bridge グループに参加者を作成しようとしてしました（バージョン 2.2 以降）。
callBridgeUnavailable	使用できない、またはコールを受け入れることができない Call Bridge で参加者を作成しようとしてしました（バージョン 2.2 以降）。
callDoesNotExist	現在アクティブなコールに対応していない ID を使用して、コールオブジェクトでメソッドを実行しようとしてしました。
callRecordingCannotBeModified	変更できないコールの録画を開始/停止しようとしてしました。

理由コード	説明
callStreamingCannotBeModified	変更できないコールのストリーミングを開始/停止しようとしてしました (バージョン 2.1 以降)。
callLegCannotBeDeleted	削除できないコールレッグを削除しようとしてしました。
callLegDoesNotExist	現在アクティブなコールレッグに対応しない ID を使用して、コールレッグオブジェクトでメソッドを実行しようとしてしました。
callLegProfileDoesNotExist	有効なコールレッグプロファイルに対応しない ID を使用して、callLegProfile を変更または削除しようとしてしました。
callProfileDoesNotExist	無効な ID を使用して、callProfile を変更または削除しようとしてしました。
cdrReceiverDoesNotExist	有効な CDR レシーバに対応しない ID を使用して、CDR レシーバを変更または削除しようとしてしました。
coSpaceAccessMethodTemplateDoesNotExist	システム上の有効な coSpace アクセス方式テンプレートと対応していない ID を使用して、coSpace アクセス方式テンプレートを変更、削除、または取得しようとしてしました (バージョン 2.9 以降)。
coSpaceCallDoesNotExist	coSpace に関連付けられていないコールにコールレッグまたは参加者 (指定されたアクセス方式を使用して) の作成を試行しました。 (バージョン 3.2 以降)
coSpaceDoesNotExist	システム上の有効な coSpace と対応していない ID を使用して、coSpace を変更または削除しようとしてしました。
coSpaceTemplateDoesNotExist	システム上の有効な coSpace テンプレートと対応していない ID を使用して、coSpace テンプレートを変更、削除、または取得しようとしてしました (バージョン 2.9 以降)。
coSpaceUserDoesNotExist	有効な coSpace ユーザーに対応しない ID を使用して、coSpace ユーザーを変更または削除しようとしてしました。
databaseNotReady	データベースの準備が整う前にメソッド (LDAP 同期メソッドの開始など) を試行しました。
dialInSecurityProfileDoesNotExist	有効なダイヤルインセキュリティプロファイルに対応しない ID を使用して、ダイヤルインセキュリティプロファイルを変更、削除、または取得しようとしてしました (3.0 以降)
directorySearchLocationDoesNotExist	有効なディレクトリ検索場所に対応しない ID を使用して、ディレクトリ検索場所を参照、変更、または削除しようとしてしました。
dtmfProfileDoesNotExist	有効な DTMF プロファイルに対応しない ID を使用して、DTMF プロファイルを参照、変更、または削除しようとしてしました。

理由コード	説明
duplicateCallBridgeName	クラスタ化された Call Bridge を作成または変更して、既存の設定済みのクラスタ化された Call Bridge と競合する名前を使用しようとした。
duplicateCoSpaceId	別の coSpace で使用されているコール ID と競合するコール ID を使用するように、coSpace コール ID を作成または変更しようとした。
duplicateCoSpaceUri	別の coSpace に対応する URI と衝突する URI を使用する coSpace を作成または変更しようとした (Meeting Server は着信コールを coSpace URI に一意に解決できる必要があるため、2 つの coSpace が同じ URI を共有することはできません)。
duplicateCoSpaceIdPasscode	coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されている別のコール ID/パスコードと競合するコール ID/パスコードの組み合わせを使用して、coSpace を変更しようとしたか、または coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。
duplicateCoSpaceUriPasscode	coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されている URI/パスコードの組み合わせと競合する URI/パスコードの組み合わせを使用して、coSpace を変更しようとしたか、coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。
duplicateCoSpaceSecret	coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されているシークレットと競合するシークレットを使用して、coSpace を変更しようとしたか、coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。
duplicateUserCoSpaceTemplate	ユーザーに対して同じ coSpace テンプレートを 2 回割り当てようとした。
forwardingDialPlanRuleDoesNotExist	有効な転送ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、転送ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。
inboundDialPlanRuleDoesNotExist	有効な着信ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、着信ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。
inboundDialPlanRuleUriConflict	着信ダイヤルプランルールに URI の競合の原因となる変更を加えようとした。たとえば、これは、複数のテナントに一致するルールを追加しようとして、複数のテナントに同じ URI の coSpace がある場合に発生する可能性があります。

理由コード	説明
invalidOperation	サポートされていない操作を試みました。たとえば /api/v1/system/profiles を実行するか、LDAP 同期から生成された設定済みユーザーに対して DELETE を発行します。
invalidValue	言語パラメータとして空の文字列または無効な文字を入力しました。
invalidVersion	無効な API バージョンで操作を試みました。
ivrBrandingProfileDoesNotExist	システム上の有効な IVR ブランドプロファイルに対応しない ID を使用して、IVR ブランドプロファイル オブジェクトを変更または削除しようとした。
ivrDoesNotExist	システム上の有効な IVR に対応しない ID を使用して、IVR オブジェクトを変更または削除しようとした。
ivrNumberDoesNotExist	有効な IVR 番号に対応していない ID を使用して、IVR 番号を変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。
ivrUriConflict	IVR オブジェクトに URI の競合を引き起こす変更を加えようとした。
layoutTemplateDoesNotExist	システム上の有効なレイアウトテンプレートと対応していない ID を使用して、レイアウトテンプレートを変更、削除、または取得しようとした (バージョン 2.8 以降)。
layoutTemplateDescriptionTooLong	許容サイズを超えるレイアウトテンプレートの説明を設定しようとした (バージョン 2.8 以降)。
ldapMappingDoesNotExist	有効な LDAP マッピングに対応しない ID を使用して、LDAP マッピングを変更または削除しようとした。
ldapServerDoesNotExist	有効な LDAP サーバーに対応しない ID を使用して、LDAP サーバーを変更または削除しようとした。
ldapSourceDoesNotExist	有効な LDAP ソースに対応しない ID を使用して、LDAP ソースを変更または削除しようとした。
ldapSyncCannotBeCancelled	開始または完了した LDAP 同期を取り消そうとした。取り消すことができるのは、まだ開始されていない LDAP 同期メソッドのみです。
ldapSyncDoesNotExist	有効な LDAP 同期に対応しない ID を使用して、LDAP 同期を照会またはキャンセルしようとした。
ldapUserCoSpaceTemplateSourceDoesNotExist	既存の LDAP ユーザー coSpace テンプレートのソースエントリに対応していない ID を使用して、削除または取得しようとした (バージョン 2.9 以降)。

理由コード	説明
ldapUserProvisionedCoSpaceMappingDoesNotExist	有効な LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace マッピングに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace マッピングを変更または削除しようとした (バージョン 3.1 以降)。
ldapUserProvisionedCoSpaceSourceDoesNotExist	有効な LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace ソースに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace ソースを変更または削除しようとした (バージョン 3.1 以降)。
loadBalancingDisabled	発信コールのロードバランシングが無効になっている Call Bridge グループに参加者を作成しようとした (バージョン 2.2 以降)。
maxNumberOfWebBridgeAddressesReached	許可されるエントリの最大数がすでに定義されている Web Bridge プロファイルに新しい Web Bridge アドレスを追加しようとした。追加できるようにするには、1 つ削除してください (バージョン 3.1 以降)。
maxNumberOfivrNumbersReached	許可されるエントリの最大数がすでに定義されている Web Bridge プロファイルに新しい IVR 番号を追加しようとした。追加できるようにするには、1 つ削除してください (バージョン 3.1 以降)。
messageDoesNotExist	有効な coSpace メッセージに対応しない ID を使用して、coSpace メッセージを削除しようとした。
outboundDialPlanRuleDoesNotExist	有効な発信ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、発信ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。
parameterError	リクエストのパラメータが 1 つまたは複数無効であることが判明しました。サポートされているパラメータとエラーの値により、失敗の詳細がわかります。
participantCannotBeDeleted	リモートでホストされている参加者など、削除できない参加者を削除しようとした。
participantCannotBeModified	リモート展開でホストされている参加者など、変更できない参加者を変更しようとした。
participantLimitReached	コールに許可されている最大数を超過して、新しい参加者を追加しようとした。
passcodeTooShort	coSpace または coSpace アクセス方式にパスコードを設定しようとしたが、その長さが有効なダイヤルインセキュリティ プロファイルで指定されているパスコードの最小許容長に準拠していません (3.0 以降)

理由コード	説明
recorderDoesNotExist	有効なレコーダーに対応していない ID を使用して、レコーダーを変更または削除しようとした。
recordingNotAllowedByLicensing	正しいライセンスを持たずに録画を開始しようとした（以前は recordingLimitReached）（3.0 以降）。
retryAfter	サーバーがビジー状態であるか、外部でホストされているテンプレートを取得しているときに、テキストベースの会議エントリ情報を取得しようとした。 後で再試行するか、 retryAfter 秒後に再試行してください。
streamerDoesNotExist	有効なストリーマに対応しない ID を使用して、ストリーマを変更または削除しようとした（バージョン 2.1 以降）。
streamingNotAllowedByLicensing	正しいライセンスを持たずにストリーミングを開始しようとした（以前は streamingLimitReached）（3.0 以降）。
tenantDoesNotExist	有効なテナントに対応しない ID を使用してテナントを変更または削除しようとした。
tenantGroupCoSpaceIdConflict	テナントグループを削除または使用するリクエストにより、coSpace ID の競合が発生しました。
tenantGroupDoesNotExist	存在しないテナント グループを変更、削除、または使用しようとした。
tenantParticipantLimitReached	所有テナントに許可されている最大数を超えて、新しい参加者を追加しようとした。
tooManyCdrReceivers	最大数の CDR レシーバがすでに存在しているときに、新しい CDR レシーバを追加しようとした。現在、最大 2 つの CDR レシーバがサポートされています。
tooManyLdapSyncs	新しい LDAP 同期メソッドを作成するメソッドが失敗しました。後でもう一度試してください。なお、ldapSyncs テーブルは 10 エントリに制限されています。エラーが引き続き発生する場合は、古い完了済みの ldapSync を削除してみてください。
unrecognisedObject	アクセスしている URI に認識されない要素があります。たとえば、/api/v1/system/profile で GET を実行しようとしたなど（正しくは /api/v1/system/profiles）。
userCoSpaceTemplateDeletionProhibited	自動生成された coSpace テンプレートをユーザーから取り消そうとしたが、これは許可されていません（バージョン 2.9 以降）。

理由コード	説明
userCoSpaceTemplateDoesNotExist	ユーザーに対して有効なユーザー coSpace テンプレートと対応していない ID を使用して、ユーザー coSpace テンプレートを変更、削除、または取得しようとした (バージョン 2.9 以降)。
userDoesNotExist	有効なユーザーに対応しない ID を使用して、ユーザーを変更または削除しようとした。
userProfileDoesNotExist	有効なユーザープロフィールに対応しない ID を使用して、ユーザープロフィールを変更しようとした。
valueTooLong	入力した言語パラメータが長すぎます。
userProvisionedCoSpaceDoesNotExist	ユーザーに対して有効なユーザープロビジョニングされた coSpace と対応していない ID を使用して、ユーザープロビジョニングされた coSpace をインスタンス化、変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。
webBridgeAddressDoesNotExist	有効な Web Bridge アドレスに対応していない ID を使用して、Web Bridge アドレスを変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。
webBridgeProfileDoesNotExist	有効な Web Bridge プロファイルに対応していない ID を使用して、Web Bridge プロファイルを変更、削除、または取得しようとした (3.0 以降)

5 特定のメソッドのリクエストとレスポンスの例

5.1 現在アクティブなコールの取得

セクション 4.2 で説明したように、GET を使用した取得メソッドには、取得者によって投稿された本文コンテンツは含まれません。要求が有効な場合、Meeting Server は XML 応答データを返します。

リクエスト：

```
GET /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n
Host: test.example.com\r\n
User-Agent: API console\r\n
Connection: keep-alive\r\n
Authorization: Basic Ym9iOmJ1aWxkZXI=\r\n
\r\n
```

応答：

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml
Content-Length: 187
Connection: close
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<calls total="1">
<call id="527089d6-6581-4331-8417-971c05c9e274">
<name>Sales coSpace</name>
<coSpace>2dcf2b7a-3410-4066-b638-46273698d469</coSpace>
</call>
</calls>
```

5.2 新しいコールをインスタンス化し、参加者をそのコールに接続する

前述のとおり、作成メソッドに必要なパラメータ（ここではリモート側のアドレス）は、発行者からフォームデータとして提供される必要があります。要求が成功すると、新しいオブジェクトに関する詳細が Meeting Server から「Location」ヘッダーフィールドに返されます。

1. フィルタ処理された coSpace 列挙を使用して「Development Team」を見つけます：要求：

```
GET /api/v1/coSpaces?filter=Development%20Team HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
\r\n
```

応答：

```

HTTP/1.1 200 OK\r\n
Content-Type: text/xml\r\n
Content-Length: 197\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<coSpaces total="1">
<coSpace id="581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3"><name>Development
Team</name><autoGenerated>false</autoGenerated><uri>dev_
team</uri></coSpace>
</coSpaces>

```

2. 列挙応答で見つかった一致する coSpace 581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3 を使用して、coSpace からのコールをインスタンス化します。

リクエスト :

```

POST /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n
Content-Length: 44\r\n
\r\n
coSpace=581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3

```

応答 :

```

HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a\r\n
Connection: close\r\n
\r\n

```

3. コール "/api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a" が正常にインスタンス化されました。次に、新しくインスタンス化されたコールからのコールアウトとして参加者を作成します。

要求 :

```

POST /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a/participants
HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n
Content-Length: 33\r\n
\r\n
remoteParty=username1@example.com

```

応答 :

```

HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac\r\n
Connection: close\r\n
\r\n

```


4. 参加者 `/api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac` が正常に作成されました。

6 coSpace 関連のメソッド

注：Web アプリケーションおよび他の Cisco Meeting Server ガイドでは、「coSpaces」ではなく「spaces」に言及していますが、API は引き続き /coSpace オブジェクトを使用します。Web 管理インターフェイスは、「スペース」を参照するように変更されました。

この章では、coSpace の管理に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [coSpace を取得する](#)
- [coSpace を作成および変更する](#)
- [単一の coSpace に関する詳細情報を取得する](#)
- [coSpace のメンバーの取得](#)
- [coSpace メンバーの追加と変更](#)
- [coSpace アクセス方式の取得](#)
- [coSpace アクセス方式を作成および変更する](#)
- [coSpace からのコール](#)
- [coSpace の一括作成、更新、削除](#)
- [coSpace の診断](#)
- [coSpace テンプレートの使用](#)
- [アクセス方式テンプレートの使用](#)
- [coSpace に関するテキストベースの会議エン트리情報の取得](#)
- [coSpace でメタデータを設定する](#)

6.1 coSpace を取得する

"/coSpaces" ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace テンプレートのみが返されます。
tenantFilter	ID	tenantFilter=<tenant id> を指定すると、そのテナントに関連付けられた coSpace のみが返されます。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のみが返されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
spaceTag	文字列	特定の CoSpace に付与されたタグの名前。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大 10 文字です。

応答には、応答内で返される数に関係なく、フィルタに一致する（指定した場合）現存の coSpace の総数が含まれます。（フィルターを使用しない場合、この値は構成済みの coSpace の合計数です）。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpace id	ID	<p>応答は、最上位の <coSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <coSpace> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><coSpace> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>開始タグで返される「ID」値は、coSpace の一意の識別子であり、その coSpace での今後の変更/削除/照会メソッドに使用できます。</p>
name	文字列	人間が読める、クライアントの UI に表示されるこの coSpace の名前。最大長は 200 文字です。
uri	文字列	<p>SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 URI は「.」および「-」で開始または終了することはできません。また、一緒に使用することも、連続して複数使用することもできません。
secondaryUri	文字列	<p>この coSpace のセカンダリ URI : これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。secondaryURI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 URI は「.」で開始または終了することはできません。および「-」;同時に使用することはできません。連続して複数回使用することはできません。
callId	数字	ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で（または Web クライアント経由で）入力する数値 ID。最大長は 200 桁です。
tenant	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
autoGenerated	true false	<p>この coSpace が自動で追加されたか、手動で追加されたか</p> <ul style="list-style-type: none"> true : この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 false : この coSpace は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。API を介して変更または削除できます

6.2 coSpace を作成、変更する

- 作成：「/coSpaces」ノードに対する POST メソッド。coSpace が正常に作成された場合、「200 OK」応答が返され、「Location」ヘッダーには新しい coSpace の ID が含まれます。
- 変更：「/coSpaces/<coSpace ID>」ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
userProvisionedCoSpace	ID	ユーザーがプロビジョニングした coSpace からの新しい coSpace のインスタンス化このパラメータが存在する場合、他のすべてのパラメータは無視されます。(バージョン 3.1 以降)
name	文字列	人間が読める、UI に表示されるこの coSpace のクライアントの名前。最大長は 200 文字です。
uri	文字列	SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 • URI は「.」および「-」で開始または終了することはできません。また、一緒に使用することも、連続して複数使用することもできません。
secondaryUri	文字列	この coSpace のセカンダリ URI：これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。secondaryURI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 • URI は「.」および「-」で開始または終了することはできません。また、一緒に使用することも、連続して複数使用することもできません。
callId	数字	ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で (または Web クライアント経由で) 入力する数値 ID。このパラメータの最大長は 200 桁です。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
cdrTag	文字列	CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式のテキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生成されると、このタグが callStart CDR に（「cdrTag」として）書き込まれます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。
passcode	数値	この coSpace のセキュリティコード。最大 63 桁。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	この coSpace の新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API と Web 管理インターフェイスの命名の違いについては、「 デフォルトのレイアウトオプション 」を参照してください。空白のままにすると、 に関連付けられた /callLegProfile の設定が使用されます。
tenant	ID	指定されている場合は、指定されたテナントをこの coSpace に関連付けます。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
callProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールブランディングをこの coSpace に関連付けます。
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpace に関連付けます (3.0 以降)。
requireCallId	true false	この値が true として提供され、現在 coSpace に callId が指定されていない場合、自動生成された新しいコール ID が割り当てられます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
secret	文字列	指定されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、coSpace へのゲストアクセスのために callId とともに提供する必要がある、coSpace に関連付けられたセキュリティ値です。
regenerateSecret	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true として指定された場合：この coSpace に新しいセキュリティ値が生成され、以前の値は無効になります（たとえば、以前の値を含むハイパーリンクは機能しなくなります）。 - false として指定された場合：この coSpace に新しいシークレット値が生成されません。これには何の効果もありません。 <p>このパラメータは、変更（PUT）の場合にのみ有効です。</p>
nonMemberAccess	true false	coSpace のメンバー以外が coSpace にアクセスできるかどうかを制御します。指定しない場合、動作はデフォルトで true になります。（バージョン 2.0 より）
ownerJid	文字列	指定された JID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。（バージョン 2.0 以降）
streamUrl	URL	ストリーミングが開始された場合、coSpace のストリーミング先を示します。（バージョン 2.1 以降）
ownerAdGuid	ID	指定されている場合、coSpace は、指定された AD GUID を持つユーザーによって所有されます。（バージョン 2.1 以降）
meetingScheduler	文字列	この coSpace の作成をスケジュールした人物（ユーザーである必要はありません）の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとして任意のコールオブジェクトに伝達されます。（バージョン 2.2 以降）
panePlacementHighestImportance	数字	panePlacementHighestImportance が指定されている場合、この coSpace に対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1（最大値と 1 を含む）までです。（バージョン 2.4 以降）

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>ペイン配置がアクティブになっている場合、これは、エンドポイントの独自のレイアウトペインを表示するときのこの coSpace のレイアウト動作を定義します。(バージョン 2.7 以降)</p> <p>skip : 2.7 より前のバージョンの動作と同じですが、システム自体の重要度レベルを表示するためのペインをレイアウトに含めません (デフォルト)。</p> <p>self - 視聴エンドポイントのビデオを自分自身に対して表示します。</p> <p>blank : 空白のペインを残して、他の参加者が表示するエンドポイントのビューアを示します。</p> <p><unset> - 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、 /coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する (コールがスペース宛ての場合)</p> <p>/coSpace の panePlacementHighestImportance も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されます。</p>
defaultAccessMethod	ID ""	<p>ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセスメソッドとして、指定されたアクセスメソッドを関連付けます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<ul style="list-style-type: none"> allowself - 参加者がアクティブな発言者である場合、ペインの配置によって設定されたペインに参加者を表示することに加えて、最初のペインに参加者を表示します。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself - アクティブな発言者以外の他のすべての参加者の最初のペインにアクティブな発言者を表示します。アクティブなスピーカーの場合、前のスピーカーが最初のペインに表示されます。 none - 機能は無効です。
spaceTag	文字列	特定の CoSpace に付与されたタグの名前。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大 10 文字です。

注：この PUT を使用して、Web アプリで作成された coSpace の値を変更することもできます。たとえば、coSpace は、それを作成したユーザーの cdrTag を使用して作成されますが、API 呼び出しでその値を変更できます（これは、API 呼び出しで更新できない自動生成された coSpace の cdrTag とは異なります）。

デフォルトのレイアウトオプション

defaultLayout オプションの命名は、API と Web 管理インターフェイスの [設定 (Configuration)] > [coSpaces] ページの間で異なります。「マッピング」は下の表のとおりです。

API	Web 管理インターフェイス
allEqual	すべて等しい
speakerOnly	全画面表示
telepresence	オーバーレイ（音量が最も大きい発言者が大きなペインに表示され、その前に話した数人の参加者が小さいペインに表示されて音量が最も大きい発言者のペインの下部にオーバーレイされます）。
stacked	スタック（音量が最も大きい発言者が大きなペインに表示され、その前に話した数人の参加者が音量が最も大きい発言者のペインの下の小さなペインに表示されます）。

6.2.1 セカンダリ coSpace URI

上記のように、coSpace ごとに、オプションの secondaryUri パラメータがあります。これにより、名前だけでなく数字によるダイヤリングなど、柔軟性が得られます。

- coSpace を作成または変更する場合（前のセクションを参照）、上の表のフォームパラメータに加えて secondaryUri パラメータを指定できます（例: uri）。
- セカンダリ URI は、URI と同じ方法で有効性と一意性がチェックされ、有効な場合、coSpace に到達できる新しい URI が確立されます。
- 個々の coSpace（下記を参照）に関する情報を取得する際、この coSpace に対して定義されている場合は secondaryUri 値が返されます。
- 新しい LDAP マッピングパラメータが使用されている場合は、LDAP 同期中に secondaryUri を自動的に作成できます。詳細については、「[coSpaceSecondaryUriMapping](#)」を参照してください。

6.2.2 coSpace callId の自動生成

coSpace の作成 (POST) または変更 (PUT) メソッドを介して「requireCallId=true」が設定され、現在 coSpace に callId が指定されていない場合、新しい自動生成されたコール ID が割り当てられます。

6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する

GET メソッドは「/coSpaces/<coSpace ID>」ノードで実行されます。指定された coSpace ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。この応答には、作成と変更のケースについて上記で説明したとおりのデータを持つ 1 つの「<coSpace id=<ID>」オブジェクトが含まれます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、クライアントの UI に表示されるこの coSpace の名前。最大 200 文字。
uri	文字列	SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 ・ URI は「.」および「-」で開始または終了することはできません。また、一緒に使用することも、連続して複数使用することもできません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
secondaryUri	文字列	<p>この coSpace のセカンダリ URI : これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。secondaryURI には、次の基準で最大 200 文字の英数字を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」「-」「_」のみです。 • URI は「.」および「-」で開始または終了することはできません。また、一緒に使用することも、連続して複数使用することもできません。
callId	数字	<p>ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で（または Web クライアント経由で）入力する数値 ID。このパラメータには、最大 200 桁を指定できます。</p>
cdrTag	文字列	<p>CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式のテキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生成されると、このタグが callStart CDR に（「cdrTag」として）書き込まれます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。</p>
passcode	数値	<p>この coSpace のセキュリティコード。最大 63 桁。</p>
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	<p>この coSpace の新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API と Web 管理インターフェイスの命名の違いについては、デフォルトのレイアウトオプションを参照してください。</p>
tenant	ID	<p>指定されている場合は、指定されたテナントをこの coSpace に関連付けます。</p>
callLegProfile	ID	<p>指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace に関連付けます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
callProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールブランディングをこの coSpace に関連付けます。
autoGenerated	true false	これは、LDAP 同期操作の一部として coSpace が自動的に追加されたかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 ■ false : この coSpace は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。API を介して変更または削除できます
nonMemberAccess	true false	coSpace のメンバー以外が coSpace にアクセスできるかどうか。指定されていない場合、動作はデフォルトで true になります。(バージョン 2.0 以降)
numAccessMethods	数字	この coSpace に追加のアクセス方式が定義されている場合は、coSpace の追加のアクセス方式の数を返します。
secret	文字列	指定されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、coSpace へのゲストアクセスのために callId とともに提供する必要がある、coSpace に関連付けられたセキュリティ値です。
ownerId	ID	指定された GUID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。(バージョン 2.0 以降)
ownerJid	文字列	指定された JID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。(バージョン 2.0 以降)
streamUrl	URL	ストリーミングが開始された場合、coSpace のストリーミング先を示します。(バージョン 2.1 以降)
meetingScheduler	文字列	この coSpace の作成をスケジュールした人物 (ユーザーである必要はありません) の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとして任意のコールオブジェクトに伝達されます。(バージョン 2.2 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementHighestImportance	数字	指定されている場合、この特定の coSpace に対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1（最大値と 1 を含む）までです。（バージョン 2.4 から）
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>この coSpace に対してセルフペインモードがアクティブ化されているかどうかを示します。（バージョン 2.7 以降）</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます（デフォルト）。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset> - 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する（コールがスペース宛ての場合）</p> <p>/coSpace の panePlacementHighestImportance も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されます。</p>
defaultAccessMethod	ID ""	ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセス方式。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<p>この coSpace のアクティブな発言者が表示されるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> allowself - 参加者がアクティブな発言者である場合、ペインの配置によって設定されたペインに参加者を表示することに加えて、最初のペインに参加者を表示します。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself - アクティブな発言者以外の他のすべての参加者の最初のペインにアクティブな発言者を表示します。アクティブなスピーカーの場合、前のスピーカーが最初のペインに表示されます。 none - 機能は無効です。
spaceTag	文字列	特定の CoSpace に付与されたタグの名前。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大 10 文字です。

6.3.1 特定の coSpace のエントリの詳細を取得する

2.1 から、"meetingEntryDetail" ノードが追加され、特定の coSpace 会議のエントリの詳細を取得できるようになりました。/coSpaces/<coSpace id>/meetingEntryDetail で GET を実行します。

応答値は uri と callId です。

6.4 coSpace メンバーメソッド

6.4.1 coSpace のメンバーを取得する

GET メソッドの場所：「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers」 ノード上。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace テンプレートのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<ID> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用しているメンバーのみが返されます。

応答には、応答内で返された数に関係なく、照会された coSpace に対して構成され、フィルタに一致する coSpace ユーザーの合計数が含まれます（フィルタを使用しない場合、この値は coSpace に関連付けられたユーザーの総数です）。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		<p>応答は、最上位のタグ内に複数の要素を含めることができます。</p> <pre><coSpaceUsers total="N"><coSpaceUser></pre> <p><coSpaceUser> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p>
coSpaceUser id	ID	<coSpaceUser> 要素には独自の ID があり、ユーザーの ID も含まれています。
userJid	文字列	ユーザーの XMPP ID。
userId	ID	coSpace アソシエーションとの関係を持たないユーザーを識別します。"coSpaceUser" オブジェクトの ID と同じである場合と異なる場合があります。
autoGenerated	true false	<p>この coSpace ユーザーが自動で追加されたか、手動で追加されたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpaceUser は、LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されています。したがって、同期操作のパラメータを変更する以外の方法で削除できません。 ■ false : この coSpaceUser は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。API を介して変更または削除できます
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロフィールをこの coSpace ユーザーに関連付けます。
canDestroy	true false	このユーザーが coSpace を削除できるかどうか。
canAddRemoveMember	true false	このユーザーがこの coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。
canChangeName	true false	このユーザーが coSpace の名前を変更できるかどうか。
canChangeUri	true false	このユーザーが coSpace の URI を変更できるかどうか。
canChangeCallId	true false>	このユーザーが coSpace のコール ID を変更できるかどうか。
canChangePasscode	true false	このユーザーが coSpace のパスコードを変更できるかどうか。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
canRemoveSelf	true false	このユーザーが coSpace から自分自身を削除できるかどうか
canChangeNonMemberAccessAllowed	true false	このユーザーが coSpace の「メンバー以外のアクセスを許可する」設定を変更できるかどうか。（バージョン 2.3 以降）

6.4.2 coSpace メンバーを追加、変更する

- 追加：「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers」ノードへの POST メソッド
- 変更：「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>」ノードで実行される PUT メソッド。変更できるパラメータを以下に示します（"userJid" を除く）。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
userJid *	文字列	メンバーとして追加するユーザーの JID
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールログプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます。
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます。
canDestroy	true false	これらのパラメータはすべてオプションであり、POST 操作で指定されない場合のデフォルト設定は false です。下記の権限に関する注記も参照してください。 このユーザーが coSpace を削除できるかどうか。
canAddRemoveMember	true false	このユーザーがこの coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。
canChangeName	true false	このユーザーが coSpace の名前を変更できるかどうか。
canChangeUri	true false	このユーザーが coSpace の URI を変更できるかどうか。
canChangeCallId	true false	このユーザーが coSpace のコール ID を変更できるかどうか。
canChangePasscode	true false	このユーザーが coSpace のパスコードを変更できるかどうか。
canRemoveSelf	true false	このユーザーが coSpace から自分自身を削除できるかどうか
canChangeNonMemberAccessAllowed	true false	このユーザーが coSpace の「メンバー以外のアクセスを許可する」設定を変更できるかどうか。（バージョン 2.3 以降）

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
canChangeScope	true false	このユーザーが coSpace 上のアクセス方式の範囲を変更できるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは false になります。

メンバーが正常に追加された場合、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーには新しいユーザー ID が含まれます。

coSpace 権限

canAddRemoveMember が true に設定されているメンバーは、他のユーザーを Web アプリから coSpace のメンバーとして追加できます。新しいメンバーには、追加したメンバーと同じ権限が与えられます。ただし、元のメンバーの canRemoveSelf も false に設定されている場合は例外です。

coSpace から自分自身を削除できないメンバー (canRemoveSelf によって制御される) は、自分のメンバーシップを削除するために 2 番目のメンバーを作成することはできません。したがって、この状況で別のメンバーによって Web アプリから作成されたメンバーは、**canAddRemoveMember** は false に設定され、**canRemoveSelf** は true に設定されます (下の表を参照)。他のすべての権限は、元のメンバーからコピーされます。

元のユーザーの権限		作成されたユーザーの権限		注記
canAddRemoveMember	canRemoveSelf	canAddRemoveMember	canRemoveSelf	
False	該当なし	該当なし	該当なし	別のユーザーを追加することはできません
True	True	True	True	すべての権限がコピーされます
True	False	False	True	他のすべての権限がコピーされます。

API を使用すると、柔軟性が高くなります。自分自身を削除することはできないが、別のメンバーによって削除できるメンバーを含む coSpace を作成できます。メンバーはいつでも API を介して削除できます。

自動生成されたメンバー (LDAP 同期によって作成された) には、次の LDAP 同期によって上書きされる変更を許可しても意味がないため、自動生成された権限が与えられます。したがって、これらのユーザーの場合、パラメータ canDestroy、canChangeName、canChangeUri、canChangeCallId、canRemoveSelf は常に false に設定されます。他の「can」パラメータは True に設定されます。自動生成されたメンバーのこれらの設定を API を介して変更しても、効果は一時的で、次の LDAP 同期で上書きされます。メンバーが自動生成されたかどうかの確認方法については、次のセクションを参照してください。

権限のデフォルト設定の概要については、下の表を参照してください。

権限	coSpace の作成元		
	Web アプリケーション	LDAP 同期	API
canDestroy	true	false	false
canAddRemoveMember	true	正しい	false
canChangeName	true	false	false
canChangeUri	true	false	false
canChangeCallId	true	false	false
canChangePasscode	true	正しい	false
canRemoveSelf	true	false	false
canChangeNonMemberAccessAllowed	true	false	true

6.4.3 coSpace メンバーの情報を取得する

GET メソッドが実行される場所：「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>」ノード。取得が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

このレスポンスには、作成と変更のケースについて上記で説明したとおりのデータを持つ単一の <coSpaceUser id=<ID>オブジェクトが含まれ、[含まれています](#)。さらに、以下を実行できます。

- autoGenerated 値は、LDAP 同期操作の一部として coSpace メンバーが coSpace に自動的に追加されたかどうかを示します。
- canChangeScope は、このユーザーが coSpace 上のアクセス方式の範囲を変更できるかどうかを示します。

6.5 複数の coSpace アクセス方式

6.5.1 一般情報

オブジェクトの 2 つの関連するテーブルがあります。

- アクセス (Access) coSpace ごとのアクセス方式：
「/coSpaces/<cospace ID>/accessMethods [/<accessMethod ID>]」
- コールレグプロファイル、「/callLegProfiles/<callLegProfile ID>」

coSpace ごとのアクセス方式

アクセス方式は、coSpace へのアクセスに使用できる URI、パスコード、callId、シークレットの組み合わせを定義します。

必要に応じて、アクセス方式に callLegProfile を関連付けることができます。このようなアクセス方式を介して参加するコールレグには、そのコールレグプロファイルが適用されます。アクセス方式にコールレグプロファイルがないが、coSpace にある場合、coSpace のコールもそうです。

注： coSpace またはアクティブなコールに参加するための電子メール招待状を 1 人または複数の人に Web アプリケーションから送信する場合、URI、パスワード、callId、シークレット情報のセット 1 つのみが含まれます。アクセス方式の範囲フィールドが `public` に設定されている場合、この情報が使用されます。 `public` 範囲を持つアクセス方式がない場合、coSpace 自体の構成からのコール情報が含まれます。

コールレグプロファイル

コールレグプロファイルは coSpace オブジェクトに関連付けることができ、その coSpace 内のすべてのコールレグ (たとえば、設定された URI および [secondaryUri](#) を介して接続するもの) のデフォルトのコールレグプロファイルになります。ただし、coSpace コールレグプロファイルの効果は、追加の coSpace アクセス方式用に設定されたコールレグプロファイルを介して課されるより具体的なオーバーライドによってオーバーライドできます。「[コールレグプロファイルメソッド](#)」セクションを参照してください。

6.5.2 coSpace アクセス方式を取得する

「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace アクセス方式のみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<ID> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のアクセス方式のみが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
accessMethod id	ID	レスポンスは、「<accessMethods>」オブジェクト内に含まれる「<accessMethod id=<access method id>」オブジェクトのコレクションです。 <accessMethod> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
uri	文字列	このアクセス方式を介したダイヤルインに使用される URI 最大長は 200 文字です。
callId	ID (番号)	このアクセス方式 (IVR または Web Bridge ログインを使用) を介して接続するために使用される「コール ID」。 callId の最大長は 200 桁です。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
passcode	文字列	このアクセス方式に必要なパスコード。最大長は 200 文字です。
callLegProfile	ID	このアクセス方法を介して着信するコールに適用するコールレグプロファイルの ID

6.5.3 coSpace アクセス方式を作成、変更する

- 作成：「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/coSpaces//<coSpace id>accessMethods/<access method id>」ノードでの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
uri	文字列 (URI ユーザー部分)	このアクセス方式を介したダイヤルインに使用される URI URI の「ユーザー部分」とは、完全な URI の「@」文字の前の部分です。最大長は 200 文字です。
callId	ID (番号)	このアクセス方式 (IVR または Web Bridge ログインを使用) を介して接続するために使用される「コール ID」。最大長は 200 桁です。
passcode	文字列	このアクセス方式に必要な最大 200 桁のパスコード。
name	文字列	このアクセス方式に関連付けられた名前 (バージョン 2.9 以降)。最大長は 200 文字です。
callLegProfile	ID	このアクセス方法を介して着信するコールに適用するコールレグプロファイルの ID
lobbyProfile	ID	このアクセスメソッドに適用される lobbyProfile の ID

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
secret	文字列	指定されている場合、この coSpace アクセス方式のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace アクセス方式に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、このアクセス方式を介した coSpace へのゲストアクセスのために、callId とともに提供する必要がある、coSpace アクセス方式に関連付けられたセキュリティ値です。
regenerateSecret	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : この coSpace アクセス方式に対して新しいセキュリティ値が生成され、以前の値は無効になります (たとえば、それを含むハイパーリンクは機能しなくなります)。 - false : この coSpace アクセス方式に新しいシークレット値が生成されません。これには何の効果もありません。 <p>このパラメータは、変更 (PUT) の場合にのみ有効です。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
scope	public private member directory	<p>この coSpace のメンバーである Web アプリのユーザーに対する、coSpace のアクセス方式の可視性。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 ■ private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 ■ member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降)。 ■ directory : この coSpace アクセス方式の詳細は検索で確認できます (バージョン 3.1 以降) [注 : 3.1 では検索がないため、動作は public と同じです] <p>注 : 範囲を public に設定すると、Web アプリケーションは coSpace の詳細を編集できなくなります。また、名前の下に表示されている uri はアクセス方式のものです。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
importance	数字	このアクセス方式を介して参加するすべての参加者に割り当てられる重要度の値。最大値は 2,147,483,647 です。 (バージョン 2.4 以降)。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpace アクセス方式に関連付けます (3.0 以降)。

coSpace アクセス方式が正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい coSpace アクセス方式 ID が含まれます。

6.5.4 個々の coSpace アクセス方式に関する情報を取得する

「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>」ノードでの GET メソッド。指定されたアクセス方式 ID が有効な場合、「200 OK」応答と 1 つの <accessMethod id=access method id> オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

6.6 coSpace から呼び出す

リモートパーティを coSpace に追加するには、接続を確立できるアクティブなコールがこの coSpace に存在する必要があります。これにより、coSpace からの最初のコールが他の 2 つの API メソッドの組み合わせになります。

1. 新しいコールを作成する。
2. 新しい発信コールレグをコールに追加する。これらのメソッドについては、[セクション](#)

[8](#) で説明します。

6.7 coSpace を一括作成、更新、削除する

6.7.1 /cospaceBulkParameterSets を作成する

- 作成：「/cospaceBulkParameterSets」ノードに対する POST メソッド。新しいパラメータセットを作成します。下の表を参照してください。新しいパラメータセットの場所を返します。
/cospaceBulkParameterSets/<bulk parameter set guid>
- 変更：「/cospaceBulkParameterSets」ノードに対する PUT メソッド。このパラメータセット内のパラメータを更新しますが、有効にするには同期する必要があります。

パラメータ	タイプ	説明
startIndex	数字	coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む)
endIndex	数字	coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む)
coSpaceUriMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この <code>cospaceBulkParameterSet</code> を使用して <code>/cospaceBulkSync</code> で作成された coSpace に使用される URI を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace にはダイヤル可能な URI がありません。</p> <p>構文： uri-mapping = [uri-component] ["\$index\$"] [uri-component] 定義： uri-component = *(uri-character / escaped-character) uri-character = *('@' を除く unescaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合に衝突が発生します。</p>
coSpaceNameMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この <code>cospaceBulkParameterSet</code> を使用して <code>/cospaceBulkSync</code> で作成された coSpace に使用される名前を記述するマッピングです。</p> <p>構文： name-mapping = [name-component] ["\$index\$"] [name-component] 定義： name-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p>
coSpaceCallIdMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この <code>cospaceBulkParameterSet</code> を使用して <code>/cospaceBulkSync</code> で作成された coSpace に使用されるコール ID を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace には callId がありません。</p> <p>構文： id-mapping = [id-component] ["\$index\$"] [id-component] 引数： id-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合は衝突が発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p>

パラメータ	タイプ	説明
tenant	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。
callProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールプロフィールです。設定されていない場合、coSpace はコールプロフィールに関連付けられません。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロフィールです。設定されていない場合、coSpace はコールブランディングプロフィールに関連付けられません。
nonMemberAccess	true false	メンバー以外が、一括作成された coSpace にアクセスできるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで true になり、メンバー以外が coSpace にアクセスできます。

6.7.2 coSpace を一括作成するためのパラメータセットを取得する

「/cospaceBulkParameterSets」ノードでの GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <cospaceBulkParameterSets total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素が含まれる可能性があります。 <cospaceBulkParameterSet> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
startIndex	数字	coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む)
endIndex	数字	coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む)

6.7.3 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する

「/cospaceBulkParameterSets/<coSpace bulk parameter set id>」ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ	説明
		応答は、最上位の <cospaceBulkParameterSets total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素が含まれる可能性があります。 各 <cospaceBulkParameterSet> 要素には、次の要素が含まれる場合があります。
startIndex	数字	coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む)
endIndex	数字	coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む)

パラメータ	タイプ	説明
coSpaceUriMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace にはダイヤル可能な URI がありません。</p> <p>構文： uri-mapping = [uri-component] ["\$index\$"] [uri-component] 定義： uri-component = *(uri-character / escaped-character) uri-character = *('@' を除く unescaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合に衝突が発生します。</p>
coSpaceNameMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される名前を記述するマッピングです。</p> <p>構文： name-mapping = [name-component] ["\$index\$"] [name-component] 定義： name-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p>
coSpaceCallIdMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用されるコール ID を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace には callId がありません</p> <p>構文： id-mapping = [id-component] ["\$index\$"] [id-component] 引数： id-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合は衝突が発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p>
tenant	ID	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。</p>

パラメータ	タイプ	説明
callProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールプロフィールです。設定されていない場合、coSpace はコールプロフィールに関連付けられません。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロフィールです。設定されていない場合、coSpace はコールブランディングプロフィールに関連付けられません。
nonMemberAccess	true false	メンバー以外が、一括作成された coSpace にアクセスできるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで true になり、メンバー以外が coSpace にアクセスできます。

6.7.4 一括同期操作をキューに入れる

- 作成：「/cospaceBulkSyncs」ノードに対する POST メソッド。一括同期操作をできるだけ早く実行するためにキューに入れます。場所 /cospaceBulkSync/<bulk sync guid> を返します。

注：一括同期は、startIndex と endIndex（両端を含む）の間を反復し、マッピングパーツを展開して挿入します。

- 変更：「/cospaceBulkSyncs」ノードに対する PUT メソッドはサポートされていません。

パラメータ	タイプ/値	説明
cospaceBulkParameterSet	ID	同期されるパラメータセットの GUID
removeAll	true false	指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除する必要がある場合にのみ使用します。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。

6.7.5 一括同期操作を取得する

「/cospaceBulkSyncs」ノードでの GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
cospaceBulkParameterSet	ID	<p>応答は、最上位のタグ内に複数の要素を含めることができます。 <cospaceBulkSyncs total="N"><cospaceBulkSync></p> <p><cospaceBulkSync> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータセット</p>
status	pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed	<p>同期操作のステータス：</p> <p>pending - 同期操作は実行待ちのキューにあります</p> <p>running - 同期操作は現在実行中です</p> <p>complete - 同期操作が正常に完了しました</p> <p>failedCoSpaceUriConflict - すでに存在する URI と競合する URI の作成が必要になるため、同期に失敗しました</p> <p>failedCallIdConflict - すでに存在するコール ID と競合するコール ID の作成が必要になるため、</p> <p>すでに存在するものと競合します</p> <p>failedIndexRangeInvalid - 「startIndex」が「endIndex」より大きいため、同期に失敗しました。 failedIndexRangeTooGreat - 「endIndex」と「startIndex」の差が大きすぎるため、同期に失敗しました。</p> <p>failedNoSuchParameterSet - 同期コマンドで参照された「cospaceBulkParameterSet」が存在しませんでした。</p> <p>failed - 同期操作が失敗しました</p>
removeAll	true false	<p>指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除するためにのみ使用されます。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。</p>

6.7.6 特定の一括同期操作の取得

"/cospaceBulkSyncs/<coSpace bulk sync id>" ノードの GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
cospaceBulkParameterSet	ID	<p>応答は、最上位のタグ内に複数の要素を含めることができます。 <cospaceBulkSyncs total="N"><cospaceBulkSync></p> <p><cospaceBulkSync> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータセット</p>
status	pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed	<p>同期操作のステータス：</p> <p>pending - 同期操作は実行待ちのキューにあります</p> <p>running - 同期操作は現在実行中です</p> <p>complete : 同期操作が正常に完了しました。failedCoSpaceUriConflict : すでに存在する URI と競合する URI の作成が必要になるため、同期に失敗しました。</p> <p>failedCallIdConflict : すでに存在するコール ID と競合するコール ID の作成が必要になるため、同期に失敗しました。</p> <p>failedIndexRangeInvalid : 「startIndex」が「endIndex」より大きいため、同期に失敗しました。</p> <p>failedIndexRangeTooGreat : 「endIndex」と「startIndex」の差が大きすぎるため、同期に失敗しました。</p> <p>failedNoSuchParameterSet : 同期コマンドで参照された「cospaceBulkParameterSet」が存在しませんでした。</p> <p>failed - 同期操作が失敗しました</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
removeAll	true false	指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除するためにのみ使用されます。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。

6.7.7 例

coSpace の一括作成

1. 次のパラメータを使用して cospaceBulkParameterSet

を作成します。startIndex=1000
endIndex=1999
coSpaceUriMapping=space.\$index\$ coSpaceNameMapping=Space
\$index\$ coSpaceCallIdMapping=811\$index\$

2. 次のパラメータを使用して cospaceBulkSync を

作成します。cospaceBulkParameterSet=<GUID
from above>

これにより、1000 のスペースが次のとおり作成されます。最初のスペース：

"Space 1000" space.1000@domain.com , callID=8111000

最後のスペース：

"Space 1999" space.1999@domain.com , callID=8111999

範囲を更新するには：

1. 新しい範囲を cospaceBulkParameterSets/<GUID from above> に PUT します。

2. 次のパラメータを使用して cospaceBulkSync を

作成します。cospaceBulkParameterSet=<GUID
from above>

これにより、以前のすべてのスペースが削除され、新しいセットが作成されます。この操作全体が成功するか失敗します。失敗した場合、トランザクションはロールバックされ、以前に存在し

ていたスペースはそのまま存在します。

範囲を削除するには：

1. 次のパラメータを使用して `cospaceBulkSync` を作成します。

```
cospaceBulkParameterSet=<GUID from above>&removeAll=true
```

これにより、このパラメータセットを使用して作成されたすべてのスペースが削除されます。名前が変更されたり、他の方法で編集されたりした場合でも、削除されます。

6.8 coSpace 診断メソッド

「/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics」への POST 操作は、指定された coSpace のコール診断の生成をトリガーします。

6.9 coSpace テンプレートを使用する

6.9.1 coSpace テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する

2.9 以降では、次の要求パラメータを使用して coSpace テンプレートを実装するために、API ノード `/coSpaceTemplates` が使用されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。
description	文字列	このテンプレートを使用する理由についてユーザーに説明するための、coSpace テンプレートの長い説明
callProfile	ID	これが指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
callLegProfile	ID	これが指定されている場合は、指定されたコール レッグ プロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティ プロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。

この API ノード `/coSpaceTemplates` は、次の操作をサポートします。

- `/coSpaceTemplates` に対する POST 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>` に対する PUT 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>` での DELETE 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>` での GET 操作。次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。
description	文字列	このテンプレートを使用する理由についてユーザーに説明するための、coSpace テンプレートの長い説明
callProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。
numAccessMethodTemplates	数字	この coSpace テンプレートに関連付けられているアクセス方式テンプレートの数
defaultAccessMethodTemplate	ID ""	指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。

- `/coSpaceTemplates` で enumerate GET を実行、次の応答が返されます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace テンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。
limit		
filter	文字列	filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace テンプレートのみが返されます。

この応答は、最上位の `<coSpaceTemplates total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<coSpaceTemplate>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<coSpaceTemplate>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。
callProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。
numAccessMethodTemplates	数字	この coSpace テンプレートに関連付けられているアクセス方式テンプレートの数
defaultAccessMethodTemplate	ID ""	指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。

6.10 アクセス方式テンプレートを使用する

6.10.1 coSpace テンプレートのアクセス方式テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する

バージョン 2.9 では、以下のリクエストパラメータとともに新しい API ノード `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` が導入されました。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。
uriGenerator	文字列	このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するために使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を 1 つだけ含める必要があります。
callLegProfile	ID	これが指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
lobbyProfile	ID	指定されている場合は、指定された lobby プロファイルをこの accessMethod テンプレートに関連付けます。
generateUniqueCallId	true false	このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。この ID は coSpace のグローバルな ID より優先されます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティ プロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます (3.0 以降)。

API ノード `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` では次の操作がサポートされています。

- `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` に対する POST 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template ID>` に対する PUT 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template ID>` に対する DELETE 操作
- `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access> method template id>` での GET 操作。
次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。
uriGenerator	文字列	このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するために使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を 1 つだけ含める必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます。
generateUniqueCallId	true false	coSpace のグローバルな ID より優先される、このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティ プロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます (3.0 以降)。

応答値	タイプ/値	説明/注記
scope	public private member directory	<p>この coSpace のメンバーである Web アプリのユーザーに対する、coSpace のアクセス方式の可視性。</p> <ul style="list-style-type: none"> public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降)。 directory : この coSpace アクセス方式の詳細は検索で確認できます (バージョン 3.1 以降) [注 : 3.1 では検索がないため、動作は public と同じです] <p>注 : 範囲を public に設定すると、Web アプリケーションは coSpace の詳細を編集できなくなります。また、名前の下に表示されている uri はアクセス方式のもので</p>

- `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` で enumerate GET を実行。次の応答が返されます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace アクセス方式 テンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。
limit		
filter	文字列	filter=<string> を指定すると、名前がフィルタと一致する coSpace アクセス方式 テンプレートのみが返されます。
callLegProfileFilter	文字列	callLegProfileFilter=<string> を指定すると、指定されたコールレグプロファイルを使用する coSpace アクセス方式 テンプレートのみが返されます。

応答は、最上位の <accessMethodTemplates total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <accessMethodTemplate> 要素が含まれる可能性があります。

各 <accessMethodTemplate> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
uriGenerator	文字列	このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するために使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を1つだけ含める必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこのアクセス方式テンプレートに関連付けます。
generateUniqueCallId	true false	このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。この ID は coSpace のグローバルな ID より優先されます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこのアクセス方式テンプレートに関連付けます (3.0 以降)。
scope	public private member directory	coSpace のメンバーであるユーザーに対する、このテンプレートを使用したアクセス方式の可視性。(3.2 以降) <ul style="list-style-type: none"> - public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 - private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 - member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます。 - directory - この coSpace アクセス方式の詳細は、検索で見つけることができます 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで private になります。範囲を private に指定して作成されたスペースでは、ビデオアドレスにドメインがありません。

6.11 coSpace に関するテキストベースの会議エントリ情報を取得する

電子メール招待 API は、配布 (通常は電子メールで) に適したテキストベースの会議エントリ情報を取得するために導入されました。

- `/api/v1/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation` での GET 操作

- /api/v1/coSpaces/<coSpace id>/emailInvitation での GET 操作

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
language (optional)	文字列	言語タグ「xx」または「xx_XX」（xx 言語コードおよび XX 地域コード）または 1 ~ 32 文字の他の文字列（「a」 - 「z」、「A」 - 「Z」、「0」 - 「9」、および「_」の形式）。 注：サポートされている言語のリストおよび電子メール招待のカスタマイズの詳細については、 Cisco Meeting Server 3.1 のカスタマイズガイドライン を参照してください。
organizer (オプション)	文字列	提供されている場合は、電子メールの招待テキストに主催者の詳細を含めます。オーガナイザーの詳細は、API に含まれている主催者/ホストの名前または電子メールアドレスである可能性があります。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
invitation	文字列	電子メール招待テキスト。
language	文字列	電子メール招待の言語タグ。 言語が指定されていない場合、デフォルトで en_US になります。 指定された言語が無効な場合は、「400 - 不正な要求」応答が返されます。

障害対応

応答要素	タイプ/値	説明/注意事項
<failureDetails> <parameterError parameter="language" error="invalidValue" /></failureDetails>	400 - 不正な要求です	言語パラメータとして空の文字列または無効な文字を入力しました。
<failureDetails> <parameterError parameter="language" error="valueTooLong" /></failureDetails>	400 - 不正な要求です	長い言語パラメータを入力しました。

応答要素	タイプ/値	説明/注意事項
<pre><failureDetails> <retryAfter=1 /></failureDetails></pre>	503 - Service Unavailable	<p>サーバーがビジー状態であるか、外部でホストされているテンプレートを取得しているときに、テキストベースの会議エントリ情報を取得しようとした。</p> <p>後で再試行するか、retryAfter 期間後（秒）に再試行することを推奨します。</p>

注：電子メールの招待テキストには、webbridgeaddress または IVR 番号が含まれます（それらが webbridgeprofile で構成され、テナントレベルまたはシステムレベルにマッピングされている場合のみ）。

6.12 coSpace でメタデータを設定する

メタデータは coSpace 上で構成できるテキスト文字列です。これにより、Cisco Meeting Management などの管理アプリケーションは、coSpace 上にメタデータを保存できます。メタデータは、Meeting Management でブラストダイヤル機能を使用しているときに取得される参加者のリストで構成されます。これは、API ノード

`/coSpaces/<coSpace id>/metadata` でサポートされています。

- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` に対する PUT 操作
- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` での GET 操作

ブラストダイヤル機能では、次のパラメータが取得されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
blastDial	文字列	ブラストダイヤル オブジェクトの一覧
	attemptLimit	数値
		連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。
	attemptDelay	数値
		システムが、コンタクトのダイヤルアウトを再試行する前に待機するの最小時間。デフォルト値は 180 秒です。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記		
participants	文字列	参加者オブジェクトの一覧。		
		アドレス	文字列	参加者のメールアドレス。
		名前	文字列	audioPrompt on off
			このパラメータは、参加者レベルに設定されています。 <ul style="list-style-type: none"> - On : ブラストダイヤルのオーディオによる指示が再生され、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 - Off : ブラストダイヤルのオーディオによる指示は再生されず、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要はありません。 	
audioPromptGlobal	on off	このパラメータは、Meeting Management のグローバル設定で設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> - On - オーディオによる指示が、グローバルレベルですべての参加者に対して有効になります。 - Off - オーディオによる指示が、グローバルレベルですべての参加者に対して無効になります。 <p>グローバルレベルでオーディオによる指示を有効または無効にすると、参加者レベルの設定が上書きされます。</p>		

/calls/ での GET 操作の `coSpaceMetaDataConfigured` レスポンス要素は、`<call id>/cospaces/<cospace id>/metadata` に設定されたメタデータがある場合は true、それ以外は false を返します。

注 : ブラストダイヤルなどの Meeting Management の一部の機能では、coSpace にメタデータを保存する必要があります。メタデータを変更すると、これらの機能が失敗する可能性があります。

7 ダイアルプランのメソッド

この章では、発信コール、着信コール、コール転送のダイアルプランの構成に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [発信ダイアルプランルールを取得する](#)
- [発信ダイアルプランルールの作成と変更](#)
- [個々の発信ダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)
- [発信ダイアルプランを変換する](#)
- [着信コールのダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信コールのダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個々の着信コールのダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)
- [着信コールを転送するためのダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信コールを転送するためのダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個々の着信コールを転送するためのダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)

7.1 発信ダイアルプラン API メソッド

7.1.1 発信ダイアルプランにアクセスする

通常、発信コールに使用するトランク/プロキシの構成は、発信ダイアルプランで指定されている、コールを受ける (SIP) 接続先のドメインに基づいています。発信ダイアルプランは、API オブジェクトツリーの「/outboundDialPlanRules」ノードの下にあり、POST メソッドを使用して発信ダイアルプランを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します (下記の注を参照)。

Call Bridge クラスターリングを展開している場合は、API パラメータ [scope](#) を使用して、各発信ダイアルプランルールをクラスタ内のすべての Call Bridge に適用するか、特定の Call Bridge にのみ適用するかを選択して、Call Bridge をローカルのコール制御ソリューションにトランクできるようにします (適切な場合)。

注 : API パラメータ [callRouting](#) は、発信 SIP/Lync コールのトラバーサルメカニズムを指定します。このパラメータを使用して、SIP および Lync デバイスのファイアウォールトラバーサルを設定します。これはまだベータ機能です。

注 : Web 管理インターフェイスでは、発信ルールのテーブルは、[設定 (Configuration)] > [ダイアルプラン (Dial plan)] ページで構成されます。Web 管理インターフェイスを介して追加されたすべてのルールはグローバルであり、クラスタ内のすべての Call Bridge に適用されます。Web 管理インターフェイスを使用して、特定の Call Bridge または Call Bridge グループを使用する発信 SIP/Lync コールのコールルーティングを指定することはできません。

7.1.2 発信ダイアルプランルールを取得する

「/outboundDialPlanRules/」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する発信ダイアルプランルールのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
tenantFilter	ID	指定されている場合、このフィルタは、指定されたテナントに関連付けられている発信ダイアルプランルールのみを返します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
outboundDialPlanRule id	ID	レスポンスは、「<outboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトのコレクションで、「<outboundDialPlanRules>」オブジェクト内に含まれるものです。 <outboundDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
domain	文字列	ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値（「example.com」など）またはワイルドカードを使用した値（「*.com」など）のいずれか。
priority	数字	ダイアルプランルール（ワイルドカードを使用したドメインを含むルールを含む）が適用される順序を決定する数値。優先順位値の高いルールが最初に適用されます。
tenant	ID	テナントが指定されている場合、このルールは、そのテナントに関連付けられたコールから発信コールレグを作成するためにのみ使用されます。それ以外の場合、このルールは任意のコールから使用できません。

7.1.3 発信ダイアルプランルールを作成、変更する

- 作成：「/outboundDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。発信ダイアルプランルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい発信ダイアルプランルール ID が含まれます。
- 変更：「/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>」ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
domain *	文字列	ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値（「example.com」など）またはワイルドカードを使用した値（「*.com」など）のいずれか。
priority	数字	ダイアルプランルール（ワイルドカードを使用したドメインを含むルールを含む）が適用される順序を決定する数値。優先順位値の高いルールが最初に適用されます。ルールが一致するが、コールを実行できない場合、ルールの failureAction パラメータによって、他の優先順位の低いルールが試行される場合があります。
localContactDomain	文字列	使用する明示的な連絡先ドメインを形成するときに使用します。このフィールドを空白のままにすると、 localContactDomain はローカル IP アドレスから導き出されます。 Lync を使用している場合、 localContactDomain を設定することを推奨します。Lync を使用していない場合、SIP コールフローで予期しない問題を回避するために、 localContactDomain を設定しないことを推奨します。
localFromDomain	文字列	このダイアルプランルールを使用して発信コールの発信者を形成するときに使用されます。
sipProxy	文字列	コールが経由するプロキシデバイスのアドレス（IP アドレスまたはホスト名）。設定されていない場合は、直接コールです。
trunkType	sip lync avaya	CiscoExpressway、Avaya Manager、Lync サーバーなどのサードパーティ SIP 制御デバイスにコールをルーティングするルールを設定するために使用します。lync または avaya に設定されている場合、このルールを使用する発信コールは、特別な動作を伴う Lync コールまたは Avaya コールとして発信されます。sip は、このルールを使用するコールが標準の SIP コールになることを意味します。 Meeting Server では、Avaya PBX を使用する場合があります。Avaya PBX のコールは音声のみです。ただし、Meeting Server は、Avaya 製品との相互運用性にこの制限を課すわけではありません（ビデオもサポートしている場合があります）。そのため、「avaya」のタイプのコールは、コールが音声専用であるわけではありません。
failureAction	stop continue	現在のダイアルプランルールでコールが接続されなかった場合に、次の発信ダイアルプランルールを試すかどうか。ルールに stop の failureAction がある場合、それ以降のルールは使用されません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
sipControlEncryption	auto encrypted unencrypted	<p>このルールを介して発信されたコールで、暗号化された制御トラフィックの使用を強制するかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> - encrypted : 暗号化された SIP 制御トラフィック (TLS 接続) のみを許可します。 - unencrypted : 暗号化されていないトラフィック (TCP または UDP) のみを使用します。 - auto : 最初に暗号化された制御接続の使用を試みますが、障害が発生した場合は、暗号化されていない制御トラフィックへのフォールバックを許可します。 <p>注 : TLS 接続試行が失敗した場合に Call Bridge がこれらの接続に暗号化されていない TCP を使用しようとするのを防ぐために、すべての「Lync」発信ダイヤルルールが encrypted モードに明示的に設定されている必要があります。</p>
scope	global callBridge callBridgeGroup	<p>この発信ダイヤルプランルールが有効なエンティティ :</p> <ul style="list-style-type: none"> - global - すべての Call Bridge は、この発信ダイヤルプランルールを使用して、一致するドメインに到達できます。 - callBridge - この発信ダイヤルプランルールは、指定された単一の Call Bridge に対してのみ有効です。その ID は、callBridge パラメータで指定されます。 - callBridgeGroup - この発信ダイヤルプランルールは、指定された単一の Call Bridge グループに対してのみ有効です。その ID は、callBridgeGroup パラメータで指定されます (バージョン 2.2 以降)。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「global」になります。</p>
callBridge	ID	ルールに callBridge のスコープがある場合 (上記を参照)、これはルールが有効な Call Bridge の ID です。
callBridgeGroup	ID	ルールに callBridgeGroup のスコープがある場合 (上記を参照)、これはルールが有効な Call Bridge グループの ID です (バージョン 2.2 以降)。
tenant	ID	テナントが指定されている場合、このルールは、そのテナントに関連付けられたコールから発信コールレグを作成するためにのみ使用されます。それ以外の場合、このルールは任意のコールから使用できます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
callRouting (ベータ機能)	default traversal	<p>これは、このルールから発信される SIP コールに使用する必要があるメディアルーティングです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - default - このルールを使用するコールは、通常の直接メディアルーティングを使用します。 - traversal - このルールを使用するコールのメディアは、TURN サーバー経由で流れます。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは「default」になります。</p>

7.1.4 個々の発信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

「/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>」ノードでの GET メソッド。指定された発信ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の「<outboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが前のセクションに従ってデータとともに返されます。

7.2 ダイアル変換

ダイアル変換は、発信ルールが適用される前に発信コールに適用されます。ダイアル変換が適用されると、変換された番号に発信ダイアルプランルールが適用されます。ダイアル変換は発信コールにのみ影響しますが、ゲートウェイコールには影響しません。

変換には次の 3 つの段階があります。

- 「タイプ」が適用され、変換に適用するプリプロセスのタイプを定義します。
 - 未加工：1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - ストリップ：点、ダッシュ、スペースを削除し、1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - 電話：国際電話番号への変換に使用します - 2 つのコンポーネント \$1国コードと \$2番号が生成されます

注：電話 URI は、有効な国際ダイアルコード（たとえば英国の場合は 44、米国では 1 など）で始まり、その地域の電話番号に対する正しい数字の桁数が続く場合に、純粋な数字文字列（オプションで「+」のプレフィックス付き）として認識されます。

- コンポーネントは、ルールが有効かどうかを確認するために正規表現を使用して照合されます。
- 定義された変換に従ってコンポーネントから出力文字列が作成されます。

例

例	タイプ	一致	変革
米国の番号の場合は、直接「vcs1」を使用します	電話	(\$1/01/)	\$2@vcs1
英国の番号の場合は、プレフィックスを追加して「vcs2」を使用します。	電話	(\$1/44/)	90044\$2@vcs2
7で始まる英国の番号の場合は、プレフィックスとして「90044」を追加し、サフィックスとして「123@mobilevcs」を追加します	電話	(\$1/44/)(^2/7/)	90044\$2{}123@mobilevcs
認識できない全桁の文字列の場合は、サフィックスとして「@vcs3」を使用します	除去	(\$1/(\d){6,}/)	\$1@vcs3
+を00に置き換えます	除去	(\$1/\+(\d)+/)	\$1{\+ /00/}
英数字の正規表現（たとえば(.*)@example.com）を\1.endpoint@vc.example.comに置き換えます	未加工	(\$1/(.*)@example.com/)	\$1{/@example.com\$/ .endpoint@vc.example.com/}

Call Bridge クラスタでは、各 Call Bridge でダイアル変換を個別に設定する必要はありません。クラスタのダイアル変換は、データベースクラスタの最初の coSpace データベースと同じ場所にある Call Bridge ホストサーバーで定義されたものです。

注：同じダイアル変換がクラスタ内のすべての Call Bridge に適用されますが、発信ダイアルプランルールは Call Bridge ごとに設定できます。

7.2.1 ダイアル変換を取得する

「/dialTransforms」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
filter	文字列	フィルタを入力して、文字列に一致するダイアル変換のみを取得します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
タイプ	raw strip phone	<p>応答は、最上位の <dialTransforms total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <dialTransform> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>この変換に適用する前処理のタイプ Raw : 1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>ストリップ : 点、ダッシュ、スペースを削除し、1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Phone : 国際電話番号。2 つのコンポーネント \$1 国コードと \$2 番号が生成されます</p>

7.2.2 ダイアル変換を設定および変更する

- 作成：「/dialTransforms」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/dialTransforms/<dialTransform id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
type	raw strip phone	<p>この変換に適用する前処理のタイプ。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは「raw」です。</p> <p>Raw : 1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Strip : ドット、ダッシュ、スペースを削除し、1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Phone : 国際電話番号で、2 つのコンポーネントを生成します - \$1 国コードと \$2 番号が生成されます</p>
match	文字列	<p>指定されている場合、このルールが適用されるかどうかを説明する正規表現。空の文字列は、「すべてに一致」を意味します。</p> <p>これは、正規表現の論理 AND 結合であり、それぞれが前処理された表現のコンポーネントに適用されます。形式は、次のとおりです。</p> <p>(\$<componentnum_1>/<regex_1>/)(\$<componentnum_2>/<regex_2>/) (\$<componentnum_3>/<regex_3>/)...</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> - (\$2/abc/) : コンポーネント 2 には「abc」が含まれている必要があります - (\$1/^0/) (\$1/9\$/) : コンポーネント 1 は 0 で始まり、9 で終わる必要があります - (\$1/^44\$/) (\$2/^7/) : コンポーネント 1 は「44」である必要があります、コンポーネント 2 は 7 で始まる必要があります

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
変換	文字列	<p>適用される置換変換。これにより、事前に処理されたコンポーネントへの参照が可能になります。また、中括弧で囲まれた 1 つまたは複数の正規表現置換が可能になり、説明のとおり、次の特殊文字列が置換されます。</p> <p>\$<componentnum> : コンポーネントと置換</p> <p>\$<componentnum>{} : コンポーネントと置換</p> <p>\$<componentnum>{<matchregex1>/<replaceregex1/>{<matchregex2>/<replaceregex2/>{<matchregex3>/<replaceregex3/>... : Replace with component, with all instances of matchregex1 replaced by replaceregex1,>また、matchregex2 を replaceregex2 で置き換えるといった場合に置き換えます。キャプチャグループがサポートされています。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - abc : すべてを「abc」に置き換えます - \$1\$2@t.com : コンポーネント 1 の後にコンポーネント 2 が続き、その後に「@t.com」が続きます - \$1{}123@t.com : コンポーネント 1 の後に「123@t.com」が続きます - \$1{/999/123/}@t.com : 全ての「999」のインスタンスが「123」で置き換えられ、その後に「@t.com」が続きます - \$1{/\d//}{/^9//}@example.com : コンポーネント 1 の数字以外のすべてと先頭の 9 が削除され、その後に「@example.com」が続きます
priority	数字	この変換ルールが持つべき優先度。優先順位の高いルールから適用されます。
action	accept acceptPhone deny	このルールに一致する場合に実行するアクション。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「accept」になります。

7.2.3 個々のダイアル変換に関する詳細情報を取得する

「/dialTransform/<dialTransform id>」ノードで実行される GET メソッド。指定されたダイアル変換 ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。応答には、82 ページの「ダイアル変換の取得」の XML コンテンツ マッチング セクションが含まれます。

7.3 着信コール マッチング ダイアルプラン API メソッド

7.3.1 着信ドメインマッチングルールへのアクセス

着信 SIP コールが Meeting Server にルーティングされると、Call Bridge はまず設定済みの着信ダイアルプランルールを調べ、接続先 URI の「ドメイン」部分

「<user>@<domain>」をルールと照合します。API オブジェクト `/inboundDialPlanRules` の POST メソッドを使用して、着信 SIP コールと照合する新しい着信ダイアルプランルールを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します（下記の注を参照）。

注：Web 管理インターフェイスでは、着信ルールのテーブルは、[設定 (Configuration)] > [着信コール (Incoming calls)] ページで構成されます。

7.3.2 着信ダイアルプランルールを取得する

「/inboundDialPlanRules」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する着信ダイアルプランルールのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の着信ダイアルプランを取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ 上記参照 ）。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられた着信ダイアルプランルールのみを返すように tenantFilter を指定します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
inboundDialPlanRule id	ID	レスポンスは、「<inboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトのコレクションで、「<inboundDialPlanRules>」オブジェクト <inboundDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
domain	テキスト	ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません（例："example.com"）
priority	数字	複数のルールが適用される場合の着信ダイアルプランルールの優先度を決定します。
resolveTocoSpaces	true false	true に設定すると、このドメインへのコールが coSpace URI と照合されます（一致が見つかった場合、着信コールレグは coSpace の参加者になります）。
resolveTolvr	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは、構成された IVR URI と照合されます（一致が見つかった場合、着信コールレグはその IVR に接続します）。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
resolveToLyncConferences	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは Lync 会議 URL に解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで false になります。
resolveToLyncSimplejoin	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 (バージョン 2.2 以降)
tenant	ID	指定した場合、この着信ドメインへのコールは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ照合されます。

7.3.3 着信ダイアルプランルールを作成、変更する

- 作成：「/inboundDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。着信ダイアルプランルールが正常に作成された場合、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい着信ダイアルプランルール ID が含まれます。
- 変更：「/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>」ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
domain *	文字列	ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません (例: "example.com")
priority	数字	着信ダイアルプランルールで構成されているドメイン値は、常に着信コールに対して完全に一致するよう照合されます。着信コールをアダプタイズする完全な URI を生成する目的で (特に複数のルールが適用される場合)、優先度の数値 (高い値が優先されます) を設定することもできます。
resolveToCoSpaces	true false	true に設定すると、このドメインへのコールが coSpace URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コールレグは coSpace の参加者になります)。
resolveToIvrs	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは、構成された IVR URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コールレグはその IVR に接続します)。
resolveToLyncConferences	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは Lync 会議 URL に解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
resolveToLyncSimplejoin	true false	true に設定すると、このドメインへのコールは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。(バージョン 2.2 以降)
tenant	ID	指定した場合、この着信ドメインへのコールは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ照合されます。

7.3.4 個々の着信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

「/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>」ノードの GET メソッド。指定された着信ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」レスポンスと単一の「<inboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

7.4 着信転送ダイアルプラン API メソッド

7.4.1 着信コール転送ルールへのアクセス

着信 SIP コールの接続先 URI の「ドメイン」部分が着信ダイアルプランルールのいずれにも一致しない場合、コールは着信転送ダイアルプランルールのルールに従って処理されます。このルールは、コールを完全に拒否するかどうか、またはブリッジモードでコールを転送するかどうかを決定します。

コール転送ルールは重複してもかまいません。また、ルールにはワイルドカードを含めることができます。ルールには [Priority] の値で順位を付けます。高い値を持つルールが先に試行されます。ルールを定義することで、コールを転送するかどうかを決定します。特定のコールを「捕捉」して、拒否することが適切という場合もあります。

転送されるコールについて、接続先ドメインを書き換えることができます。指定されたドメインへの新しいコールが作成されます。

コール転送ダイアルプランは、API オブジェクトツリーの"/forwardingDialPlanRules" ノードの下にあります。POST メソッドを使用して転送ルールを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します (下記の注を参照)。

注: Web 管理インターフェイスでは、コール転送ルールのテーブルは、[設定 (Configuration)] > [着信コール (Incoming calls)] ページの[コール転送 (Call Forwarding)] セクションで設定されます。

7.4.2 着信コール転送ダイアルプランルールを取得する

「/forwardingDialPlanRules/」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する着信コール転送ルールのみが返されま
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
tenantFilter	ID	指定した場合、このフィルタは、返される結果を、指定されたテナントに関連付けられている転送ダイヤルプランルールのみに制限します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
forwardingDialPlanRule id	ID	レスポンスは、「<forwardingDialPlanRules>」オブジェクト内に含まれる「<forwardingDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトのコレクションです。 <forwardingDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 matchPattern と priority については、次のセクションで説明します。
matchPattern	テキスト	ダイヤルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名（「example.com」など）または「ワイルドカード」を使用した名前（「*.com」など）である必要があります。
priority	数字	転送ダイヤルプランルールを適用する順序を決定するときに使用される数値。高い値が最初に適用されます。
tenant	ID	forwardingDualPlanRule に関連付けられたテナント

7.4.3 着信コール転送ダイヤルプランルールを作成、変更する

- 作成：「/forwardingDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。転送ダイヤルプランルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい転送ダイヤルプランルール ID が含まれます。
- 転送ダイヤルプランルールの変更は、「/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>」ノードの PUT メソッドです。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
matchPattern	文字列	ダイヤルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名（「example.com」など）または「ワイルドカード」を使用した名前（exa*.com など）である必要があります。ワイルドカードはドメインマッチングパターンのすべての部分に使用できますが、「matchPattern=*」は使用しないでください。使用した場合、コールループが発生します。
destinationDomain	文字列	このルールで転送されるコールは、接続先ドメインがこの値に書き換えられます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
action	自動転送 reject	「forward」に設定すると、一致するコールレグが新しい接続先とのポイントツーポイント コールになります。「reject」では、着信コールレグが拒否されます。
callerIdMode	regenerate preserve	着信コールを新しい接続先アドレスに転送する場合に、元の発信者の ID を保持するか、新しい ID を生成するか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「regenerate」になります。
priority	数字	転送ダイアルプランルールを適用する順序を決定するとき使用される数値。高い値が最初に適用されます。
tenant	ID	テナントが指定されている場合、このルールを使用するコールは、指定されたテナントに関連付けられます。
uriParameters	discard forward	着信コールを新しい接続先アドレスに転送する場合、このパラメータは、着信コールの接続先 URI に存在する追加パラメータを破棄するか、それらを発信コールの接続先 URI に転送するかを決定します。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは「discard」になります。このパラメータは、バージョン 2.0 以降に存在します。

7.4.4 個別の着信コール転送ダイアルプランルールに関する情報を取得する

「/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>」ノードでの GET メソッド。指定された転送ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の

「<forwardingDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが前のセクションに従ってデータとともに返されます。

8 コール関連のメソッド

この章では、次の API メソッドについて詳しく説明します。

- [アクティブなコール](#)
- [コールプロファイル](#)
- [コールレック](#)
- [コールレックプロファイル](#)
- [コールブランディングプロファイル](#)
- [レイアウトテンプレート](#)
- [dtmfプロファイル](#)
- [ivrメソッド](#)
- [ivrブランディングプロファイル](#)
- [参加者](#)

注：API を使用して作成されたコールオブジェクトは、コールが切断された後もアクティブなままです。システムが過負荷にならないようにするために、コールが終了したら、DELETE メソッドを使用してコールオブジェクトを削除することをお勧めします。

8.1 コールメソッド

8.1.1 アクティブなコールに関する情報を取得する

「/calls」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
coSpaceFilter	ID	ID を指定すると、フィルタと一致するコールのみが返されます。
tenantFilter	ID	ID を指定すると、指定されたテナントに属するコールのみが返されます。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <calls total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <call> 要素が含まれる可能性があります。 <call> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
callCorrelator	ID	このコールのすべての分散インスタンスで同じである ID。
name	文字列	コールに関連付けられた（人間が読める）名前。最大 200 文字。
coSpace	ID	コールが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の ID を保持します
tenant	ID	コールが属する特定のテナント

8.1.2 新しいコールの作成とアクティブなコールを変更する

「/calls」ノードで実行される POST メソッド、または「/calls/<call id>」への PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpace *	ID	POST のみ：コールがインスタンス化される coSpace を指定します。設定されていない場合は、「name」を設定する必要があります。設定されていない場合、「name」または「callCorrelator」を設定する必要があります。
name *	文字列	POST のみ：インスタンス化される新しいコールの名前を指定します。設定されていない場合は、「coSpace」を設定する必要があります。設定されていない場合は、「coSpace」または「callCorrelator」を設定する必要があります。
callCorrelator *	文字列	POST のみ：クラスタ内の別の Call Bridge にある既存のコールの callCorrelator ID を指定します。設定されていない場合は、「coSpace」または「name」を設定する必要があります。（バージョン 2.6 より）
locked	true false	参加者のアクティブ化のプロセスを制御するために、会議ロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティブ化を必要とする参加者は通常、coSpace のまだ「アクティブ化」されていないゲストです。coSpace のメンバーには影響がなく、いつでも coSpace に参加できます。会議がロックされると、アクティブ化が必要なゲストは、ホストが coSpace のロックを解除するまで会議ロビーで待機します。ロックが解除された時点で、アクティブ化されて coSpace に参加します。会議がロック解除状態からロック状態に移行しても、すでにアクティブ化されている参加者は非アクティブ化されません。 true に設定すると、アクティブ化が必要な新しい参加者は、コールにアクティベータが存在してもアクティブ化されません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
recording	true false	true の場合、この通話は現在録画されています。
streaming	true false	true の場合、このコールは現在ストリーミングされています。(バージョン 2.1 より)
allowAllMuteSelf	true false	true の場合、参加者は自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を持っています。
allowAllPresentationContribution	true false	true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。false の場合、この許可は、コールレグプロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。デフォルトは false です。
joinAudioMuteOverride	true false	true の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートされます。 false の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートが解除されます。 設定されていない場合、新しい参加者はコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用します。
messageText	文字列	コールのすべての参加者に表示するテキスト (構成されている messageDuration がゼロでない場合にのみ表示されます)。(バージョン 2.1 以降)
messagePosition	top middle bottom	設定された messageText を画面に表示する位置 (SIP エンドポイント用) (バージョン 2.1 以降)
messageDuration	数字 permanent	構成された messageText を画面に表示する時間 (秒)。文字列「permanent」を入力すると、再構成されるまで文字列が永続的に表示されます。(バージョン 2.1 以降)
activeWhenEmpty	true false	true に設定すると、参加者がいない場合にこのコールがロードバランシングに対してアクティブであると見なされます。これは、空の会議への最初のコールが優先的にロードバランシングされることを意味します。このパラメータを false に設定すると、空の会議を優先的に使用するロードバランシングが行われなくなります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(バージョン 2.2 以降)
panePlacementHighestImportance	数字	panePlacementHighestImportance が指定されている場合、このアクティブなコールに対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1 (最大値と 1 を含む) までです。設定されている場合、これは coSpace の設定を上書きします。(バージョン 2.7 より)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>panePlacementSelfPaneMode が指定されている場合、このアクティブなコールに対してセルフペインモードがアクティブ化されます。</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます (デフォルト)。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset> - 次の優先順位に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - /calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する - panePlacementSelfPaneMode が /calls の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する (コールがスペース宛の場合) - panePlacementSelfPaneMode が /coSpace でも設定されていない場合は、上記で定義したスキップの動作に戻る <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は「<unset>」に設定されます。設定されている場合、これは coSpace の設定を上書きします。(バージョン 2.7 以降)</p>
messageBannerText	文字列	<p>文字列は、画面に表示されるメッセージです。</p> <p>デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。(バージョン 3.2 以降)</p>
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : コールでメモが許可されていることを示します。 - false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	<p>管理者は、コール全体でこの機能を有効または無効にできます。デフォルトでは、パラメータは <unset> です。コール/コールプロファイル</p> <p>階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルトで true になります。(バージョン 3.2 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<ul style="list-style-type: none"> allowself - 参加者がアクティブな発言者である場合、ペインの配置によって設定されたペインに参加者を表示することに加えて、最初のペインに参加者を表示します。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself - アクティブな発言者以外の他のすべての参加者の最初のペインにアクティブな発言者を表示します。アクティブなスピーカーの場合、前のスピーカーが最初のペインに表示されます。 none - 機能は無効です。
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - コールでメモが許可されていることを示します。 false - コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - コールでキャプションが許可されることを示します。 false - コールでキャプションが許可されないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていることを示します。 false - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : コールでファイル共有が許可されていることを示します。 - false : コールでファイル共有が許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
logoFileName	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前。ファイル名は 128 文字に制限されています。
logoPosition	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面でロゴを表示する必要がある位置。すべてのレベルで設定を解除した場合、ロゴの位置はデフォルトで leftTop になります。
surveyAllowed	true false	<p>True : 会議でのアンケートが許可され、参加者がアンケートに参加できることを示します。</p> <p>False : 会議でのアンケートが許可されていないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

coSpace のコールが正常にインスタンス化されると、そのコールの ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドに返されます。以下で説明するように、このコールにコールレグを追加できるようになりました。

8.1.3 個々のアクティブなコールに関する情報を取得する

「/calls/<call id>」ノードで実行される GET メソッド。指定されたコール ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpace	ID	コールが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の ID を保持します
callCorrelator	ID	このコールのすべての分散インスタンスで同じである ID。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
callType	coSpace forwarding adHoc lyncConferencing	コールタイプを示します。 coSpace : このコールはスペースのインスタンス化 です。forwarding : これは転送されたコールまたは 「ゲートウェイ」コールです。adHoc : これはアド ホックのマルチパーティコールです。 lyncConferencing : このコールレグは Lync 会議 に参加しています。 (バージョン 2.3 以降)
tenant	ID	コールを所有するテナントの ID
DurationSeconds	数字	コールが開始されてからの秒数で表される通話時 間。
name	文字列	コールに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。(バージョン 2.3 以降)
numCallLegs	数字	このコール内で現在アクティブなコールレグの 数
maxCallLegs	数字	このコール内に同時に存在したコールレグの最大 数
numParticipantsLocal	数字	要求先の Call Bridge によってローカルにホストさ れているこのコール内の参加者の数
numParticipantsRemote	数字	他の Call Bridge によってホストされているこのコ ールの参加者の数
numDistributedInstances	数字	このコールの参加者をホストしている他の Call Bridge の数
presenterCallLeg	ID	presenterCallLeg 値は、コールレグがこのコ ール内でアクティブにプレゼンテーションを行っ ている場合にのみ存在します。
locked	true false	コールがロックされているか (true) 、ロック解除 されているか (false) を示します。
recording	true false	true の場合、このコールは録画されるように構成さ れています。
streaming	true false	true の場合、このコールはストリーミングされる ように構成されています。(バージョン 2.1 以 降)
recordingStatus	true false	true の場合、このコールは録画されています。 (バージョン 2.4 以降)
allowAllMuteSelf	true false	true の場合、参加者は自分自身をミュートおよび ミュート解除する権限を持っています。false の 場合、この権限は、コールレグプロファイルの muteSelfAllowed に依存します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
allowAllPresentationContribution	true false	true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。false の場合、この権限は、コールレグプロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。デフォルトは false です。
joinAudioMuteOverride	true false	true の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートされます。 false の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートが解除されます。 設定されていない場合、新しい参加者はコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用します。
messageText	文字列	コールのすべての参加者に表示するテキスト（構成された messageDuration がゼロ以外の場合にのみ表示されます）（バージョン 2.1 以降）
messagePosition	top middle bottom	構成された messageText を画面に表示する位置（SIP エンドポイントの場合）。（バージョン 2.1 以降）
messageDuration	数字	構成された messageText を画面に表示する秒単位の時間（「permanent」に設定すると、再構成されるまでメッセージが表示されます）。（バージョン 2.1 以降）
messageTimeRemaining	数字	構成された messageText が画面に表示される残り時間（秒）。（バージョン 2.1 より）
ownerName	文字列	設定されている場合、このコールの所有者を表示します。これは、このコールの coSpace の meetingsScheduler か、このコールの所有者の名前または所有者の Jid です。（バージョン 2.2 以降）
activeWhenEmpty	true false	true に設定すると、参加者がいない場合にこのコールがロードバランシングに対してアクティブであると見なされます。作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。（バージョン 2.2 以降）
endpointRecording	true false	設定されている場合、このコールの参加者の 1 人が外部で会議を録画しています（現在、会議を録画している Skype クライアントまたは Lync クライアントのみにフラグ付けします）。（バージョン 2.4 以降）
lyncAudienceMute	true false	聞き手が Skype または Lync クライアントによってミュートされたかどうか。このコールが Skype/Lync 会議の場合にのみ表示されます。（バージョン 2.4 から）

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
panePlacementHighestImportance	数字	指定されている場合、このアクティブなコールに対してペインの配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1（最大値と 1 を含む）までです。（バージョン 2.7 以降）
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>このアクティブコールに対してセルフペインモードがアクティブ化されているかどうかを示します。</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます（デフォルト）。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset> - 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する</p> <p> /call の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、</p> <p> /coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する（コールがスペース宛ての場合）</p> <p> /coSpace の panePlacementHighestImportance も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されます。（バージョン 2.7 以降）</p>
coSpaceMetadataConfigured	true false	コールが coSpace のインスタンス化を表す場合にこの値が存在し、coSpace にメタデータが構成されている場合は true です。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : コールでメモが許可されていることを示します。 - false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	設定されている場合、参加者がこのコールで挙手できるかどうかを示します。
messageBannerText	文字列	文字列は、画面に表示されるメッセージです。 デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。(バージョン 3.2 以降)
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<p>この coSpace のアクティブな発言者が表示されるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - allowself - 参加者がアクティブな発言者である場合、ペインの配置によって設定されたペインに参加者を表示することに加えて、最初のペインに参加者を表示します。すべての参加者に同じビューが表示されます。 - suppressself - アクティブな発言者以外の他のすべての参加者の最初のペインにアクティブな発言者を表示します。アクティブなスピーカーの場合、前のスピーカーが最初のペインに表示されます。 - none - 機能は無効です。
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true - コールでメモが許可されていることを示します。 - false - コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true - コールでキャプションが許可されることを示します。 - false - コールでキャプションが許可されないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていることを示します。 - false - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : コールでファイル共有が許可されていることを示します。 - false : コールでファイル共有が許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
logoFileName	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前。ファイル名は 128 文字に制限されています。
logoPosition	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面でロゴを表示する必要がある位置。すべてのレベルで設定を解除した場合、ロゴの位置はデフォルトで leftTop になります。
surveyAllowed	true false	<p>True : 会議でのアンケートが許可され、参加者がアンケートに参加できることを示します。</p> <p>False : 会議でのアンケートが許可されていないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

8.1.4 個々のコールに関する診断の生成

"/calls/<call id>diagnostics" で実行される POST メソッドは、問題のコールのコール診断を生成します。

8.1.5 会議の参加者を取得する

"/calls/<call id>/participants" ノードで実行される GET メソッド。指定されたコールに関連付けられているすべての参加者のリストを取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブな参加者を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
coSpaceFilter	ID	ID を指定すると、フィルタと一致するアクティブな参加者のみが返されます。
tenantFilter	ID	ID を指定すると、指定されたテナントに属するアクティブな参加者のみが返されます。
callBridgeFilter	ID	ID を指定すると、指定された Call Bridge にあるアクティブな参加者のみが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	応答は、最上位の <participants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <participant> 要素が含まれる可能性があります。<participant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 この参加者に関連付けられた（人間が読める）関連付けられた名前。最大長は 200 文字です。
call	ID	この参加者が参加しているコール
tenant	ID	この参加者に関連付けられている特定のテナント
callBridge	ID	この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge

8.1.6 指定されたコールの新しい参加者を作成する

「/calls/<call id>/participants」ノードでの POST メソッド。

注：クラスタ化された Meeting Server 間のロードバランシングにより、Call Bridge または Call Bridge グループ、または構成済みのダイヤルプランルールから明示的に選択すると、リモートのクラスタ化された Call Bridge 上でコールレグのインスタンス化（参加者オブジェクトによって「所有される」）が発生する可能性があります。

注：参加者関連のメソッドの[セクション 8.11](#) も参照してください。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
remoteParty *	文字列	POST のみ。remoteParty は参加者のアドレスを指定します。これは、そのユーザーをコールに招待する SIP URI または電話番号である可能性があります。remoteParty は、<call id> に対応する会議から指定された URI へのコールを行います。2.6 以降、remoteParty が指定されていない場合は、movedParticipant を代わりに指定する必要があります。
または movedParticipant*	ID	POST のみ。movedParticipant は、<call id> に対応する会議に移動する参加者の ID を指定します。callBridge パラメータと callBridgeGroup パラメータは両方とも無視され、移動された参加者のホームである callBridge または callBridgeGroup でコールがホストされます。 (バージョン 2.6 以降) 注：remoteParty と MovingParticipant の両方が指定されている場合、movedParticipant パラメータは無視されます。
bandwidth	数字	POST のみ。指定されている場合、参加者の帯域幅をビット/秒で設定します（たとえば、2Mbit/s の場合は 2000000）。指定しない場合、Call Bridge の設定値が使用されます。
confirmation	true false	POST のみ。指定されている場合、これは、コールに参加するための確認をリモート側から要求するかどうかの自動選択を上書きします。 true：常にリモート側からの確認を必要とします。通常、これは参加するためにキーを押すように要求する音声プロンプトの形式をとります。 false：リモート側からの確認を必要としません。リモート側は、着信コールを受け入れると coSpace に参加します。
ownerId	ID	指定する場合は、Meeting Server がこの参加者に関連付けるための ID でなければなりません。これは、参加者のコールレグが後で照会されたときに Meeting Server によって返されるため、リクエスト送信者にとって意味のある値である必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの参加者のコールレグに関連付けます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
needsActivation		これらのパラメータのいずれかを指定して、このコールレグのコールレグプロファイルの値を上書きします。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	空白のままにすると、この /calls/<call id>/participants に関連付けられた /callLegProfile が使用されます。
participantLabels		
presentationDisplayMode		
presentationContributionAllowed	true false	
presentationViewingAllowed	true false	
endCallAllowed	true false	
muteOthersAllowed	true false	
videoMuteOthersAllowed	true false	
muteSelfAllowed	true false	
videoMuteSelfAllowed	true false	
changeLayoutAllowed	true false	
joinToneParticipantThreshold	true false	
leaveToneParticipantThreshold		
videoMode		
rxAudioMute		
txAudioMute		
rxVideoMute		
txVideoMute		
sipMediaEncryption		

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
audioPacketSizeMs		
deactivationMode		
deactivationModeTime		
telepresenceCallsAllowed		
sipPresentationChannelEnabled	true false	
bfcfMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーション ビデオ チャンネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCF 動作が決まります。</p> <p>serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCF クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。</p> <p>serverAndClient : Meeting Server はリモートデバイスとのコールで BFCF クライアントまたは BFCF サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ</p> <p>MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオの共有が改善されます。</p>
layout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	<p>このパラメータは、非常に初期のバージョンの Acano サーバーとの下位互換性のために提供されています。これには、「defaultLayout」の変更と同等の機能があり、両方が指定されている場合、「defaultLayout」が優先されます。</p>
disconnectOthersAllowed	true false	
addParticipantAllowed	true false	(バージョン 2.3 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、コールレグが低い解像度またはフレームレートで動作する場合がありますことに注意してください。</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ)。</p> <p>max720p30 : ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。</p> <p>一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用するレグにのみ影響します。</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。(バージョン 2.2 以降) トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるメインのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。</p> <p>エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、コールレグが低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください。</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ)。</p> <p>max720p30 : ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
		<p>注：このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p>
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者カウンタの動作を制御します。</p> <p>never：画面上に参加者のカウント値を表示しません</p> <p>auto：必要に応じて画面に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。</p> <p>always：常に画面上に参加者カウント値を表示します</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p>
callBridge	ID	<p>指定されている場合は、指定された Call Bridge から参加者を追加しようとします (バージョン 2.2 以降)。</p> <p>moveParticipant パラメータを使用して参加者が会議間で移動した場合、callBridge パラメータは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p>
callBridgeGroup	ID	<p>指定されている場合は、指定された Call Bridge グループから参加者を追加しようとします (バージョン 2.2 以降)。</p> <p>moveParticipant パラメータを使用して参加者が会議間で移動した場合、callBridgeGroup パラメータは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p>
importance	数字	<p>作成される参加者の重要度の値。最大値は 2,147,483,647 です</p> <p>重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします (値を空白のままにします)。(バージョン 2.2 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
nameLabelOverride	文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト)	<p>指定されている場合、この参加者の名前を上書きします。空の文字列を設定すると、値が消去され、元の名前が復元されます。参加者の名前とそれに関連するコールレグの上書きは同義であり、両方に影響します。最新の変更が優先されます。参加者の名前を次の場所で変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル、 - ActiveControl 名簿 - Web アプリケーションがコールの参加者の名前を確認できる場所 - CDR レコード - Web インターフェイスで名前が表示される場所。 <p>(バージョン 2.4 以降)</p>
dtmfSequence	文字列	<p>参加者が最初に作成されたとき、またはコール中に遠端に送信する一連の DTMF キー入力コマンド。DTMF シーケンスは、この参加者のコールが発信される Call Bridge から再生されます。指定されたシーケンスでは、0 ~ 9 の数字、* と #、および数字の間に一時停止を追加する 1 つまたは複数のカンマ記号 (,) を使用できます。(バージョン 2.4 以降)</p>
controlRemoteCameraAllowed	true false	<p>参加者が Far End Camera Control (FECC; 遠端カメラ制御) を使用できるようにします。(バージョン 2.8 以降)</p>
layoutTemplate	ID	<p>指定した場合、参加者のレイアウトテンプレートを関連付けます。(バージョン 2.8 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
audioGainMode	disabled agc	<p>この参加者のオーディオでオートゲインコントロール (AGC) を使用するかどうかを指定します。(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されます。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。
deactivated	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : 参加者はロビーで待機するか、ロビーに移動できます (バージョン 3.4 以降)。 - false - 参加者はロビーから会議に参加できます。
meetingTitlePosition	top middle bottom	会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。(バージョン 3.2 以降)
chatContributionAllowed	true false	参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
handStatus	文字列	設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がっているか下がっているかを示します。コール中に handStatus が変更されていない場合、値は返されません。(バージョン 3.2 以降)
accessMethod	ID	callLeg/participant のアクセスメソッドとして指定された accessMethod を関連付け、coSpace のデフォルトまたはプライマリアクセスメソッドを上書きします。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
changeRoleAllowed	true、 false 、または <unset>	Web アプリの使用時に、参加者が通話で別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。 true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できます。 false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できません。参加者ロールを変更する権限の詳細については、 付録 A を参照してください。.+ このパラメータには、コール レッグ プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
noteContributionAllowed	true false	参加者がメモを公開できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
captionContributionAllowed	true false	参加者が会議でキャプションを送信できるかどうかを決定します。このパラメータには、callLeg および callLeg プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。 <hr/> 注： captionsAllowed がコールレベルで false に設定されている場合、 captionContributionAllowed が true に設定されていても、参加者はクローズドキャプションを送信できません。 <hr/>
audioPrompt	On/Off	<ul style="list-style-type: none"> - On：ブラストダイヤルのオーディオによる指示が再生され、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 - Off：ブラストダイヤルのオーディオによる指示は再生されず、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要はありません。 <p>このパラメータは、POST メソッドでのみサポートされます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true : 参加者がコールでファイルを共有できることを表します。 • false : 参加者がコールでファイルを共有できないことを表します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
SurveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示を行えることを示します。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

8.1.7 会議のすべての参加者のプロパティを設定する

「/calls/<call id>/participants/*」に対する PUT 操作指定されたコールに関連するすべての参加者のプロパティを設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
rxAudioMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのオーディオの受信をミュートします。
txAudioMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのオーディオの送信をミュートします。
rxVideoMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの受信をミュート (ブロック) します。
txVideoMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの送信をミュート (ブロック) します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
layout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	すべてのエンドポイントのレイアウトを設定します。
importance	数字	すべての参加者の重要度を設定します。最大値は 2,147,483,647 です重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします（値を空白のままにします）。（バージョン 2.2 以降）
filterIds		この操作に含めるか除外する最大 20 の参加者 ID のオプションのコンマ区切りリスト（「mode」パラメータの値によって異なります）。下記の「 参加者に対する一括操作 」を参照してください。（バージョン 2.4 以降）
mode	exclude selected	exclude : filterIds の参加者 ID は操作から除外されます selected : filterIds の参加者 ID のみが操作に含まれます。下記の「 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細 」を参照してください。 作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「exclude」になります。（バージョン 2.4 以降）
deactivated	true/false	<ul style="list-style-type: none"> - true : 参加者はロビーで待機するか、ロビーに移動できます。 - false : 参加者はロビーから会議に参加できます。

8.1.7.1 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細

/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<id1>,<id2>&mode= (exclude|selected)
に対する PUT 操作

モード	filterIds	注記
exclude	空 (ID なし)	これはデフォルト設定であり、バージョン 2.4 より前の動作と同等です。この操作は、選択したコールのすべての参加者に作用します。

モード	filterIds	注記
exclude	1 つまたは複数の ID	操作は、リストされているものを除く、選択したコールのすべての参加者に作用します。
selected	空 (ID なし)	ID が提供されないため、影響はありません。
selected	1 つまたは複数の ID	この操作は、コールで選択された参加者にのみ作用します。

リストの最大サイズは 20 に固定されており、これより多くの ID を含めようとするエラーが発生します。

戻り値は操作の受諾のためであり、個々の参加者の失敗または成功は返されません。

例：

`/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<smith>,<green>&mode=exclude` に対する PUT 操作

では、smith または green のフィルタ ID に一致するすべての参加者が一括操作から除外されるという効果があります。

エラー：

callDoesNotExist コール ID が存在しません。

20 を超える filterId がフィルタ ID リストに含まれている場合は、「valueTooLong」に等しいエラー属性を持つ parameterError が生成されます。

8.1.8 サードパーティの API ツールを使用してクローズドキャプションを送信する

`calls/<call id>/captions/` に対する POST 操作で、サードパーティの API ツールが会議でキャプションを送信できるようになります。これらのキャプションを表示できるのは、Web アプリの参加者のみです。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
captionsText	文字列	会議の画面にキャプションとして表示されるテキスト。

8.2 コールプロファイルメソッド

コールプロファイルは、アクティブな同時参加者の最大数と、SIP (Lync を含む) コールの通話中エクスペリエンスを制御します。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.2.1 コールプロファイルを取得する

「/callProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
usageFilter	unreferenced referenced	グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールプロファイルのみを取得する場合は、リクエストに "usageFilter=unreferenced" を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されているダイヤルインセキュリティプロファイルのみを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。
name	文字列	callProfile の名前。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <callProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callProfile> 要素が含まれる可能性があります。各 <callProfile> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。

8.2.2 コールプロファイルを設定および変更する

- 作成：「/callProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callProfiles/<call profile id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
participantLimit	数字	このコールプロファイルを使用したコール（coSpace インスタンス化またはアドホックコール）で同時にアクティブにできる参加者数の上限を設定します。この制限を超える新しい参加者は許可されません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
locked	true false	<p>参加者のアクティブ化のプロセスを制御するために、会議ロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティブ化を必要とする参加者は通常、coSpace のまだ「アクティブ化」されていないゲストです。coSpace のメンバーには影響がなく、いつでも coSpace に参加できます。</p> <p>会議がロックされると、アクティブ化が必要なゲストは、ホストが coSpace のロックを解除するまで会議ロビーで待機します。ロックが解除された時点で、アクティブ化されて coSpace に参加します。会議がロック解除状態からロック状態に移行しても、すでにアクティブ化されている参加者は非アクティブ化されません。</p> <p>true に設定すると、アクティブ化が必要な新しい参加者は、コールにアクティベータが存在してもアクティブ化されません。</p>
recordingMode	disabled manual automatic	<p>この coSpace またはアドホックコールを録画する方法を制御します</p> <ul style="list-style-type: none"> - disabled : コールは録画されません - manual : ユーザーは録画を開始および停止できます - automatic : コールは自動的に録画され、ユーザーは録画を開始/停止することはできません <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「manual」になります。</p>
lockMode	all needsActivation	<p>コールをロックする動作を定義します</p> <ul style="list-style-type: none"> - all : コールがロックされているときは、すべての新規参加者が会議への参加を許可されず、ロビーで待機状態になります。これには、アクティベーションを必要としない参加者も含まれません。 - NeedActivation : コールがロックされている場合、アクティベーションを必要としない新しい参加者はコールに参加しますが、アクティベーションが必要な新しい参加者はロビーに移動します。coSpace のメンバーである参加者は、アクティベーションが必要であっても、すでに会議に参加中のアクティベータがいる場合には、ロックをバイパスして会議に入室します。 <p>(バージョン 2.9 以降)</p>
sipRecorderUri	文字列	SIP レコーダのダイヤルアウト URI。 (バージョン 2.9 以降)
sipStreamerUri	文字列	SIP ストリーマのダイヤルアウト URI。 (バージョン 3.0 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
streamingMode	disabled manual automatic	<p>この coSpace またはアドホックコールをストリーミングする方法を制御します</p> <ul style="list-style-type: none"> - disabled : コールはストリーミングされません - manual : ユーザーはストリーミングを開始/停止できます - automatic : コール通話は自動的にストリーミングされ、ユーザーはストリーミングを開始/停止することはできません <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで manual になります (バージョン 2.1 以降)。</p>
passcodeMode	required timeout	<p>同じ URI/コール ID を介して coSpace にアクセスするために、空白のパスコードと設定されたパスコードの混合を使用できる場合のパスコードエントリの動作を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - required : パスコードを入力する必要があり、空白のパスコードを明示的に入力する必要があります - timeout : パスコードが入力されないまま時間が経過すると、空白のパスコードとして解釈されます。タイムアウトの長さは、「passcodeTimeout」の値によって決定されます
passcodeTimeout	数字	<p>指定されている場合、これは、パスコードを空白のパスコードとして解釈する前に Call Bridge が待機する時間 (秒単位) です (「passcodeMode」が「timeout」に設定されている場合)。タイムアウト時間は、パスコードプロンプトが終わった時点から測定されます。</p>
gatewayAudioCallOptimization	true false	<p>true に設定すると、着信コールレグが音声のみの場合、発信ゲートウェイコールレグは音声のみになります。</p> <p>(バージョン 2.3 以降)</p>
lyncConferenceMode	dualHomeCluster dualHomeCallBridge gateway	<p>SIP 参加者を Lync 会議に接続する場合の Call Bridge の動作を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - dualHomeCluster : すべての Call Bridge が同じ会議を共有します - dualHomeCallBridge : 各 Call Bridge が独自の会議をホストし、それぞれが AVMCU に接続します - gateway : 各参加者が Lync AVMCU サーバーへの専用接続を持ちます <p>(バージョン 2.3 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
muteBehavior	linked separate	<p>コールのミュート動作を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - linked : このモードでは、Meeting Server でユーザーのコールがミュートされている場合、エンドポイントまたは Web アプリのセッションでデバイスのローカルミュートが自動的に実行される場合があります。つまり、Meeting Server ミュートのエフェクトを別の API コマンドだけで元に戻す必要があります。ユーザー自身がデバイスのミュートを解除する必要があります。 - separate : このモードでは、Meeting Server とローカルデバイス上のユーザーのコールのミュートステータスは互いに独立しています。つまり、他のユーザー/管理者は、すべての参加者をビデオ/音声でミュート/ミュート解除できません。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「linked」になります。(バージョン 3.1 以降)</p>
messageBannerText	文字列	<p>文字列は、画面に表示されるメッセージです。デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。</p>
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : コールでメモが許可されていることを示します。 - false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	<p>管理者は、コール全体でこの機能を有効または無効にできます。</p> <p>デフォルトでは、パラメータは <unset> です。コール/コールプロファイル階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルトで true になります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - コールでメモが許可されていることを示します。 • false - コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - コールでキャプションが許可されることを示します。 • false - コールでキャプションが許可されないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていることを示します。 • false - 呼び出しで背景のぼかしが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true : コールでファイル共有が許可されていることを示します。 • false : コールでファイル共有が許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
logoFileName	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前。ファイル名は 128 文字に制限されています。
logoPosition	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面でロゴを表示する必要がある位置。すべてのレベルで設定を解除した場合、ロゴの位置はデフォルトで leftTop になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
surveyAllowed	true false	True : 会議でのアンケートが許可され、参加者がアンケートに参加できることを示します。 False : 会議でのアンケートが許可されていないことを示します。 このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
name	文字列	callProfile の名前。

8.2.3 個々のコールプロファイルに関する詳細情報を取得する

「/callProfiles/<call profile id>」ノードで実行される GET メソッド。指定されたコールプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.3 コールレグメソッド

8.3.1 アクティブなコールレグに関する情報を取得する

「/callLegs」ノードで実行される GET メソッド（システム内のすべてのアクティブなコールレグに関する情報を取得する）。

または、「/calls/<call id>/callLegs」ノードで実行される GET メソッド（特定のコールのアクティブなコールレグに関する情報を取得する）。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ セクション 4.2.2 参照）。
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するコールレグのみが返されます。
participantFilter	ID	指定された参加者に関連付けられたコールレグのみを返すように participantFilter を指定します。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられたコールレグのみを返すように tenantFilter を指定します。
activeLayoutFilter	文字列	指定されている場合、このフィルタは、指定されたレイアウトを使用して、それらのコールレグに返される結果を制限します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
availableVideoStreamsLowerBound	数字	指定されている場合、このフィルタは、この数以上の使用可能なビデオストリームを持つコールレグに返される結果を制限します。
availableVideoStreamsUpperBound	数字	指定されている場合、このフィルタは、この数以下の使用可能なビデオストリームを持つコールレグに返される結果を制限します。
ownerIdSet	true false	所有者 ID が設定されている、または設定されていないコールレグを返すために使用されます。
alarms	テキスト	<p>指定されたアラーム名が現在アクティブであるコールレグのみを返すために使用されます。サポートされているすべてのアラーム条件をカバーする「all」を使用するか、フィルタする 1 つまたは複数の特定のアラーム条件を「 」記号で区切って指定します。</p> <p>サポートされているアラーム名は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - packetLoss : パケット損失が現在このコールレグに影響を与えています - excessiveJitter : このコールレグのアクティブメディアストリームの 1 つ以上に高レベルのジッターがあります。 - highRoundTripTime : Meeting Server が、自身とコールレグの接続先との間の往復時間を測定します。メディアストリームの往復時間が長いことが検出された場合（コール品質に影響する可能性があります）、このアラーム条件がコールレグに設定されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
callLeg id	ID	<p>応答は、最上位の <callLegs total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callLeg> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><callLeg> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p>
name	文字列	
remoteParty	文字列	
call	ID	
tenant	ID	

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
<alarms>		アクティブなアラーム条件を持つコールレッグの場合、追加の「<alarms>」タグが「<callLeg>」の下にあり、現在アクティブなアラームの詳細が表示されます。この「<alarms>」タグには、1つまたは複数の付随兆候があります。以下の注記も参照してください。
packetLoss	文字列	コールレッグのアクティブメディアストリームの1つ以上でパケット損失が発生している場合に存在します。
excessiveJitter	文字列	コールレッグのアクティブメディアストリームの1つ以上に高レベルのジッターがある場合に存在します。
highRoundTripTime	文字列	コールレッグのメディアストリームの1つ以上で往復時間が長いことが検出された場合に存在します。
accessMethod	ID "coSpace"	<p>ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。</p> <p>POST 操作で <code>accessMethod</code> が指定されていない場合でも、GET 操作は <code>defaultAccessMethod</code> が <code>coSpace</code> 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。</p> <p><code>coSpace</code> がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「<code>coSpace</code>」を返します。これは、<code>accessMethod</code> または <code>defaultAccessMethod</code> が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。</p>

アラームに関する注意：

コールレッグアラームは、注意喚起や問題の発生後にトラブルシューティングに役立つ情報を提供しますが、システムレベルのアラームとは異なり、必ずしもそれ自体がアラーム条件であるかのように扱う必要はありません。

コールレッグアラームは、規定のパケット損失のパーセンテージなどではなく、さまざまな要因によってトリガーされる場合があります。コールレッグの質が低下している可能性がある場合、**Meeting Server** が判断すると、アラーム条件がコールレッグに付加されます。これらの「条件」には、単純なしきい値が含まれる場合がありますが、より適応性の高いしきい値や他の要因を考慮に入れるなど、他のものも含まれる可能性があります。これは、必ずしもユーザーエクスペリエンスの質が低かったことを意味するわけではありません。問題が発生した場合にトラブルシューティングするための情報を提供するためのものです。したがって、このアラーム情報にフィルタを追加し、オペレータへのアラームとしていつイベントにフラグを立てるかを決定する（つまり、独自のしきい値を設定する）ことや、イベント後にコールレッグアラーム情報を取得して、原因を特定できるように、CDR と一緒にこの情報を保存することを検討できます。

8.3.2 コールレグを追加、変更する

- 追加：「/calls/<call ID>/callLegs」ノードへの POST メソッド。<call ID> は、「/calls」での GET 操作または新しく作成されたコールから学習されます（上記の新しいコールの作成を参照）。このコールレグにプロファイルが適用されている場合は、プロファイルに設定されている値で始まります。注：こうして追加または変更されたコールレグは、クラスタ化された Meeting Server 間でロードバランシングされません。
- 変更：「/callLegs/<callLeg ID>」ノードで実行される PUT メソッド。これは、リモート側への進行中の接続にライブで動的な変更を加えます。

注：remoteParty、bandwidth または confirmation を変更することはできません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
remoteParty *	文字列	POST のみ。コールレグのアドレスを指定します。これは、そのユーザーをコールに招待する SIP URI または電話番号である可能性があります。
bandwidth	数字	POST のみ。指定されている場合、コールレグの帯域幅をビット/秒で設定します（たとえば、2Mbit/s の場合は 2000000）。指定しない場合、Call Bridge の設定値が使用されます。
confirmation	true false	POST のみ。指定されている場合、これは、コールに参加するための確認をリモート側から要求するかどうかの自動選択を上書きします。 true：常にリモート側からの確認を必要とします。通常、これは参加するためにキーを押すように要求する音声プロンプトの形式をとります。 false：リモート側からの確認を必要としません。リモート側は、着信コールを受け入れると coSpace に参加します。
ownerId	ID	指定する場合は、Meeting Server がこの参加者に関連付けるための ID でなければなりません。これは、コールレグが後で照会されたときに Meeting Server によって返されるため、リクエスト送信者にとって意味のある値である必要があります。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
chosenLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このパラメータは、このコールレグで優先されるデフォルトレイアウトを上書きします。
dtmfSequence	文字列	コールレグが最初に接続するとき、またはコール中に遠端に送信する一連の DTMF キー入力コマンド。指定されたシーケンスでは、0～9の数字を使用できます。 * と #、および 1 つ以上のカンマ（「,」）を使用して数字の間に区切りを挿入します。
callLegProfile	ID	指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルがこのコールレグに関連付けます。コールレグプロファイルの一部であるすべてのパラメータに個別の値を指定して、このコールレグプロファイルの値を上書きすることもできます。 下記 を参照してください。
needsActivation		これらのパラメータのいずれかを指定して、このコールレグのコールレグプロファイルの値を上書きします。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	指定されている場合、指定されたビデオストリームレイアウトを使用するようにコールレグが変更されます。 注： callLegProfile の「defaultLayout」パラメータは、同等の「layout」パラメータを置き換えます。両方が指定されている場合、defaultLayout が優先されます。
participantLabels		

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
presentationDisplayMode		
presentationContributionAllowed	true false	
presentationViewingAllowed	true false	
endCallAllowed	true false	
muteOthersAllowed	true false	
videoMuteOthersAllowed	true false	
muteSelfAllowed	true false	
videoMuteSelfAllowed	true false	
changeLayoutAllowed	true false	
joinToneParticipantThreshold	数字	
leaveToneParticipantThreshold		
videoMode		
rxAudioMute		
txAudioMute		
rxVideoMute		
txVideoMute		
sipMediaEncryption		
audioPacketSizeMs		
deactivationMode		
deactivationModeTime		
telepresenceCallsAllowed	true false	
sipPresentationChannelEnabled	true false	注：sipPresentationChannelEnabled パラメータは、アクティブなコールでは変更しないでください。
bfcPMode	true false	

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
layout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このパラメータは、非常に初期のバージョンの Acano サーバーとの下位互換性のために提供されています。これには、「defaultLayout」の変更と同等の機能があり、両方が指定されている場合、「defaultLayout」が優先されます。
disconnectOthersAllowed	true false	
addParticipantAllowed	true false	

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレグはより低い解像度またはフレームレートで動作する場合がありますことに注意してください。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ)。</p> <p>max720p30 : ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用するレグにのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p>
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者カウンターの動作を制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません</p> <p>auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。</p> <p>always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
nameLabelOverride	文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト)	<p>指定されている場合、このコールレグの名前を上書きします。空の文字列を設定すると、値が消去され、元の名前が復元されます。参加者の名前とそれに関連するコールレグの上書きは同義であり、両方に影響します。最新の変更が優先されます。参加者の名前を次の場所で変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル、 - ActiveControl 名簿 - Web アプリケーションがコールの参加者の名前を確認できる場所 - CDR レコード - Web インターフェイスで名前が表示される場所。 <p>(バージョン 2.4 以降)</p>
controlRemoteCameraAllowed	true false	<p>コールレグがリモート参加者のカメラを (FECC を使用して) 制御できるかどうかを決定します。 (バージョン 2.8 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
layoutTemplate	ID	指定されている場合、レイアウトテンプレートをこのコールレグに関連付けます。(バージョン 2.8 以降)
audioGainMode	disabled agc	<p>このコールレグオーディオでオートゲインコントロール (AGC) を使用するかどうかを指定します。(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されません。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。
meetingTitlePosition	disabled top middle bottom	<p>会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。</p> <p>値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。</p>
chatContributionAllowed	true false	参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
handStatus	raised lowered	このコールレグで手を上げるか下げるかを指定します。
accessMethod	ID	callLeg/participant のアクセス方式として指定された accessMethod を関連付け、coSpace のデフォルトまたはプライマリアクセス方式を上書きします。参加者ロールを変更する権限の詳細については、 付録 A を参照してください。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
changeRoleAllowed	true、false、または <unset>	<p>Web アプリの使用時に、参加者が通話で別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できます。false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できません。参加者ロールを変更する権限の詳細については、付録 Aを参照してください。</p> <p>このパラメータには、コール レッグ プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
noteContributionAllowed	true false	<p>参加者がメモを公開できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
captionContributionAllowed	true false	<p>参加者が会議でキャプションを送信できるかどうかを決定します。このパラメータには、callLeg および callLeg プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> <hr/> <p>注：captionsAllowed がコールレベルで false に設定されている場合、captionContributionAllowed が true に設定されていても、参加者はクローズドキャプションを送信できません。</p>
audioPrompt	On/Off	<ul style="list-style-type: none"> On：ブラストダイヤルのオーディオによる指示が再生され、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 Off：ブラストダイヤルのオーディオによる指示は再生されず、ユーザーは会議に参加するために DTMF キーを入力する必要はありません。 <p>このパラメータは、POST メソッドでのみサポートされます。</p>
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true：参加者がコールでファイルを共有できることを表します。 false：参加者がコールでファイルを共有できないことを表します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
SurveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示を行えることを示します。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロフィールの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

8.3.3 /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe

/callLegs/<call leg id>/generateKeyframe に対する POST 操作により、問題のコールレグに対する発信ビデオストリーム内の新しいフレームの生成をトリガーします。これはデバッグ機能付きであり、問題の診断時にCisco サポートからこの機能の使用を求める場合があります。

8.3.4 API を使用した Far End Camera Control (遠端カメラ制御) を許可する

リモートシステムのカメラで FECC を許可するには (バージョン 2.9 以降) :

- /callLegs/<call leg id>/cameraControl に対す

る PUT 操作。このオブジェクトは、オプションの要

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
pan	left right	リモート カメラを左または右にパンします。
tilt	up down	リモート カメラを上または下に傾けます。
zoom	in out	リモート カメラを拡大または縮小します。

8.3.5 会議の参加者のスナップショットを撮る

参加者のビデオのスナップショットや会議ビデオのスナップショットは、会議中に撮影できます。callLegs/<call leg id>/snapshot の GET メソッドは、スナップショットを取得するために導入されました。このオプションは、参加者レベルで利用できます。IPX ACE は、次の任意のパラメータをサポートしています。

パラメータ	タイプ/値	説明
Direction (任意)	文字列	<p>RX または TX を受け入れます</p> <ul style="list-style-type: none"> - RX/incoming : 参加者から CMS へ - TX/outgoing : CMS から参加者へ <p>指定しない場合、デフォルトで RX/incoming になります。</p>
maxWidth (任意)	数値	<p>サポートされるスナップショットの最大解像度は 720 ピクセルです。この API は maxWidth 値を受け入れます。したがって、スナップショットの最大解像度を 720P にするには、このパラメータを 1280 に設定する必要があります。</p> <p>他の値も受け入れますが、Meeting Server は最大解像度 720 ピクセルでスナップショットに回答します。</p> <hr/> <p>注 : スナップショット画像の最大解像度は 720p (1280*720 ピクセル) です</p> <hr/> <p>maxwidth 値が指定されていない場合、Meeting Server はスナップショットにデフォルトの解像度 96p で応答します。</p>

注 : スナップショット API には、Meeting Server の Web 管理インターフェイスまたは API エクスプローラを使用してアクセスすることはできません。

8.3.6 個々のコールレグに関する情報を取得する

「/callLegs/<callLeg ID>」 ノードで実行される GET メソッド。

指定されたコールレグ ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
callLeg id	ID	
name	文字列	
remoteParty	文字列	
originalRemoteParty	文字列	<p>発信コールの場合、これは元の接続先アドレスです。着信コールの場合、これは、最初に Call Bridge に通知されたリモートアドレスです。 (バージョン 2.3 以降)</p>
localAddress	文字列	
call	ID	
tenant	ID	

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
type	sip acano	
subType	lync avaya distributionLink lyncDistribution webApp (2.9 以降)	
lyncSubType	audioVideo applicationSharing instantMessaging	<p>コールレグタイプをさらに分化するもので、コールレグのサブタイプが「lync」の場合は以下のものが使用できます。</p> <p>audioVideo : Call Bridge と Lync の間でオーディオとビデオを交換するために使用される Lync コールレグ。</p> <p>applicationSharing : Lync と Call Bridge 間のアプリケーションまたはデスクトップ共有に使用される Lync コールレグ。</p> <p>instantMessaging : Lync と Call Bridge 間のインスタントメッセージの交換に使用される Lync コールレグ。</p> <p>応答に存在する場合、これらのパラメータは、このコールレグに対して現在アクティブなオーバーライドです (つまり、コールレグの関連テナントなどのより高いレベルのために強制されているものではありません)。</p>
direction	incoming outgoing	
canMove	true false	このコールレグを所有している参加者を移動できるかどうか。(バージョン 2.6 以降)
movedCallLeg	ID	このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグを示します。(バージョン 2.6 以降)
movedCallLegCallBridge	ID	このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
configuration	名前	タイプ	説明
	ownerId	ID	
	chosenLayout	次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
	needsActivation		上記とおりに callLegProfile フィールドが存在する場合、これらのフィールドは、このコールレグに対して現在アクティブなオーバーライドを示します（つまり、コールレグの関連テナントなどのより高いレベルのために強制されているものではありません）。
	defaultLayout		
	participantLabels		
	presentationDisplayMode		
	presentationContributionAllowed		
	presentationViewingAllowed		
	endCallAllowed		
	muteOthersAllowed		
	videoMuteOthersAllowed		
	muteSelfAllowed		
videoMuteSelfAllowed			

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
名前	タイプ	説明	
changeLayoutAllowed			
joinToneParticipantThreshold			
leaveToneParticipantThreshold			
videoMode			
rxAudioMute			
txAudioMute			
rxVideoMute			
txVideoMute			
sipMediaEncryption			
audioPacketSizeMs			
deactivationMode			
deactivationModeTime			
telepresenceCallsAllowed			
sipPresentationChannelEnabled			
bfcfMode			
disconnectOthersAllowed			
addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降)		<p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> <p>注 : これらのパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p>	
qualityMain (バージョン 2.2 以降)			
qualityPresentation (バージョン 2.2 以降)			
participantCounter (バージョン 2.2 以降)			

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
名前	タイプ	説明
nameLabelOverride (バージョン 2.4 以降)		
controlRemoteCameraAllowed (バージョン 2.8 以降)		
layoutTemplate (バージョン 2.8 以降)		
audioGainMode (バージョン 2.8 以降)		
meetingTitlePosition	top middle bottom	会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。
handStatus	raised lowered	設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がっているか下がっているかを示します。コール中に handStatus が変更されなかった場合、値は返されません。
accessMethod	ID "coSpace"	<p>ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。</p> <p>coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
	タイプ	説明 handStatusLastModified	
	UTC 日時を	文字列 挙手ステータスが最後に変更された返します。コール中に handStatus が変更されていない場合、値は返されません。	
	chatContributionAllowed	true false	参加者が参加者はチャットメッセージを送信できるかどうかを決めます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
	changeRoleAllowed	true、false、または <unset>	Web アプリの使用時に参加者がコールで別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できます。false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できません。 このパラメータには、コール レッグ プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
	noteContributionAllowed	true false	参加者がメモを公開できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。
	captionContributionAllowed	true false	参加者が会議でキャプションを送信できるかどうかを決定します。このパラメータには、callLeg および callLeg プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。 注: captionsAllowed がコールレベルで false に設定されている場合、captionContributionAllowed が true に設定されていても、参加者はクロードキャプションを送信できません。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
	fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> ・ true - 参加者がコールでファイルを共有できることを表します。 ・ false : 参加者がコールでファイルを共有できないことを表します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロフィールの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
	surveyOpsAllowed	true false	<p>True : 参加者はアンケートの結果を作成/起動/削除/表示できます。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロフィールの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
status	名前	タイプ	説明
	state	initial ringing connected onHold	
	DurationSeconds	数字	
	sipCallID	文字列	
	groupID	ID	
	recording	true のみ	callLeg が録画中の場合にのみ存在します
	streaming	true のみ	callLeg がストリーミング中の場合にのみ存在します
	deactivated	true のみ	true の場合にのみ存在します
	encryptedMedia	true false	
	unencryptedMedia	true false	
cipherSuite	次のいずれか： AEAD_AES_256_GCM AEAD_AES_128_ GCM AES_CM_128_ HMAC_SHA1_80 AES_CM_128_ HMAC_SHA1_32	このコールレグのメディアのいずれかが暗号化されている場合、これは使用中の SRTP 暗号化の暗号スイートを表します。 - AEAD_AES_256_GCM : AES 暗号化、256 ビット、GCM - AEAD_AES_128_GCM : AES 暗号化、128 ビット、GCM - AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 - AES 暗号化、128 ビット、80 ビット SHA-1 認証タグ - AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 - AES 暗号化、128 ビット、32 ビット SHA-1 認証タグ (バージョン 2.0 以降)	

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
	名前	タイプ	
	layout	次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	説明
	activeLayout	次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
	availableVideoStreams	数字	
layoutTemplate	ID	カスタム レイアウト テンプレートが現在コールレグのレイアウトの生成に使用されている場合に表示され、使用されるレイアウトテンプレートが特定されます。(バージョン 2.8 以降)	

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
	cameraControlAvailable カメラ制御する機能を	true false これは、このコールレグでカメラをリモ アドバタイズしたかどうかを示します。 true : このコールレグではカメラ制御が可 能です false : このコールレグではカメラ制御が できません (バージョン 2.8 以降)
	confirmationStatus	required notRequired confirmed required: confirmation=true が設定されていて、ユーザーが通話に参 加するための DTMF 確認をまだ提供し ていないことを意味します。 notRequired: confirmation=true が設定さ れませんでした。 confirmed : 参加者がコールへの参加を望 んでいることを確認するために DTMF シー ケンスが入力されました。

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記																					
status	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="355 296 496 352">名前</th> <th data-bbox="496 296 764 352">タイプ</th> <th data-bbox="764 296 1417 352">説明</th> </tr> </thead> </table>			名前	タイプ	説明																		
名前	タイプ	説明																						
	rxAudio	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="503 365 808 422">名前</th> <th data-bbox="808 365 987 422">タイプ</th> <th data-bbox="987 365 1417 422">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="503 422 808 1083">codec</td> <td data-bbox="808 422 987 1083">次のいずれかになります。 g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus</td> <td data-bbox="987 422 1417 1083">使用されるオーディオコーデック： g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 超広帯域</td> </tr> <tr> <td data-bbox="503 1083 808 1136">jitter</td> <td data-bbox="808 1083 987 1136">数字</td> <td data-bbox="987 1083 1417 1136"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="503 1136 808 1224">bitRate</td> <td data-bbox="808 1136 987 1224">数字</td> <td data-bbox="987 1136 1417 1224">着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート</td> </tr> <tr> <td data-bbox="503 1224 808 1482">codecBitRate</td> <td data-bbox="808 1224 987 1482">数字</td> <td data-bbox="987 1224 1417 1482">ビットレートによってのみ区別できるバリエーションを持つオーディオコーデックタイプ (G.722.1 など) に存在します。このフィールドは、観測された測定値ではなく、予想されるオーディオビットレートになります (バージョン 2.1 以降)。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="503 1482 808 1535">packetLossPercentage</td> <td data-bbox="808 1482 987 1535">番号</td> <td data-bbox="987 1482 1417 1535"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="503 1535 808 1661">gainApplied</td> <td data-bbox="808 1535 987 1661"></td> <td data-bbox="987 1535 1417 1661">AGC を使用してリモートパーティから受信したオーディオに適用されたゲインのデシベル単位の値 (バージョン 2.1 以降)</td> </tr> </tbody> </table>		名前	タイプ	説明	codec	次のいずれかになります。 g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus	使用されるオーディオコーデック： g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 超広帯域	jitter	数字		bitRate	数字	着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート	codecBitRate	数字	ビットレートによってのみ区別できるバリエーションを持つオーディオコーデックタイプ (G.722.1 など) に存在します。このフィールドは、観測された測定値ではなく、予想されるオーディオビットレートになります (バージョン 2.1 以降)。	packetLossPercentage	番号		gainApplied		AGC を使用してリモートパーティから受信したオーディオに適用されたゲインのデシベル単位の値 (バージョン 2.1 以降)
名前	タイプ	説明																						
codec	次のいずれかになります。 g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus	使用されるオーディオコーデック： g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 超広帯域																						
jitter	数字																							
bitRate	数字	着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート																						
codecBitRate	数字	ビットレートによってのみ区別できるバリエーションを持つオーディオコーデックタイプ (G.722.1 など) に存在します。このフィールドは、観測された測定値ではなく、予想されるオーディオビットレートになります (バージョン 2.1 以降)。																						
packetLossPercentage	番号																							
gainApplied		AGC を使用してリモートパーティから受信したオーディオに適用されたゲインのデシベル単位の値 (バージョン 2.1 以降)																						

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記												
status	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="365 296 678 352">名前</th> <th data-bbox="678 296 1027 352">タイプ</th> <th data-bbox="1027 296 1417 352">説明</th> </tr> </thead> </table>			名前	タイプ	説明									
	名前	タイプ	説明												
	txAudio	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="685 359 987 422">名前</th> <th data-bbox="987 359 1149 422">タイプ</th> <th data-bbox="1149 359 1411 422">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="685 422 987 1486">codec</td> <td data-bbox="987 422 1149 1486">次のいずれか: g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus</td> <td data-bbox="1149 422 1411 1486">使用されるオーディオコーデック: g711u - G.711 μ-law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 超広帯域</td> </tr> <tr> <td data-bbox="685 1486 987 1539">jitter</td> <td data-bbox="987 1486 1149 1539">数字</td> <td data-bbox="1149 1486 1411 1539"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="685 1539 987 1663">bitRate</td> <td data-bbox="987 1539 1149 1663">数字</td> <td data-bbox="1149 1539 1411 1663">着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート</td> </tr> </tbody> </table>		名前	タイプ	説明	codec	次のいずれか: g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus	使用されるオーディオコーデック: g711u - G.711 μ-law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 超広帯域	jitter	数字		bitRate	数字	着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート
	名前	タイプ	説明												
codec	次のいずれか: g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus	使用されるオーディオコーデック: g711u - G.711 μ-law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチ オーディオコーデック) 超広帯域													
jitter	数字														
bitRate	数字	着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート													

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
status	名前		説明
	rxVideo		
	名前		タイプ
	説明		
	親タグに含まれるパラメータ		
	role	main presentation	ビデオストリームのタイプ：メインまたはプレゼンテーション
	応答値		
	codec	次のいずれかになります。 h261 h263 h263+ h264 h264Lync vp8 rtVideo	使用されるビデオコーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 SVC (Lync 用) vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo
	width	数字	
	height	数字	
frameRate	数字		
jitter	数字		
bitRate	数字		
packetLossPercentage	番号		

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
txVideo	名前	説明	
	名前	タイプ	説明
	親タグに含まれるパラメータ		
	role	main presentation	ビデオストリームのタイプ：メインまたはプレゼンテーション
	応答値		
	codec	次のいずれか： h261 h263 h263+ h264 h264Lync vp8 rtVideo	使用されるビデオコーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 SVC (Lync 用) vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo
	width	数字	
	height	数字	
	frameRate	数字	
	jitter	数字	
bitRate	数字		
roundTripTime	数字		

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記		
	名前 activeControl (バージョン 2.1 以降)	タイプ	説明	
		名前 暗号化	タイプ true/false	説明 アクティブコントロールがリモートパーティとネゴシエートされている場合、アクティブコントロール接続が暗号化されているかどうかを示します。 true : 暗号化されたアクティブコントロール接続がリモートパーティとネゴシエートされています false : アクティブコントロール接続がリモートパーティとネゴシエートされましたが、暗号化されていません
		localSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	次の表を参照してください。	
		remoteSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	次の表を参照してください。	
	名前 multiStreamVideo (バージョン 2.2 以降)	タイプ	説明	
		名前 numScreens	タイプ 数字	説明 このコールレグでマルチストリームビデオがアクティブであることを表します
		名前 numCameras	タイプ 数字	説明 このコールレグで現在アクティブなマルチストリームのメインのビデオカメラストリーム数。(バージョン 2.9 以降)
		名前 numCamerasAvailable	タイプ 数字	説明 このコールレグで使用可能なものとして相手側がアダプタイズしているマルチストリームのメインのビデオカメラストリーム数。(バージョン 2.9 以降)

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
	名前	タイプ	説明
	lyncRole	presenter が ます。	<p>このコールレグに関連付けられている参加者 Lync 会議に参加している場合にのみ表示され</p> <p>presenter : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議のプレゼンタです。</p> <p>attendee : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議の出席者です。</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p>

アクティブコントロールパラメータのステータス

名前	タイプ	説明
localSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	名前 capabilities	説明
	conferenceInfo	存在する場合、これは、ローカルの Meeting Server が遠端の XCCP 機能にサブスクライブしていることを示します。
	layouts	存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 会議情報 (参加者リストや、録画がアクティブかどうかなどの会議全体の情報が含まれます) にサブスクライブしていることを示します。
	selfInfo	存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP レイアウト情報にサブスクライブしていることを示します。
	speakerInfo	存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 自己情報にサブスクライブしていることを示します。
		存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 発言者情報に登録したことを示します。
remoteSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	名前	説明
	capabilities	存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP 機能にサブスクライブしていることを示します。
	conferenceInfo	存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP 自己情報にサブスクライブしていることを示します (これには、参加者リストと、録音がアクティブかどうかなどの会議全体の情報が含まれます)。
	layouts	存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP レイアウト情報にサブスクライブしていることを示します。
	selfInfo	存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP 自己情報にサブスクライブしていることを示します。
	speakerInfo	存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP 発言者情報に登録していることを示します。
注: コールログ設定と返されるステータスの例については、 付録 B を参照してください。		

8.4 コールレグプロファイルメソッド

8.4.1 一般情報

コールレグプロファイルは、一連のコール中の動作を定義します。coSpace、coSpaceUser、accessMethod、tenant オブジェクトは、オプションで callLegProfile アソシエーションを持つことができます。その場合、それらのオブジェクトに対応するコールレグは、コールレグプロファイルによって定義されたインコール動作を継承します。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.4.2 コールレグプロファイルを取得する

「/callLegProfiles/」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。
usageFilter	unreferenced referenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールプロファイルのみが取得されます。これは、コールレグプロファイルを削除する前のチェックとして有用です。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
needsActivation	true false	レスポンスは「<callLegProfiles>」オブジェクトに含まれる <callLegProfile id=<call leg profile id> オブジェクトのコレクション。 <callLegProfile> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 「true」に設定されている場合、参加者は、1 人以上の「full/activator」参加者が参加するまで、オーディオとビデオを受信または投稿できません。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このコールレグプロファイルを使用するコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。
changeLayoutAllowed	true false	「true」に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するすべてのレグは、SIP エンドポイントの画面レイアウトを変更できます。
participantLabels	true false	「true」に設定すると、このコールレグプロファイルを使用するコールレグのビデオペインに参加者ペインラベルが表示されます。
presentationDisplayMode	dualStream singleStream	singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の合成コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。
presentationContributionAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグはコンテンツを共有できます。
presentationViewingAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、共有コンテンツを表示できます。
endCallAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、参加しているコールを終了できます。
disconnectOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者の接続を切断できます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
addParticipantAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者を追加できます。
muteOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、他の参加者の音声をミュートまたはミュート解除できます。
videoMuteOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、他の参加者の音声をミュートまたはミュート解除（開始/停止）できます。
muteSelfAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、自分のオーディオをミュートまたはミュート解除できます。
videoMuteSelfAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、自分のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）できます。
joinToneParticipantThreshold	数字	「参加トーン」が再生される SIP エンドポイントを使用する参加者の数。最大 100。値が 0 の場合、機能が「無効」になります。名簿リストに参加または退出するユーザーが視覚的に示されるため、Web アプリのユーザーはこれらの音声通知を受け取りません。
leaveToneParticipantThreshold	数字	「退出トーン」が再生される参加者の数（値が 0 の場合、機能は「無効」になります）

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
videoMode	auto disabled	disabled に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、オーディオのみ、またはオーディオとコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオストリームにコンテンツを表示するデバイスの場合、必要に応じてメインビデオストリームにコンテンツは表示されますが、参加者のビデオは表示されません。
rxAudioMute	true false	true の場合、他の参加者は、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声を聞くことができません。
txAudioMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのオーディオはミュートされます。
rxVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用してコールレグから提供された（「カメラ」）ビデオは、他の参加者には表示されません。
txVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのビデオストリームはミュートされます（たとえば、SIP エンドポイントの画面にはロゴのみが表示され、Web アプリにはビデオがまったく送信されません）。
sipMediaEncryption	optional required prohibited	Web 管理インターフェイスの設定と同じ
audioPacketSizeMs	数字	発信オーディオストリームの優先パッケージサイズの数値（ミリ秒単位、デフォルト値は 20 ミリ秒）
deactivationMode	deactivate disconnect remainActivated	最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コールレグに対するアクション
deactivationModeTime	数字	最後の「アクティベータ」が退出してから deactivationMode アクションが実行されるまでの秒数

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
telepresenceCallsAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、TIP (Telepresence Interoperability Protocol) コールを行うことができます。
sipPresentationChannelEnabled	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグには、プレゼンテーションビデオチャンネル操作の実行が許可されます。
bfcfMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーションビデオチャンネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCP 動作が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。 ■ serverAndClient : このオプションにより、Call Bridge はリモートデバイスとのコールで BFCP クライアントまたは BFCP サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオ共有が改善されます。
callLockAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグがコールをロックできるかどうかを決定します。
setImportanceAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、コールの参加者の重要度を変更できるかどうか。(バージョン 2.3 より)
allowAllMuteSelfAllowed	false true	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分自身をミュートおよびミュート解除するすべてのコールレグの許可を変更できるかどうか。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
allowAllPresentationContributionAllowed	false true	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、すべてのコールレグのプレゼンテーション権限を変更できるかどうか。
changeJoinAudioMuteOverrideAllowed	false true	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、新しい参加者の初期ミュート状態を設定できるかどうか。
recordingControlAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、コールの録画を開始/停止できるかどうか。
streamingControlAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、コールのストリーミングを開始/停止できるかどうか。
name	文字列	プロファイルの名前です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
maxCallDurationTime	数字	コールレグが存在する最大時間（秒単位）。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 max1080p60	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレグはより低い解像度またはフレームレートで動作する場合があります。ことに注意してください。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ)。</p> <p>max720p30 : ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max1080p60 : ブリッジが、最大毎秒 60 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		<p>注： Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5 max720p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用する callLeg にのみ影響します。 (バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p30 - Call Bridge が、毎秒 30 フレームで最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : qualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は受信プレゼンテーションビデオに最大解像度フレームレートを適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。ただし、Lync クライアントが</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		プレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は、Lync からの受信プレゼンテーションビデオに qualityPresentation 設定を適用しませんが、SIP エンドポイントへの送信プレゼンテーションビデオには適用します。
participantCounter	never auto always	画面上の参加者カウンターの動作を制御します。(バージョン 2.2 以降) never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。 always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します

8.4.3 コールレグプロファイルを作成、変更する

- 作成 : 「/callLegProfiles」ノードに対する POST メソッド。コールレグプロファイルが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーには新しいコールレグプロファイルの ID が含まれます。
- コールレグプロファイルの変更には、「/callLegProfiles/<call leg profile id>」ノードの PUT メソッドを使用します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
needsActivation	true false	「true」に設定されている場合、参加者は、1 人以上の「full/activator」参加者が参加するまで、オーディオとビデオを受信または投稿できません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このコールレグプロファイルを使用するコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。
changeLayoutAllowed	true false	「true」に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するすべてのレグは、SIP エンドポイントの画面レイアウトを変更できます。
participantLabels	true false	「true」に設定すると、このコールレグプロファイルを使用するコールレグのビデオペインに参加者ペインラベルが表示されます。
presentationDisplayMode	dualStream singleStream	singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の複合コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。
presentationContributionAllowed	true false	true の場合、コールレグを使用している参加者はコンテンツを提供できます
presentationViewingAllowed	true false	true の場合、コールレグを使用している参加者は、他の人が提供したコンテンツを表示できます。
endCallAllowed	true false	true の場合、コールレグプロファイルを使用している参加者は、全員の会議を終了できます。
disconnectOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、アクティブコントロール経由でのみ、他の参加者の接続を切断できます。(バージョン 2.1 以降)
addParticipantAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者を追加できます。(バージョン 2.3 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
muteOthersAllowed	true false	true の場合、コールレグプロファイルを使用している参加者は他の参加者をミュートできます。
videoMuteOthersAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、他の参加者のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）できるかどうか
muteSelfAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分のオーディオをミュートまたはミュート解除できるかどうか
videoMuteSelfAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）できるかどうか
joinToneParticipantThreshold	数字	「参加トーン」が再生される SIP エンドポイントを使用する参加者の数。最大 100。値が 0 の場合、機能が「無効」になります。名簿リストに参加または退出するユーザーが視覚的に示されるため、Web アプリのユーザーはこれらの音声通知を受け取りません。
leaveToneParticipantThreshold	数字	「退出トーン」が再生される参加者の数（値が 0 の場合、機能は「無効」になります）
videoMode	auto disabled	disabled に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、オーディオのみ、またはオーディオとコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオストリームにコンテンツを表示するデバイスの場合、必要に応じてメインビデオストリームにコンテンツは表示されますが、参加者のビデオは表示されません。
rxAudioMute	true false	true の場合、他の参加者は、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声聞くことができません。
txAudioMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのオーディオはミュートされます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
rxVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用してコールレグから提供された（「カメラ」）ビデオは、他の参加者には表示されません。
txVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのビデオストリームはミュートされます（たとえば、SIP エンドポイントの画面にはロゴのみが表示され、Web アプリにはビデオがまったく送信されません）。
sipMediaEncryption	optional required prohibited	Web 管理インターフェイスの設定と同じ
audioPacketSizeMs	数字	発信オーディオストリームの優先パケットサイズの数値（ミリ秒単位、デフォルト値は 20 ミリ秒）
deactivationMode	deactivate disconnect remainActivated	最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コールレグに対するアクション
deactivationModeTime	数字	最後の「アクティベータ」が退出してから deactivationMode アクションが実行されるまでの秒数
telepresenceCallsAllowed	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、TIP（Telepresence Interoperability Protocol）コールを行うことができます。
sipPresentationChannelEnabled	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグには、プレゼンテーションビデオチャネル操作の実行が許可されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
bfcpMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーション ビデオ チャネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCP 動作が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。 ■ serverAndClient : このオプションにより、Call Bridge はリモートデバイスとのコールで BFCP クライアントまたは BFCP サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオ共有が改善されます。
callLockAllowed	true false	このコールログプロファイルを使用するコールログがコールをロックできるかどうかを決定します。
setImportanceAllowed	true false	このコールログプロファイルを使用するコールログが、コールの参加者の重要度を変更できるかどうかを決定します。(バージョン 2.3 以降)
allowAllMuteSelfAllowed	true false	このコールログプロファイルを使用するコールログが、自分自身をミュートおよびミュート解除するすべてのコールログの許可を変更できるかどうか。
allowAllPresentationContributionAllowed	false true	このコールログプロファイルを使用するコールログが、すべてのコールログのプレゼンテーション権限を変更できるかどうか。
changeJoinAudioMuteOverrideAllowed	false true	このコールログプロファイルを使用するコールログが、新しい参加者の初期ミュート状態を設定できるかどうか。
recordingControlAllowed	true false	true の場合、このコールログプロファイルを使用するコールログは、コールの録画を開始/停止できます。
streamingControlAllowed	true false	true の場合、このコールログプロファイルを使用するコールログは、コールのストリーミングを開始/停止できます。(バージョン 2.1 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	プロフィールの名前です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
maxCallDurationTime	数字	コールレグが存在する最大時間（秒単位）。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 max1080p60	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレグはより低い解像度またはフレームレートで動作する場合がありますことに注意してください。（バージョン 2.2 以降）</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します（たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ）。</p> <p>max720p30 : ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30 : ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max1080p60 : ブリッジが、最大毎秒 60 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5 max720p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーションストリームを使用する callLeg にのみ影響します。 (バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p30 - Call Bridge が、毎秒 30 フレームで最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : qualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は受信プレゼンテーションビデオに最大解像度フレームレートを適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。ただし、Lync クライアントがプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は、Lync からの受信プレゼンテーションビデオに qualityPresentation 設定を適用しませんが、には適用します。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
		発信プレゼンテーションビデオを SIP エンドポイントに送信します。
participantCounter	never auto always	画面上の参加者カウンターを制御します。(バージョン 2.2 以降) never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。 通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。 always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します
controlRemoteCameraAllowed	true false	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、リモート参加者のカメラを (FECC 経由で) 制御できるかどうかを決定します。(バージョン 2.8 以降)
layoutTemplate	ID	指定されている場合、レイアウトテンプレートはこのコールレグプロファイルに関連付けます。(バージョン 2.8 以降)
audioGainMode	disabled agc	このコールレグプロファイルを使用するコールレグのオーディオでオートゲインコントロール (AGC) を使用するかどうかを指定します (バージョン 2.8 以降) 注： - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されます。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
meetingTitlePosition	disabled top middle bottom	<p>会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。</p> <p>値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。</p>
chatContributionAllowed	true false	<p>参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
changeRoleAllowed	true 、 false 、または <unset>	<p>Web アプリの使用時に、参加者が通話で別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できます。false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更できません。参加者ロールを変更する権限の詳細については、付録 Aを参照してください。</p> <p>このパラメータには、コール ログ プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
noteContributionAllowed	true false	<p>参加者がメモを公開できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
captionContributionAllowed	true false	<p>参加者が会議でキャプションを送信できるかどうかを決定します。</p> <p>このパラメータには、callLeg および callLeg プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> <hr/> <p>注： captionsAllowed がコールレベルで false に設定されている場合、captionContributionAllowed が true に設定されていても、参加者はクロズドキャプションを送信できません。</p>
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true : 参加者がコールでファイルを共有できることを表します。 - false : 参加者がコールでファイルを共有できないことを表します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>
SurveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示を行えることを示します。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

すべての場合において、POST または PUT でパラメータを空の値に明示的に設定すると、そのパラメータはそのプロファイルに対して「unset」になります。これらのコールログは、上位レベルのコールログプロファイルからそのパラメータの値を「継承」します。

8.4.4 個々のコールログプロファイルに関する情報を取得する

/callLegProfiles/<call leg profile id> ノードの GET メソッド。指定されたコールログプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の「<callLegProfile id=call leg profile>」オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。ログプロファイル<ID>>" オブジェクトは、

前のセクションに従ってデータとともに返されます。

8.4.5 コールレグプロファイルとアクセス方式の使用例

コールレグプロファイルをアクセス方式に関連付けることができる主な用途は、異なる URI / コール ID / パスコードの組み合わせを構築して、通話中のさまざまな動作を提供できるようにすることです。たとえば、「needsActivation」値が「true」のコールレグプロファイルを 1 つのアクセス方式に関連付け、「needsActivation」値が「false」である別のコールレグプロファイルを別のアクセス方式に関連付けることができます。

事実上、これにより、その coSpace に対して個別の「アクティベータ」および「ゲスト」用のアクセス方式が設定され、「needsActivation=true」アクセス方式への発信者は、会議のオーディオおよびビデオがアクティブになる前に、他のアクセス方式へのコールが成功するまで待機する必要があります。このように異なるコールレグプロファイルにリンクされた複数のアクセス方式については、パスコードだけでそれらを区別することを選択できます。基本的に、アクティベータとゲストのユーザーは同じ URI をダイヤルしますが、アクティベータまたはゲスト参加者によって異なる PIN を入力します。

8.4.6 /callLegProfiles/<call leg profile id>/usage オブジェクトメソッド

階層には /callLegs/<call leg id>/usage オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET を実行すると、照会されたコールレグについて、指定されたコールレグプロファイルが使用されている場所（グローバル コールレグプロファイルに設定されているか、テナント、coSpace、coSpace ユーザー、coSpace アクセス方式との関連付けがあるか）のリストが取得されます。

8.4.7 /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトメソッド

階層には /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET 操作を実行すると、照会したコールレグについて、その有効なコールレグプロファイルにどのように到達したかが取得されます。つまり、現在「有効」なコールレグプロファイルに寄与したオーバーライドの階層です。具体的には、応答には、プロファイル階層の各レベルのセクションと、どのコールレグプロファイル要素がどのレベルで適用されたかの詳細が含まれます。

各パラメータの最終結果は、そのパラメータの最下位レベルのオーバーライドです。たとえば、テナントレベルのコールレグプロファイルでは「participantLabels」が true に設定されているが、coSpace コールレグプロファイルでは false に設定されている場合、その coSpace のコールレグには参加者ラベルが表示されません。

「/callLegProfileTrace/」ノードで GET メソッドを使用して、コールレグプロファイルのトレースを取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
scope	次のいずれかになります。	一連のプロファイルパラメータが適用されているレベルを示します。
	global	指定されたプロファイルパラメータは、システム全体のレベルで適用されています。具体的には、これらのパラメータが、システム/プロファイルの下で構成された最上位の callLegProfile に存在することを意味します。
	tenant	指定されたプロファイルパラメータはテナントレベルで適用されています
	coSpace	指定されたプロファイルパラメータは coSpace レベルで適用されています
	accessMethod	指定されたプロファイルパラメータはアクセス方式レベルで適用されています
	coSpaceUser	指定されたプロファイルパラメータは、coSpaceUser に関連付けられた callLegProfile を介して適用されています
	callOut	指定されたプロファイルパラメータは、コールレグの作成時に提供された callLegProfile を介して適用されています
	callLeg	指定されたプロファイルパラメータは、特にこのコールレグに適用されています（つまり、設定された callLegProfile オブジェクトを介してではありません）。
id	id	存在する場合、このエントリのスコープに適用可能な callLegProfile
meetingTitlePosition	top middle bottom	会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
needsActivation defaultLayout changeLayoutAllowed participantLabels presentationDisplayMode presentationContributionAllowed presentationViewingAllowed endCallAllowed muteOthersAllowed videoMuteOthersAllowed muteSelfAllowed videoMuteSelfAllowed joinToneParticipantThreshold leaveToneParticipantThreshold videoMode rxAudioMute txAudioMute rxVideoMute txVideoMute sipMediaEncryption audioPacketSizeMs deactivationMode deactivationModeTime telepresenceCallsAllowed sipPresentationChannelEnabled bfcfMode callLockAllowed setImportanceAllowed allowAllMuteSelfAllowed allowAllPresentationContributionAllowed changeJoinAudioMuteOverrideAllowed recordingControlAllowed streamingControlAllowed		このレベルで上書きされたコールレグプロファイル値を示すパラメータ

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name		
maxCallDurationTime		
disconnectOthersAllowed		
audioGainMode (バージョン 2.8 以降)		
addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降)		
participantCounter (バージョン 2.2 以降)		
qualityMain (バージョン 2.2 以降)		<p>注：qualityMain パラメータおよび qualityPresentation パラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Cisco Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Cisco Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p>
qualityPresentation (バージョン 2.2 以降)		

8.5 コールレグの個々の機能を設定する

アクティブなコールレグごとに設定、変更、取得できます。これらの設定には、プレゼンテーションをシングルスクリーンモード（つまり、メインビデオストリームとプレゼンテーションビデオストリームを1つに組み合わせたもの）に制限するか、受信側でサポートされている場合は個別のビデオストリームの使用を許可するかが含まれます。

注：コールレグの個々のパラメータを設定すると、コールレグプロファイルの値が上書きされます。

8.6 レイアウトテンプレートメソッド

Meeting Server は、カスタマイズ可能なレイアウトをサポートしています。これにより、管理者は、特定のニーズに合ったカスタムレイアウトをより柔軟に作成および適用できます。この機能は、シングル およびデュアル画面エンドポイントで動作します。

注：カスタマイズ可能なレイアウトは、トリプル画面エンドポイントではサポートされません。

レイアウトテンプレートメソッドを使用すると、カスタマイズされた JSON レイアウトテンプレートファイルを実装できます。

カスタマイズ可能なレイアウトの詳細については、『[Cisco Meeting Server 2.8 画面レイアウトおよびペイン配置に関する管理者ガイド](#)』を参照してください。

8.6.1 レイアウトテンプレートを追加、変更する

「/layoutTemplates」ノードで実行される POST メソッドまたは「/layoutTemplates/<layout template id>」ノードへの PUT メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。

8.6.2 レイアウトテンプレートを取得（列挙）する

/layoutTemplates ノードの GET メソッド。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目以外のレイアウトテンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。
Limit		
filter	文字列	filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するレイアウトテンプレートのみが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <layoutTemplates total- l="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <layoutTemplate> 要素が含まれる可能性があります。各 <layoutTemplate> タグには、次の要素が含まれる場合があります。
name	文字列	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。
templateSize	数字	テンプレートのサイズ（バイト単位）。

8.6.3 レイアウトテンプレートに関する情報を取得する

/layoutTemplates/<layout template id> ノードで実行される GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。
templateSize	数字	テンプレートのサイズ (バイト単位)。

8.6.4 レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てる

「/layoutTemplates/<layout template id>/template」に対して PUT メソッドを実行し、レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てます。「Content-Type」は「application/json」に設定する必要があります。

8.6.5 レイアウトテンプレートのレイアウトテンプレートの説明の取得

「/layoutTemplates/<layout template id>/template」で GET メソッドを使用して、レイアウトテンプレートに関連付けられるレイアウトテンプレートの説明を取得します。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
送信元	parsed	この任意の URI パラメータ "source" は、GET 操作で指定できます。このパラメータが指定されていない場合、GET 操作は、"/layoutTemplates/<layout template id>/template" で PUT メソッドを使用して指定するように、元の JSON の説明を返します。 指定されている場合、source=parsed は、Meeting Server によって処理された後にレイアウトテンプレートデータを返します。これにより、1 つまたは複数の検証制約を満たすためなど、アップロードされたテンプレートデータが Meeting Server によって変更されたかどうかを確認できます。

8.7 コールブランディングプロファイルメソッド

コールブランディングプロファイルは、SIP (Lync を含む) コールの通話中のエクスペリエンスと、招待状内のテキストをカスタマイズする機能を制御します。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

注：バージョン 2.4 以降、callBrandingProfiles の使用にブランディングライセンスは必要なくなりました。

8.7.1 コールブランディングプロファイルを取得する

“/callBrandingProfiles” ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。

usageFilter	referenced unreferenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールブランディング プロファイルのみが取得されます。これは、コールブランディング プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。
-------------	-----------------------------	--

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <callBrandingProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBrandingProfiles> 要素が含まれる可能性があります。

8.7.2 コールブランディング プロファイルを設定、変更する

- 作成：「/callBrandingProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callBrandingProfiles/<call branding profile id>」への PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
invitationTemplate	URL	テキスト形式の招待状を作成するときに Web アプリケーションが使用する招待状テンプレートテキストの HTTP または HTTPS URL。招待状内のテキストをカスタマイズする方法の詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。
resourceLocation	URL	Call Bridge コールブランディング ファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。

8.7.3 個々のコールブランディング プロファイルに関する詳細情報を取得する

GET メソッドが実行される場所：「/callBrandingProfiles/<call branding profile id>」ノード指定されたコールブランディング プロファイル id ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.8 DTMF プロファイルメソッド

このセクションで説明するように、dtmfProfiles を使用して、オーディオの制御に使用できる多数の DTMF シーケンスを定義できます。dtmfProfile は、アクションを実行する機能を定義せず、アクションを呼び出す DTMF 文字列を定義します。coSpace 内でそのアクションを呼び出す権限を持つユーザーの定義は、callLegProfile レベルで定義されます。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

Meeting Server をサードパーティのソリューションと一緒に使用している場合、または Meeting Server で既存のソリューションを置き換える場合は、ソリューションが使用する値と一致するように値を設定します。たとえば、Lync 会議ではミュートとミュート解除の両方に *6 を使用するため、toggleMuteSelfAudio を *6 に設定します。

8.8.1 DTMF プロファイルを取得する

「/dtmfProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
usageFilter	referenced unreferenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない DTMF プロファイルのみが取得されます。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されている DTMF プロファイルのみを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <dtmfProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <dtmfProfile> 要素が含まれる可能性があります。
muteSelfAudio	文字列	参加者がコールに提供されている音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス
unmuteSelfAudio	文字列	参加者が音声のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス
toggleMuteSelfAudio	文字列	参加者が自分自身からの音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス
muteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者がコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。
unmuteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者がコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。
startRecording	文字列	参加者がアクティブなコールの録画を開始するために使用する DTMF シーケンス。
stopRecording	文字列	参加者がアクティブなコールの録画を停止するために使用する DTMF シーケンス。
muteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを true に設定します。
unmuteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを false に設定します。
defaultMuteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者のコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用するために使用する DTMF シーケンス。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
muteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。 joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを true に設定します。 「true」に設定すると、発行者を除くすべてのコールレグがミュートされます。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。
unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグのミュートを解除します。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。

8.8.2 DTMF プロファイルを設定、変更する

- 作成：「/dtmfProfiles」ノードへの POST メソッド
- 変更：「/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
lockCall	文字列	参加者がコールをロックするために使用する DTMF シーケンス。アクティベータがコールに参加した場合でも、アクティベーションが必要な新しいコールレグはアクティブになりません。
unlockCall	文字列	参加者がコールのロックを解除するために使用する DTMF シーケンス。これにより、アクティブ化が必要なすべてのコールレグがアクティブ化されます（コールにアクティベータが存在する場合）。
nextLayout	文字列	参加者のビデオレイアウトをリスト内の次のレイアウトに変更するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
previousLayout	文字列	参加者のビデオレイアウトをリスト内の前のレイアウトに変更するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
muteSelfAudio	文字列	参加者がコールに提供されている音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス
unmuteSelfAudio	文字列	参加者が音声のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
toggleMuteSelfAudio	文字列	参加者が自分自身からの音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス
muteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者がコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。
unmuteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者がコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。
startRecording	文字列	参加者がアクティブなコールの録画を開始するために使用する DTMF シーケンス。
stopRecording	文字列	参加者がアクティブなコールの録画を停止するために使用する DTMF シーケンス。
startStreaming	文字列	参加者がアクティブなコールのストリーミングを開始するために使用する DTMF シーケンス。
stopStreaming	文字列	参加者がアクティブなコールのストリーミングを停止するために使用する DTMF シーケンス。
allowAllMuteSelf	文字列	すべての参加者が自分自身をミュートおよびミュート解除できるようにするために参加者が使用する DTMF シーケンス。Call オブジェクトの allowAllMuteSelf を true に設定します。
cancelAllowAllMuteSelf	文字列	すべての参加者が自分自身をミュートおよびミュート解除できるようにする許可をキャンセルするために参加者が使用する DTMF シーケンス。Call オブジェクトの allowAllMuteSelf を false に設定します。
allowAllPresentationContribution	文字列	すべての参加者がプレゼンテーションを行えるようにするために参加者が使用する DTMF シーケンス。
cancelAllowAllPresentationContribution	文字列	参加者がプレゼンテーションの許可を取り消すために使用する DTMF シーケンス。
muteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを true に設定します。
unmuteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを false に設定します。
defaultMuteAllNewAudio	文字列	参加者が新しい参加者のコールログプロファイルからのオーディオミュート値を使用するために使用する DTMF シーケンス。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
muteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「true」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグをミュートします。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」が「true」である必要があります。
unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグのミュートを解除します。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」が「true」である必要があります。
endCall	文字列	参加者がコールを終了するために使用する DTMF シーケンス。これにより、操作を開始した参加者を含むすべての参加者がの接続が切断されます
getTotalParticipantCount	文字列	参加者がコールの参加者の総数を取得するために使用する DTMF シーケンス。(バージョン 2.8 以降)

8.8.3 個々の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する

「/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された dtmfProfile ID が有効な場合、「200 OK」レスポンスが返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.9 IVR メソッド

8.9.1 IVR を取得する

「/ivrs」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する IVR のみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます(セクション 4.2.2 を参照)。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられた IVR のみを返すように tenantFilter を指定します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
uri	URI user part	<p>応答は、最上位の <ivrs total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ivr> 要素が含まれる可能性があります。各 <ivr> タグには、次の要素が含まれる場合があります。</p> <p>この IVR に使用される URI。最大長は 200 文字です。</p>

8.9.2 IVR を設定および変更する

- 作成：「/ivrs」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/ivrs/<ivr id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
uri *	URI のユーザー部分	この IVR に使用される URI で、最大長は 200 文字です。
tenant	ID	指定した場合、この IVR へのコールは、指定されたテナントに関連付けられた coSpace にのみ参加できます。テナントが指定されていない場合、この IVR へのコールは、コール ID が設定されているシステム上のすべてのコールに参加できます。
tenantGroup	ID	この IVR へのコールは、指定されたテナントグループ内のテナントに関連付けられた coSpace にのみ参加できます。テナントグループが指定されていない場合、この IVR へのコールは、テナントのない coSpace に参加できるか、テナントグループに所属しないテナントに関連付けられます。
ivrBrandingProfile	ID	指定されている場合、この IVR へのコールに使用される IVR ブランディングプロファイルを指定します。ここで提供された IVR ブランディングプロファイルは、トップレベルまたはテナントレベルの IVR ブランディングプロファイルよりも優先されます。
resolveCoSpaceCallIds	true false	この IVR へのコールで、Meeting Server coSpace への発信者の参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。
resolveLyncConferencelds	true false	この IVR へのコールで、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。

8.9.3 個々の IVR に関する詳細情報を取得する

「/ivrs/<ivr id>」ノードで実行される GET メソッド。指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、上記のセクションに一致する XML コンテンツを受信します。

8.10 IVR ブランディング プロファイル メソッド

IVR ブランディングプロファイルを使用して、IVR にダイヤルするときのエクスペリエンスを定義できます。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.10.1 IVR ブランディングプロファイルを取得する

「/ivrBrandingProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
usageFilter	referenced unreferenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない IVR ブランディングプロファイルのみが取得されます。これは、IVR ブランディングプロファイルを削除する前のチェックとして有効です。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
resourceLocation	URL	応答は、最上位の <ivrBrandingProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ivrBrandingProfile> 要素が含まれる可能性があります。 IVR ブランディングファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。

8.10.2 IVR ブランディング プロファイルを設定、変更する

- 作成：「/ivrBrandingProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
resourceLocation	URL	IVR ブランディングファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。

8.10.3 個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する

「/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された IVR ブランディングプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.11 参加者関連のメソッド

「参加者」を「callLeg」オブジェクトと混同しないでください。「参加者」は、オーディオとビデオ、アプリケーション共有、IM 用の個別のコールレグがあるユーザーの Lync セッションである可能性があります。

分散コールに関係する各 Call Bridge には、他の Call Bridge でホストされている参加者を含む、そのコールの「参加者」リストの全体像があります。クエリ対象の Call Bridge でホストされている参加者については、構成コールレグを列挙できますが、別の Call Bridge でホストされている参加者の場合、それらの参加者にクエリを実行すると、ホストされている Call Bridge の ID が得られます（その後、コールレグレベルの詳細を取得するために、同じ参加者 ID を使用して「コールを所有する」Call Bridge にクエリを実行できます）。

注：/call/callLegId/participants [セクション 8.3.6](#) のセクションも参照してください。

8.11.1 参加者を取得する

「/participants」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するアクティブな参加者のみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
tenantFilter	ID	そのテナントに属する参加者のみを返すように tenantFilter を指定します
callBridgeFilter	ID	その Call Bridge にある参加者のみを返すように callBridgeFilter を指定します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <participants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <participant> 要素が含まれる可能性があります。 <participant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
name	文字列	この参加者に関連付けられた、人間が読める表示名。 最大 200 文字。
call	ID	この参加者が参加しているコール

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
tenant	ID	存在する場合、この参加者が関連付けられているテナントの ID
callBridge	ID	存在する場合、この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge
uri	文字列	この参加者に関連付けられた、最大長 200 文字の URI。
originalUri	文字列	Call Bridge によって最初に使用された、または Call Bridge に通知されたリモートアドレス。(バージョン 2.3 以降)
numCallLegs	数字	この参加者に関連付けられているアクティブなコールレグの現在の数。この値は、要求先の Call Bridge のローカルの参加者にのみ存在します。
userJid	文字列	この参加者に関連付けられた userJid
isActivator	true false	この参加者が「アクティベータ」と見なされるかどうか <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この参加者はアクティベータです。それ自身が「アクティブ化」されており、現在接続されている「非アクティブ化された」参加者がアクティブ化されます。 ■ false : この参加者はアクティベータではありません。完全に「アクティブ化」される前に、1 人または複数の「アクティベータ」参加者が参加するのを待つ必要があります。
canMove	true false	オブジェクト object /calls/<call id>/participants の movedParticipant パラメータを使用して、この参加者を別の会議に移動できるかどうか。(バージョン 2.6 以降)
movedParticipant	ID	この参加者が参加者を移動する (moveParticipant パラメータをオブジェクト /calls/<call id>/participants に POST する) ことによって作成された場合、ID は、この参加者の移動元の元の参加者を示します (バージョン 2.6 以降)。
movedParticipantCallBridge	ID	このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)
status (バージョン 2.2 以降)	名前	説明
	state	initial ringing connected onHold

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
configuration (バージョン 2.2 以降)	名前	タイプ	説明
	重要度	数字	この参加者の重要度。

8.11.2 すでに会議に参加している参加者の設定を変更する

- 変更: 「/participants/<participant id>」 に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
importance	数字	すでに会議に参加しているこの参加者の重要度を設定します。たとえば 1 に設定します。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします (値を空白のままにします)。(バージョン 2.2 以降)
dtmfSequence	文字列	この参加者に再生される DTMF シーケンスを設定します。(バージョン 2.4 から)
nameLabelOverride	文字列	この参加者の名前を上書きします。(バージョン 2.4 以降)
deactivated	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true - 参加者はロビーで待機するか、ロビーに移動できます。バージョン 3.4 以降。 - false - 参加者はロビーから会議に参加できます。
handStatus	raised lowered	この参加者またはコールレグの手を上げるか下げるかを指定します。(バージョン 3.2 以降)

8.11.3 個々の参加者の詳細情報を取得する

「/participants/<participant ID>」 ノードで実行される GET メソッド。

指定された参加者 ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	この参加者に関連付けられた、人間が読める表示名。最大長は 200 文字です。
call	ID	この参加者が参加しているコール
tenant	ID	存在する場合、この参加者が関連付けられているテナントの ID

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
callBridge	ID	存在する場合、この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge
uri	文字列	この参加者に関連付けられた、最大長 200 文字の URI。
originalUri	文字列	Call Bridge によって最初に使用された、または Call Bridge に通知されたリモートアドレス。(バージョン 2.3 以降)
numCallLegs	数字	この参加者に関連付けられているアクティブなコールレッグの現在の数。この値は、要求先の Call Bridge のローカルの参加者にもみ存在します。
userJid	文字列	この参加者に関連付けられた userJid
isActivator	true false	この参加者が「アクティベータ」と見なされるかどうか <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この参加者はアクティベータです。それ自身が「アクティブ化」されており、現在接続されている「非アクティブ化された」参加者がアクティブ化されます。 ■ false : この参加者はアクティベータではありません。完全に「アクティブ化」される前に、1 人または複数の「アクティベータ」参加者が参加するのを待つ必要があります。
canMove	true false	オブジェクト /calls/<call id>/participants の movedParticipant パラメータを使用して、この参加者を別の会議に移動できるかどうか (バージョン 2.6 以降)
canMoveToLobby	true false	<ul style="list-style-type: none"> - true - 参加者をロビーに移動できます。 - false - 参加者をロビーに移動できません。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
movedParticipant	ID	この参加者が参加者を移動する (movedParticipant パラメータをオブジェクト /calls/<call id>/participants に POST する) ことによって作成された場合、ID は、この参加者の移動元の元の参加者を示します (バージョン 2.6 以降)。
movedParticipantCallBridge	ID	このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。 (バージョン 2.6 以降)
status (バージョン 2.2 以降)		
	状態 cameraControlAvailable	initial ringing onHold true false

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
configuration (バージョン 2.2 以降)			
	nameLabelOverride	文字列	この参加者の重要性。 この参加者の上書きされた名前 (バージョン 2.4 以降)
	defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	設定されている場合、返されるデフォルトのレイアウトは、結果のコールレグプロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得されたこの参加者のレイアウトです。
	layoutTemplate	ID	設定されている場合、結果のコールレグプロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得された、この参加者に関連付けられているレイアウトテンプレート ID が返されます。
	handStatus	raised lowered	設定されている場合、この参加者の手が上がっているか下がっているかを示します。
	handStatusLastModified	文字列	挙手ステータスが最後に変更された時間を示す UTC 日時を返します。

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
	名前	タイプ	説明 accessMethod ID
	"coSpace"		<ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。 coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。

8.11.4 参加者のコールレグを取得する

「/participant/<participant ID>/callLegs」ノードで実行される GET メソッドは、参加者のアクティブなコールレグを取得します。成功した場合、上記の[コールレグ](#)のパラメータが返されます。

なお、このコールレグが分散型会議（複数の Call Bridge によってホストされる会議）の一部である場合、これらの詳細はローカル参加者に対してのみ返されます。参加者のコールレグが別の Call Bridge によってホストされている場合、その Call Bridge の ID が返されます。

8.11.5 コールの参加者を制限する

コールに参加できる参加者の数に制限を設定できます。次の設定を行うことができます。

- テナントごとの participantLimit 値。そのテナントでアクティブにできる参加者の合計数に制限を課します。

- 「callProfile」オブジェクト内の「participantLimit」値。これは、その「callProfile」が有効なコール（coSpace のインスタンス化など）に制限が適用されることを意味します。

callProfiles は、システム、テナント、または coSpace レベルで添付でき、最も具体的なものが有効になります。

したがって、コールの participantLimit は、いくつかの要因に依存します。コールの「participantLimit」に達した場合：

- 新しい参加者を追加することはできません

注： participantLimit 値には、Meeting Server 側の参加者だけでなく、Skype の参加者の数も含まれます。

ただし、次の点に注意してください。

- Web アプリケーションの参加者は、チャット、ビデオ、オーディオの使用、プレゼンテーションの表示/受信を任意に組み合わせて使用できます。これらの要素は 1 つの callLeg を構成し、1 つの参加者としてカウントされます。
Web アプリケーションとペアになっているビデオ会議システムを使用しても、参加者数は増加しません。
- SIP エンドポイントでの会議の参加者は、ビデオ、オーディオを使用して、プレゼンテーションを受信できます。これらの要素は 1 つの callLeg を構成し、1 つの参加者としてカウントされます。
- Lync クライアントの参加者は、チャット、ビデオ、オーディオの使用、プレゼンテーションの送信を任意に組み合わせて使用できます。これらの要素の任意の組み合わせは 1 つの参加者としてカウントされますが、各要素は個別の callLeg です（受信したプレゼンテーションは、メインビデオストリームに表示されます）。
- 既存の参加者の新しいコールレグは引き続き追加できます。たとえば、Lync オーディオ/ビデオコールレグを使用する Lync プレゼンテーション コールレグなど。

制限に達したために API メソッドを介したコールレグまたは参加者の作成が失敗した場合、適切な「failureReason」が表示されます。制限に達したために着信接続の試行が失敗した場合は、エラーメッセージも表示されます（コール自体の制限に達したか、それを所有するテナントの制限に達したかについての別の callLegEnd 理由も表示されます）。

9 ユーザー関連のメソッド

ユーザーは、LDAP サーバーに対して同期することによって作成されます（後で説明されています）が、ユーザー情報を取得する方法は多数あります。この章は、次の項で構成されています。

- [ユーザーに関する情報を取得する](#)
- [個々のユーザーに関する詳細情報を取得する](#)
- [ユーザープロフィールを設定する](#)
- [ユーザーへの coSpace テンプレートの適用](#)
- [ユーザー coSpace テンプレート情報を取得する](#)

9.1 ユーザーを取得する

「/users」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するユーザーのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ 上記 参照）。
tenantFilter	ID	tenantFilter を指定すると、指定されたテナントに関連付けられたユーザーのみが返されます。
emailFilter	文字列	emailFilter を指定すると、返される結果が、指定された電子メールアドレスと完全に一致する電子メール値を持つユーザーに制限されます（バージョン 2.1 以降）。
cdrTagFilter	文字列	cdrTagFilter を指定すると、返される結果が、指定された cdrTag と完全に一致する cdrTag 値を持つユーザーに制限されます（バージョン 2.1 以降）。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
user id	ID	応答は、最上位の <users total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <user> 要素が含まれる可能性があります。
userJid	文字列	<user> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 例：first.last@example.com
tenant	ID	このユーザーが関連付けられているテナントの ID（該当する場合）

9.2 個々のユーザーに関する詳細情報を取得する

「/users/<user ID>」ノードで実行される GET メソッド。

指定されたユーザー ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
user id	ID	
userJid	文字列	例: first.last@example.com
tenant	ID	このユーザーが関連付けられているテナントの ID (該当する場合)
name	文字列	ユーザーの表示名。最大長は 200 文字です。
email	文字列	例: first.last@mail.example.com
authenticationId	文字列	認証に使用される ID。この値は、証明書ベースの認証中にユーザーが提示した証明書の値と照合されます。
userProfile	ID	存在する場合、これは、このユーザーに関連付けられたユーザープロファイルの ID です。(バージョン 2.0 以降)

9.2.1 ユーザーの coSpace アソシエーションを取得する

「/users/<user ID>/usercoSpaces」ノードで実行される GET メソッドは、ユーザーがメンバーである coSpace を取得します (自動生成メンバーの coSpace メンバー権限に関する[注記](#)も参照してください)。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpace	ID	<p>応答は、最上位の <usercoSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <usercoSpace> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><usercoSpace> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p>

9.2.2 ユーザーに coSpace テンプレートを適用する

2.9 以降、API を使用して、coSpaceTemplate をユーザーに割り当てることができます。

- `/users/<user id>/userCoSpaceTemplates` に対する POST 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	coSpace をインスタンス化するためにユーザーが使用を許可されている coSpace テンプレートの ID (バージョン 2.9 以降)。

次の操作もサポートされます。

- `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace template ID>` に対する DELETE 操作

9.2.3 ユーザー coSpace テンプレート情報を取得する

- `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/ <user coSpace template ID>` で GET を実行すると、次の応答パラメータが返されます。

応答パラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	coSpace をインスタンス化するためにユーザが使用を許可されている coSpace テンプレートの ID。 (バージョン 2.9 以降)
autoGenerated	true または false	この coSpace テンプレートが自動で追加されたか、手動で追加されたか true : このテンプレートは LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 false : このテンプレートは API メソッドを使用して追加されました。API を使用して変更または削除することができます。 (バージョン 2.9 以降)

- `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates` で enumerate GET を実行。標準の URI パラメータである「limit」と「offset」をサポートします。応答は最上位の `<userCoSpaceTemplates total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<userCoSpaceTemplate>` 要素が含まれる可能性があります。各 `<userCoSpaceTemplate>` タグには、リクエストと応答のパラメータ (coSpaceTemplate と autoGenerated) が含まれます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外のアクセス方式を取得するために、offset と limit を指定できます。
limit		

9.2.4 LDAP を使用した userCoSpaceTemplates を適用する

2.9 から、ユーザーが LDAP 方式を使用してスペースを作成することを許可するために、新しい API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` が導入されました。これにより、テンプレートをソースオブジェクトに直接含めることができます。

この API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` は、次の操作をサポートします。

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` に対する POST 操作
- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` に対する PUT 操作

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/注記
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID
filter	文字列	ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources<LDAP user coSpace template source id>` で `enumerate GET` を実行、次の応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID
filter	文字列	ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` で `enumerate GET` を実行、次の応答が返されます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。
limit		

応答は、最上位の `<ldapUserCoSpaceTemplateSources total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ldapUserCoSpaceTemplateSource>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ldapUserCoSpaceTemplateSource>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID

9.2.5 ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する

バージョン 3.1 では、次の操作をサポートするためにこの API オブジェクトが導入されています。

- `/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces` に対する `GET` の列挙
- `/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id>` での `GET` 操作

`/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces` の列挙は次の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外のユーザがプロビジョニングした coSpaces を取得するために、オフセットと制限を指定できます。(バージョン 3.1 以降)
limit		

応答は、最上位の <userProvisionedCoSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <userProvisionedCoSpace> 要素が含まれる可能性があります。

各 <userProvisionedCoSpace> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	この coSpace がインスタンス化される時に基づく coSpaceTemplate。(バージョン 3.1 以降)
uriHint	文字列	この coSpace の uri の基礎 (スペースをインスタンス化するとき他の uri とクラッシュした場合、このヒントに基づいて一意の uri が生成されます)。(バージョン 3.1 以降)
name	文字列	この coSpace がインスタンス化される際に含まれる名前。(バージョン 3.1 以降)
coSpace	ID	存在する場合、coSpace の ID は、この userProvisionedCoSpace にインスタンス化されました。(バージョン 3.1 以降)

/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user> provisioned coSpace id> を使用して、個々のユーザーがプロビジョニングした coSpace で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceTemplate	ID	この coSpace がインスタンス化される時に基づく coSpaceTemplate。(バージョン 3.1 以降)
uriHint	文字列	この coSpace の uri の基礎 (スペースをインスタンス化するとき他の uri とクラッシュした場合、このヒントに基づいて一意の uri が生成されます)。(バージョン 3.1 以降)
name	文字列	この coSpace がインスタンス化された時に持つ名前。(バージョン 3.1 以降)
coSpace	ID	存在する場合、coSpace の ID は、この userProvisionedCoSpace にインスタンス化されました。(バージョン 3.1 以降)

9.2.6 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- **/ldapUserProvisionedCoSpaceSources** に対する POST 操作
- **/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace source id>** に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
ldapSource (*)	ID	ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping (*)	ID	マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降)
filter	文字列	送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降)

- `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources` の列挙は、次の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。(バージョン 3.1 以降)
limit		

応答は、最上位の `<ldapUserProvisionedCoSpaceSources total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ldapUserProvisionedCoSpaceSource>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ldapUserProvisionedCoSpaceSource>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
ldapSource	ID	ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping	ID	マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降)
filter	文字列	送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降)

- 個々の LDAP ユーザーがプロビジョニングされた coSpace ソースで `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>` を GET 操作すると、を使用して、実行する。次の応答を示します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
ldapSource	ID	ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping	ID	マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降)

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降)

9.2.7 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- `/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings` に対する POST 操作
- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>` に対する PUT 操作。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpaceUriMapping (*)	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceNameMapping	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate (*)	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。 (バージョン 3.1 以降)

- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings` の列挙は以下の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。
limit		

応答は、最上位の `<ldapUserProvisionedCospaceMappings total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceUriMapping	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceNameMapping	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。(バージョン 3.1 以降)

- ・プロビジョニングされた個々の LDAP ユーザの coSpace マッピングでの GET 操作は、`/ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>`を使用して、実行する。次の応答を示します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceUriMapping	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降)
coSpaceNameMapping	文字列	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。(バージョン 3.1 以降)

9.3 ユーザープロフィールメソッド

ユーザープロフィールは、プロフィールでユーザーに提供される機能を制御します。たとえば、新しい coSpace の作成、新しいコールの作成、コールの発信、ビデオ会議システムとのペアリング、別のユーザーとのポイントツーポイント コール時にチャットメッセージの送受信を許可するかどうかなどです。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

9.3.1 ユーザープロフィールを取得する

「/userProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。
usageFilter	Referenced unreferenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないユーザープロフィールのみが取得されます。これは、ユーザープロフィールを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されているユーザープロフィールのみを取得する場合は、"usageFilter=referenced" を入力します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <userProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <userProfile> 要素が含まれる可能性があります。
audioParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられ、Web アプリを使用しているユーザーが、通話中にライブ音声を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降)
videoParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にライブ動画を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降)
presentationParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にプレゼンテーションメディアを送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降)
hasLicense	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが Cisco ユーザーライセンスを持っているかどうか。 (バージョン 2.0 以降)

9.3.2 ユーザープロファイルを設定、変更する

- 作成 : /userProfiles ノードに対する POST メソッド
- 変更 : /lobbyProfiles/<user profile id> に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
audioParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられ、Web アプリを使用しているユーザーが、通話中にライブ音声を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
videoParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にライブ動画を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
presentationParticipationAllowed	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にプレゼンテーションメディアを送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
hasLicense	true false	このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが Cisco ユーザーライセンスを持っているかどうか。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。

9.3.3 個々のユーザープロファイルに関する詳細情報を取得する

「/userProfiles/<user profile id >」ノードで実行される GET メソッド。指定されたユーザープロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

10 システム関連のメソッド

この章では、システムの管理に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [システムステータスを取得する](#)
- [システムアラームステータスを取得する](#)
- [システム データベース ステータスの取得](#)
- [CDR レシーバの URI の取得と設定](#)
- [グローバルプロファイルの取得と設定](#)
- [ライセンス情報を取得する](#)
- [TURN サーバーの構成](#)
- [Web Bridge を設定する](#)
- [Web Bridge 3 プロファイルの構成](#)
- [Call Bridge の構成](#)
- [Call Bridge グループを設定する](#)
- [Call Bridge クラスタリングを設定する](#)
- [システム負荷](#)
- [システム診断](#)
- [システムの時間ロギング](#)

10.1 システムステータスを取得する

「/system/status」ノードで実行される GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
hostId	文字列	「<status>」要素内の左側の要素を返します。 この Meeting Server インスタンスを一意に識別する ID。
softwareVersion	文字列	Call Bridge で現在実行されているソフトウェア バージョン
uptimeSeconds	数字	ユニットの動作時間。
activated	true false	(3.0 で廃止) Call Bridge が現在アクティブ化されている (ライセンスがある) かどうか。現在、Meeting Server の場合は常に true です。現在 Meeting Server の場合は常に true です。
clusterEnabled	true false	true に設定されている場合、Call Bridge は現在、クラスタリングを有効にして実行されています。このパラメータはバージョン 2.0 以降から存在します

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
clusterId	ID	Call Bridge が属するクラスタを表す Id。クラスタのライフタイム全体で一定です。このパラメータの目的上、クラスタ化されていない Call Bridge は 1 のクラスタと見なされます。 このパラメータには、単一の Meeting Server の値が引き続き含まれません。
cdrTime	数字	インスタンスのアラートストームが発生する可能性があります。(3.0以降) 要求の受信時に生成された CDR に書き込まれる現在のタイムスタンプ。これは、CDR 自体の "time" フィールドと同じ形式になります (RFC 3339 を参照。たとえば "2014- 02-11T12:10:47Z") 。
callLegsActive	数字	リクエスト時のアクティブなコールレグの数
callLegsMaxActive	数字	この Meeting Server で同時にアクティブなコールレグの最大数。
callLegsCompleted	数字	アクティブであるが、接続されていない/存在していないコールレグの総数
audioBitRateOutgoing	数字	すべての発信オーディオストリーム (Meeting Server からリモート側に送信されるオーディオメディア) を合計した現在の総ビットレート (ビット/秒)
audioBitRateIncoming	数字	着信オーディオストリームの現在の総ビットレート
videoBitRateOutgoing	数字	発信ビデオストリームの現在の総ビットレート
videoBitRateIncoming	数字	着信ビデオストリームの現在の総ビットレート
cdrCorrelatorIndex	数字	送信される次の CDR レコードのコリレータインデックス。CDR レコードが送信されていない場合、値は 0 になります。(バージョン 2.2以降)

10.2 システムアラームステータスを取得する

「/system/alarms」ノードで実行される GET メソッド。名目上のリストの 1 ページ目にある以外のアラーム条件を取得するために、オフセットと制限を指定できます。このメソッドは、現在アクティブなシステム全体のアラーム条件の詳細を示すテーブルを返します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		個々の「<alarm>」要素のリストを返します。現在アクティブなアラーム条件がない場合、このリストは空になります。アクティブな各アラーム条件には、以下を含む "alarm" タグがあります。
Id	ID	この障害状態のこのインスタンスの一意の ID
activeTimeSeconds	数字 (右を参照)	このアラーム条件がアクティブになっている時間。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
type		<p>次のいずれか：</p> <ul style="list-style-type: none"> - callBrandingResourceInvalid : 指定されたリソースの形式が無効です。コールブランディング プロファイルは、付随する「callBrandingProfiles」 GUID パラメータによって指定され、問題のあるファイルは付随する「fileName」テキストパラメータによって指定されます。 - callBridgeConnectionFailure : Call Bridge は、付随する「callBridge」 GUID パラメータで指定された、ピアクラスタ化された Call Bridge の 1 つに接続を確立できませんでした - callDistributionFailure : Call Bridge は、アクティブなコールの 1 つに対して分散リンクを確立できませんでした。リンク先の Call Bridge は、付随する「callBridgeName」テキストパラメータによって識別され、コールは「call」 GUID パラメータとして存在します。 - cdrConnectionFailure : Meeting Server は、設定された CDR レシーバへの接続を確立できなかったため、新しいコール詳細レコードをプッシュできない可能性があります。 - c2wConnectionFailure : Call Bridge は、構成済みの Web Bridge への C2W 接続を確立できませんでした (3.0 以降) - databaseClusterNodeOutOfSync : データベースクラスタ内のノードが同期されておらず、同期していません - databaseConnectionError : Meeting Server はデータベースへの接続を確立できませんでした - guestAccountConnectionFailure : Meeting Server は、ゲストログインを許可するために構成済みの Web Bridge への接続を確立できませんでした (3.0 で削除されました) - ivrBrandingResourceInvalid : 指定されたリソースの形式が無効です。コールブランディング プロファイルは、付随する「ivrBrandingProfile」 GUID パラメータによって指定され、問題のあるファイルは付随する「fileName」テキストパラメータによって指定されます。 - licenseGrace : 機能ライセンスが有効期限を過ぎており、間もなく非アクティブ化されます (バージョン 2.1 以降) - licenseExpired : 機能ライセンスの有効期限が切れ、非アクティブ化されました (バージョン 2.1 以降) - recorderLowDiskSpace : レコーダーのディスク容量が限られています。レコーダーは、付随する「recorder」 GUID パラメータによって指定されます (3.0 で削除されました)。 - recorderUnavailable : Call Bridge は、設定されたレコーダーに正常に接続できませんでした。レコーダーは、付随する「recorderAddress」パラメータによって指定されます - streamerUnavailable : Call Bridge は

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		<p>設定されたストリーマに正常に接続できませんでした。ストリーマは、付随する「streamerAddress」パラメータによって指定されます</p> <ul style="list-style-type: none"> - turnServerUnavailable : Call Bridge は、構成済みの TURN サーバーに接続できませんでした。この TURN サーバーは、付随する「turnServer」GUID パラメータによって指定されます。 - webBridgeArchivePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズアーカイブを Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeArchiveRetrievalFailure : Call Bridge は、必要な Web Bridge カスタマイズアーカイブを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeBackgroundImagePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeBackgroundImageRetrievalFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeLoginLogoImagePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされたログインロゴ画像を Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました)。 - webBridgeLoginLogoImageRetrievalFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされたログインロゴ画像ファイルを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeXmppCertificatePushFailure : Call Bridge は XMPP 証明書を Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - xmppAuthenticationRegistrationFailure : Meeting Server は、指定された XMPP 認証コンポーネントに正常に登録できませんでした (3.0 で削除されました) - xmppRegistrationFailure : Meeting Server は、構成された XMPP サーバーに正常に登録できませんでした (3.0 で削除されました)

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
failureReason		<p>上記のアラームタイプの一部については、その特定の障害の原因に関する追加情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - authenticationFailure - connectFailure : リモート接続先への接続の失敗。TCP 接続または TLS 接続を確立できなかったなど。 - dataFormatInvalid : Call Bridge は、特定のデータセット（リモートでホストされているリソースファイルなど）を使用するように設定されていますが、使用可能な形式ではないことが判明しました。 - destinationReadOnly : データベースなどの重要なリソースが、書き込みアクセスが必要であるのに読み取り専用であることが Call Bridge によって検出されました - dnsFailure : リモート接続先のホスト名の解決の失敗。リモートシステムへの接続を確立するプロセスの一部としてなど。 - エラー - fileNotFound : Call Bridge が必要なファイルのロードに失敗したため、アラーム条件が発生しました。たとえば、Web Bridge に必要な resourceArchive をリモートサーバーから取得できなかった場合などです。 - fileSizeLimitExceeded : Call Bridge が、内部ファイルサイズ制限を超えたために取得できなかった、リモートでホストされているリソースファイルなどのリソースを使用するように設定されています - internalServerError : 操作が試行されたときにリモートパーティが「内部サーバーエラー」を返したため、Call Bridge はリソースファイルのアップロードまたはダウンロードなどの操作を実行できませんでした - serviceUnavailable

10.3 システム データベース ステータスを取得する

「/system/database」ノードで実行される GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
clustered	enabled disabled	データベースクラスタリングが有効かどうか。
cluster		クラスタリングが有効になっている場合、<cluster> 要素には左側の要素が含まれます
Error	文字列	エラーの説明
totalNodes	数字	クラスタ内のデータベースノードの数。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
nodeInUse	文字列	現在使用されているデータベースノード (プライマリデータベース)
node		<p>node 要素は、クラスタ内の各データベースに対して次の詳細とともに返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - hostname : ノードのホスト名または IP アドレス。 - up : ノードがこの Call Bridge から見えるかどうか (true false) - syncBehind : このノードがプライマリデータベースの現在の状態より遅れているおおよそのバイト数。0 は同期していることを意味し、-1 は計算が利用できないことを意味します - master : このノードがプライマリデータベースであるか (true false) 、false に設定されている場合はレプリカデータベースです。

10.4 CDR レシーバ URI メソッド

注 : /system/cdrReceiver は廃止されています。複数の CDR レシーバをサポートする /system/cdrReceivers オブジェクトを使用してください。

10.4.1 CDR レシーバ URI を取得する

API (および Web 管理インターフェイス) を介して CDR レシーバの URI を見つけることができます。/system/cdrReceivers ノードで GET を発行して、構成された CDR レシーバの完全な URL である URI を取得します。

この方法では、Web 管理インターフェイスの[設定 (Configuration)] > [CDR設定 (CDR settings)]ページを使用して、CDR レシーバの URI にアクセスします。

「/system/cdrReceivers」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の CDR レシーバを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
uri	文字列	<p>応答は、最上位の <cdrReceivers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cdrReceiver> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>各 <cdrReceiver> タグには、次の要素が含まれる場合があります。</p> <p>設定された CDR レシーバアドレスの完全な URL</p>

注：/system/cdrReceivers/<cdr receiver id> で GET を実行すると、単一の指定された CDR レシーバの構成を取得できます。

10.4.2 CDR レシーバ URI を設定する

API (および Web 管理インターフェイス) を介して CDR レシーバ URI を設定します。
/system/cdrReceivers ノードで PUT または POST を発行できます。

POST を使用して「url」値を指定して、CDR レシーバを 1 回の操作で作成および構成するか、PUT を使用してまず CDR レシーバを作成し、後で「url」を個別構成します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
uri *	文字列	CDR が送信される完全な URL。

作成が成功すると、「200 OK」応答と「Location: /api/v1/system/cdrReceivers/<cdr receiver id>」オブジェクト参照が返されます。すでに構成されている CDR レシーバが多すぎる場合、「tooManyCdrReceivers」エラー ("failureDetails" セクション) が返されます。

注：レガシーの /system/cdrReceiver ノードに対して空の「url」を使用して PUT 操作を実行すると、その CDR レシーバに関連付けられた GUID が削除され、事実上、その CDR レシーバは存在しなくなります。後で空でない「url」値を同じ (レガシー) ノードに PUT すると、その CDR レシーバに対して新しい GUID が生成されます。

非レガシー CDR レシーバ (/system/cdrReceivers/<cdr receiver id>) に対して空の「url」を使用して PUT を実行すると、その CDR レシーバは同じ GUID のままになりますが、「url」値はありません。引き続き GET 操作に表示されます。これは、新しい CDR レシーバオブジェクトには明示的な「DELETE」メソッド (セクション 4.4) があるためです。一方、レガシー CDR レシーバの場合、設定を解除する唯一の方法はその場所を空の値に設定することです。

Web 管理インターフェイスを介して CDR レシーバの URI を設定または更新するには、**[設定 (Configuration)] > [CDR設定 (CDR settings)]** ページを使用します。

10.5 グローバルプロファイルメソッド

10.5.1 グローバルプロファイルを取得する

/system/profiles への GET は、次のセクションで説明する値を返します。

10.5.2 グローバルプロファイルを設定する

api/v1/system/profiles の下の callLegProfile ID 値を設定 (または設定解除) して、最上位のプロファイルを課す (または削除する) ことができます。

/api/v1/system/profiles に対して PUT 操作または POST 操作します。空の値を指定すると、最上位のプロファイルが設定解除されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
callLegProfile	ID	指定したプロファイルを最上位のコールレグプロファイルに設定します。
callProfile	ID	指定したプロファイルを最上位のコールプロファイルに設定します。
dtmfProfile	ID	指定したプロファイルを最上位の DTMF プロファイルに設定します。
userProfile	ID	指定したプロファイルを最上位のユーザープロファイルに設定します。
ivrBrandingProfile	ID	指定したプロファイルを最上位の IVR ブランディングプロファイルに設定します。
callBrandingProfile	ID	指定したプロファイルを最上位のコール ブランディング プロファイルに設定します。
compatibilityProfile	ID	指定したプロファイルを最上位の互換性プロファイルに設定します (2.1以降)
lobbyProfile	ID	指定したプロファイルを最上位レベルの lobby プロファイルに設定します (3.7 以降)
dialInSecurityProfile	ID	指定したプロファイルを最上位レベルのダイヤルインセキュリティプロファイルに設定します (3.0 以降)
webBridgeProfile	ID	指定したプロファイルを最上位レベルの Web Bridge プロファイルに設定します (3.0 以降)

10.6 ライセンスメソッド

注：バージョン 2.4 以降、単一または複数のブランディングを適用するためにライセンスは必要ありません。

ライセンスに関連する API メソッドは次のとおりです。

- [アップロードされたライセンスとライセンス消費に関する情報を取得する](#)

従来は、既存の `/system/licensing` API がライセンスファイルの内容を返していました。つまり、Meeting Server の機能 コンポーネントが、各コンポーネントのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）とともに表示されていました。たとえば、Meeting Server で `callbridge` ライセンスがアクティブ化されているかどうか、また、ライセンスが付与されている場合はその有効期限が表示されていました。

3.0 以降では、既存の `/system/licensing` API ではライセンスファイルの内容（つまり機能コンポーネント）だけが Meeting Server インスタンス単位で返され、新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` で、Meeting Server クラスターのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）が返されます。

注：

新しい `/clusterLicensing` API はクラスタを表します（単独の Meeting Server の導入は 1 つのクラスタと見なされます）。ライセンスファイルの内容を表す `/system/licensing` API は、引き続き Meeting Server インスタンス単位での処理となります。

10.6.1 Meeting Server インスタンスごとのライセンスファイル情報を取得する

「/system/licensing」ノードで実行される GET メソッド。情報の構造の例については、付録 C.1 を参照してください。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
機能		ライセンスが有効である場合、<features> 要素には以下の要素が含まれます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
callBridge	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	Call Bridge にライセンスが適用されていないため、Call Bridge はコールを発信できません。 ライセンスが適用され、メディア暗号化を使用する Call Bridge がアクティブ化されました。メディアはコールで暗号化されます ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です メディア暗号化を使用する Call Bridge のライセンスの有効期限が切れています
expiry		Call Bridge のライセンスの有効期限が切れています	
callBridgeNoEncryption (バージョン 2.4 以降)	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	Call Bridge にライセンスが適用されていないため、Call Bridge はコールを発信できません。 ライセンスが適用され、メディア暗号化なしで Call Bridge がアクティブ化されています。メディアはコールで暗号化されません ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です メディア暗号化なしで Call Bridge のライセンスの有効期限が切れています
expiry		Call Bridge のライセンスの有効期限が切れています	
webBridge	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	Web Bridge にライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、Web Bridge がアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です Web Bridge のライセンスの有効期限が切れています

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
turn	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	TURN サーバーにライセンスが適用 されていません ライセンスが適用され、TURN サ ーバーがアクティブ化されてい ます ライセンスの有効期限が切れて おり、ライセンス更新の猶予期 間中です TURN サーバーのライ センスの有効期限が切れていま す
expiry		す	
ldap	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	LDAP サーバーにライセンスが適用 されていません ライセンスが適用され、LDAP サ ーバーがアクティブ化されてい ます ライセンスの有効期限が切れてお り、ライセンス更新の猶予期間中 です LDAP サーバーのライセンス の有効期限が切れています
expiry		す	
branding	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	status	バージョン 2.4 以降、ブランディングライセン スが必要ないため、これは関係なくなりました。	
status (バージョン 2.4 より前)	noLicense activated grace expired	ブランディングにライセンス が適用されていません ライセンスが適用され、ブラン ディングがアクティブ化さ れています ライセンスの有効期限が 切れました。現在、ライ センス更新の猶予期間中 です ブランディングの有効期限 が切れています	

応答要素	タイプ/値	説明/注意事項	
recording	名前		
	タイプ/値		
	説明		
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	レコーダーにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、レコーダーがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です レコーダーのライセンスの有効期限が切れています
	expiry	文字列	有効期限
	limit	数字	
	streaming		
	名前		
	タイプ/値		
説明			
名前	タイプ/値	説明	
status	noLicense activated grace expired	ストリーマにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、ストリーマがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です ストリーマのライセンスの有効期限が切れています	
expiry	文字列	有効期限	
limit	数字		
personal	名前		
	タイプ/値		
	説明		
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	Personal Multiparty ライセンスが適用されていません Personal Multiparty ライセンスがアクティベート化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です Personal Multiparty ライセンスの有効期限が切れています
	expiry	文字列	有効期限
	limit	数字	

応答要素	タイプ/値	説明/注意事項	
shared	名前		
	タイプ/値		
	説明		
	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	Shared Multiparty ライセンスが適用されていません Personal Multiparty ライセンスがアクティベート化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です Shared Multiparty ライセンスの有効期限が切れています
	expiry	文字列	有効期限
	limit	数字	
	名前		
	タイプ/値		
	説明		
capacityUnits	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	キャパシティユニットのライセンスが適用されていません アクティブ化されたキャパシティユニットのライセンスがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です キャパシティユニットのライセンスの有効期限が切れています
	expiry	文字列	有効期限
	limit	数字	
	名前		
	タイプ/値		
customizations	名前	タイプ/値	説明
	status	noLicense activated grace expired	猶予ライセンスキーの有無にかかわらず カスタムのアクティブ レイアウトの設定はできません 期限切れのキーがない場合、Meeting Server は カスタムレイアウトが設定されていないかのように動作します。
	expiry	文字列	有効期限

“/system/multipartyLicensing”ノードで実行される GET メソッド。情報の構造の例については、付録 C.2 を参照してください。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
timestamp	文字列	レポートが生成された UTC 時間
personalLicenseLimit	数字	(3.0 で廃止) 利用可能な個人ライセンスの数
sharedLicenseLimit	数字	(3.0 で廃止) 利用可能な共有ライセンスの数
capacityUnitLimit	数字	(3.0 で廃止) 使用可能なキャパシティユニットの数
users	数字	システム上の非ゲストユーザーの数
personalLicenses	数字	クラスタ内のユーザーに割り当てられている個人ライセンスの数。
participantsActive	数字	アクティブな参加者数
callsActive	数字	アクティブ コール数
weightedCallsActive	数字	重み付けされたアクティブなコールの数 (下記の注を参照)。
capacityUnitUsage	数字	使用中のキャパシティユニットの数
callsWithoutPersonalLicense	数字	個人ライセンスのないコールの数。バージョン 2.6 以降で廃止になり、ライセンスのカウント方式の変更により、この値を使用して SMP の使用状況を正確に計算できなくなりました。
weightedCallsWithoutPersonalLicense	数字	個人ライセンスのない、重み付けされたコールの数 (下記の注を参照)。 バージョン 2.6 以降で廃止になり、ライセンスのカウント方式の変更により、この値を使用して SMP の使用状況を正確に計算できなくなりました。
capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense	数字	個人ライセンスのないコールで使用されているキャパシティユニットの数

“/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses” で実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブなパーソナル ライセンス エントリを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
callsActive	数字	応答は、最上位の <activePersonalLicenses total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <user> 要素が含まれる可能性があります。 各 <user> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 このユーザーのライセンスを使用するアクティブなコールの数
weightedCallsActive	数字	このユーザーのライセンスを使用する、重み付けされたアクティブなコールの数（下記の注を参照）。

注：クラスタ全体の加重コールの合計は、クラスタ上の個別のコールの数と一致します。たとえば、CMS1 に 3 件の callsActive と 2 件の weightedCallsActive が表示され、CMS2 に 2 件の callsActive と 1 件の weightedCallsActive が表示される場合、クラスタには合計 3 件の会議が表示され、3 つのライセンスが必要になります。

“/system/MPLicenseUsage” ノードで実行される GET メソッド（バージョン 2.6 以降）。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブなパーソナル ライセンス エントリを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。
startTime	文字列	ライセンス使用状況スナップショットを取得する最も早い日時を指定する UTC 時間（RFC 3339 に従ってフォーマット）（この時間を含む）
endTime	文字列	ライセンス使用状況スナップショットを取得する最も遅い日時を指定する UTC 時間（RFC 3339 に従ってフォーマット）（この時間を含む）
hostId	ID	ライセンス使用状況のスナップショットを取得するホストの ID（システム/ステータスによって返される）

レスポンス要素				
event	名前		タイプ/値	説明
	親タグに含まれるパラメータ			
	time	文字列	ライセンス使用イベントが生成された UTC 時間	
	応答値			
	pmp	番号	使用中の個人ライセンスの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます）	
	pmpAssigned	番号	クラスタ内のユーザーに割り当てられている個人ライセンスの数（3.0 以降）	
	smpAud	番号	共有ライセンスの音声のみのコールの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます）	
	smpPtP	番号	音声のみではない共有ライセンスのポイントツーポイントコールの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます）	
	smpFull	番号	音声のみまたはポイントツーポイントではない、使用中の共有ライセンスの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます）	
	録画	番号	録画されているコールの数	
str	番号	ストリーミングされているコールの数		

“/system/MPLicenseUsage/knownHosts”ノードで実行される GET メソッド（バージョン 2.6 以降）。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目にある以外のホスト ID を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。

応答要素				
host	名前		タイプ/値	説明
	親タグに含まれるパラメータ			
	id	ID	sys- tem/MPLicenseUsage API ノードからライセンス使用状況情報にアクセスできる Call Bridge の一意のホスト ID	

10.6.2 クラスタのライセンス情報を取得する

3.0 以降では、既存の `/system/licensing` API で GET 操作を実行すると、Meeting Server インスタンスごとにライセンスファイルの内容（機能コンポーネント）のみが返されるようになりました。新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` を使用すると、Meeting Server クラスタのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）が返されます。

注： `/clusterLicensing` で返される有効期限フィールドは、最大でも 90 日後になります。

Meeting Server またはクラスタの現在のライセンス情報を取得するには、次の操作を実行します。GET method performed on `/clusterLicensing` で GET メソッドを実行すると、次の応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
機能		ライセンスが有効である場合、<features> 要素には以下の要素が含まれます。

レスポンス要素	タイプ/値		説明/注記
callBridge	名前		説明 (Description)
	status	noLicense activated expired	ライセンスのステータス : <ul style="list-style-type: none"> - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています
	expiry	文字列	有効期限
callBridgeNoEncryption	名前		説明 (Description)
	status	noLicense activated expired	ライセンスのステータス : <ul style="list-style-type: none"> - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています
	expiry	文字列	有効期限
customizations	名前		説明
	status	noLicense activated expired	ライセンスのステータス : <ul style="list-style-type: none"> - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています
	expiry	文字列	有効期限

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記	
名前 recording	タイプ/値	説明 (Description)	
	名前	タイプ/値	説明 (Description)
snapshot	status	noLicense activated expired	ライセンスのステータス : <ul style="list-style-type: none"> - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています
	expiry	文字列	有効期限
	名前	タイプ/値	説明 (Description)
	expiry	activated expired	ライセンスのステータス : <ul style="list-style-type: none"> - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています
		有効期限	

バージョン 3.0 では、/clusterLicensing/raw API が導入されています。これは、純粋に Cisco Meeting Management がライセンス情報を提供または取得して、スマートライセンスを管理できるようにするためのものです。この API は、一般的な使用を意図したものではなく、管理者による設定は必要ありません。

10.7 TURN サーバーメソッド

注 : TURN サーバーは、Cisco Meeting Server 2000 では使用できません。これは、キャパシティの小さい Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバーにより適しています。

注 : TURN サーバコンポーネントは、UDP 用の標準ポート 3478 を常にサポートします。Cisco Meeting Server Web Edge を展開する場合、API ノード `/turnServers` の「type」パラメータを「cms」に設定する必要があります。このパラメータが設定されていない場合、デフォルトは「standard」になり、クライアントに TCP/UDP ポート 443 を使用して TURN サーバに接続するように指示します。関連リンク :

「type」パラメータ値の詳細については、『[Cisco Meeting Server API リファレンスガイド](#)』の「TURN サーバーの設定と変更」セクションを参照してください。

10.7.1 TURN サーバーに関する情報を取得する

「/turnServers」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する TURN サーバーのみが返されます。 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。
offset	数字 数字	
limit		

応答要素	タイプ/値	説明/注記
serverAddress clientAddress		応答は、最上位の <turnServers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <turnServer> 要素が含まれる可能性があります。 各 <turnServer> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。

10.7.2 TURN サーバーを設定および変更する

- 作成：「/turnServers」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/turnServers/<turn server id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
serverAddress	文字列	この TURN サーバーに到達するために使用する Call Bridge のアドレス
clientAddress	文字列	Web アプリがこの TURN サーバーに到達するために使用するアドレス
username	文字列	この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用するユーザー名（短期間の資格情報モードが有効な場合）。
password	文字列	この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用するパスワード（短期間の資格情報モードが有効な場合）。
useShortTermCredentials	true false	この TURN サーバで短期的なクレデンシャルを使用する必要があるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
sharedSecret	文字列	この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用する必要がある共有秘密（短期間の資格情報モードが有効な場合）。
type	acano cms expressway lyncEdge standard	Meeting Server 内で TURN Server を使用する場合は、「cms」または「acano」を選択します。TURN サーバーに接続するために、lync には UDP/TCP ポート 3478、Web アプリには TCP ポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。 Meeting Server の TURN サーバーを使用せずに Cisco Expressway に接続する場合は、「expressway」を選択します。lync には UDP/TCP ポート 3478、Web アプリには TCP ポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。 Lync または Skype for Business 展開に接続する場合は、「lyncEdge」を選択します。TURN サーバーに接続するためにポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。 「type」フィールドが設定されていない場合、デフォルトは「standard」です。TURN サーバーに接続するためにポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。
numRegistrations	数字	この TURN サーバーに対して行う必要のある登録の数。このパラメータは、構成済みの Lync Edge サーバーに対してのみ意味があります。
tcpPortNumberOverride	数字	TCP メディア（Lync プレゼンテーションコールレグなど）にこの TURN サーバーを使用するときに使用するポート番号のオプションのオーバーライド。構成済みの Lync Edge サーバーでは、TCP ポート番号は常に自動的に決定されるため、このパラメータは不要です。
callBridge	ID	指定されている場合は、この TURN サーバーを指定された Call Bridge（バージョン 2.1 以降）に関連付けます。
callBridgeGroup	ID	指定されている場合は、この TURN サーバーを指定された Call Bridge グループ（バージョン 2.1 以降）に関連付けます。

10.7.3 個々の TURN サーバーに関する詳細情報を取得する

「/turnServers/<turn server id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された TURN サーバー ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

注：API GET 操作を使用して、/turnServers に対する短期的な TURN クレデンシャルにアクセスできない共有秘密でもできません。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
serverAddress	文字列	Call Bridge がこの TURN サーバーに到達するアドレス

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
clientAddress	文字列	Web アプリケーションが TURN サーバーに到達するアドレス
username	文字列	この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用するユーザー名
useShortTermCredentials	true false	この TURN サーバーで短期的なクレデンシャルを使用するかどうか。
type	acano cms express-way lyncEdge standard	TURN サーバーのタイプを示します。詳細については、/turnServers の PUT/POST を参照してください。
numRegistrations	数字	構成済みの Lync Edge サーバーの場合、この TURN サーバーに対して行われた登録の数のみ。
tcpPortNumberOverride	数字	TCP メディアに TURN サーバーを使用するときを使用されるポート番号。
callBridge	ID	指定されている場合、これは、この TURN サーバーに関連付けられた Call Bridge です。
callBridgeGroup	ID	指定されている場合、これは、この TURN サーバーに関連付けられた Call Bridge グループです。

10.7.4 個々の TURN サーバーステータスを取得する

「/turnServers/<turn server id>/status」ノードで実行される GET メソッド。ターンサーバーに指定された ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

応答要素	説明/注記
host	ゼロ、1 つまたは複数の <host> 子ノード。それぞれが次の要素を含みます。

応答要素	説明/注記		
	名前	タイプ	説明
	address	文字列	
	portNumber	数字	
	reachable	true false	この TURN サーバーが現在到達可能である場合は true、そうでない場合は false
	roundTripTimeMs	数字	この TURN サーバーが到達可能な場合、Call Bridge のパスの往復時間（ミリ秒単位）
	mappedAddress	文字列	入力されている場合は、Call Bridge が TURN サーバーの到達可能性チェックを実行したときに、TURN サーバーが STUN バインディング要求を認識したソース IP およびソース ポートを示します。これは、Call Bridge と TURN サーバーの間に NAT がある展開では、Call Bridge の IP アドレスとは異なる場合があります。
	mappedPortNumber	数字	

10.8 Web Bridge メソッド

10.8.1 Web Bridge に関する情報を取得する

「/webBridges」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する Web Bridge のみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ 上記 参照）。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられた Web Bridge のみを返すように tenantFilter を指定します。
callBridgeGroupFilter	ID	callBridgeGroupFilter が指定された場合、指定された Call Bridge グループ内の Web Bridge だけが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
URL	URL	応答は、最上位の <webBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <webBridge> 要素が含まれる可能性があります。各 <webBridge> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。
resourceArchive	URL	

10.8.2 Web Bridge を設定、変更する

- 作成：「/webBridges」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/webBridges/<web bridge id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
URL	URL	この Web Bridge に到達するために使用する Call Bridge のアドレス
tenant	ID	この Web Bridge に関連付けるテナントの ID を指定すると、そのテナントが所有する coSpace のコール ID のみが、それを介して参加できます。
tenantGroup	ID	指定されたテナントグループ内のテナントに関連付けられた coSpace のみが、この Web Bridge を介してコール ID によってアクセスできます。テナントグループが指定されていない場合、テナントのない coSpace、またはテナントグループに所属しないテナントに関連付けられた coSpace のみがこのコール ID によってアクセスできます。
callBridge	ID	指定されている場合、この Web Bridge を指定された Call Bridge (バージョン 2.1 以降) に関連付けます。
callBridgeGroup	ID	指定されている場合、この Web Bridge を指定された Call Bridge グループに関連付けます (バージョン 2.1 以降)。
webBridgeProfile	ID	指定されている場合、指定された Web Bridge プロファイルをこの Web Bridge に関連付けます。(3.0 以降)

10.8.3 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する

「/webBridges/<web bridge id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された Web Bridge ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

10.8.4 Web Bridge のカスタマイズを更新する

「/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization」ノードへの POST により、指定された Web Bridge の構成済みのカスタマイズアーカイブが再取得され、その Web Bridge にプッシュされます。たとえば、これにより、カスタマイズアーカイブの内容を変更でき、Call Bridge または Web Bridge を再起動しなくても、それらの変更を有効にすることができます。

10.8.5 Web Bridge で診断を取得する (2.2 以降)

「/webBridges/<web bridge id>/status」ノードで実行される GET メソッド。指定された Web Bridge ID が有効な場合、以下の表に一致する XML コンテンツとともに、「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
status	unused	Web Bridge は、照会された Call Bridge によって使用されません。
	success	Web Bridge は、照会された Call Bridge に接続されています。
	connectionFailure	Web Bridge は、照会された Call Bridge に接続できませんでした。
	dnsFailure	設定された Web Bridge の URI を解決できませんでした (3.0 以降)

10.9 Web Bridge プロファイルメソッド

Web Bridge ごとに設定するのではなく、共通の場所で Web Bridge の構成オプションを設定できます。すべての Web Bridge または指定された Web Bridge のグループに対して同じ設定を適用できます。

この変更をサポートするために、Web Bridge のさまざまな設定オプションを含む API オブジェクト /webBridgeProfiles が導入されました。新しく定義した Web Bridge プロファイルは、個別の webBridge オブジェクト、トップレベル (グローバル) プロファイル、テナントのいずれかに割り当てることができます。

プロファイルには階層があり、階層の下位にあるプロファイルの値が上位の値より優先されます。また、パラメータが設定されていない場合や Web Bridge プロファイルが設定されていない場合は、階層内で次に上位にあたるプロファイルから継承されます。

webBridgeProfiles の階層は次のとおりです。

- 最上位 (グローバル) プロファイル (/system/profiles)
- テナント (/tenants/<tenant id>)
- webBridges (/webBridges/<webbridge id>)

10.9.1 Web Bridge プロファイルを取得する

- /webBridgeProfiles の列挙は次の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目以外の Web Bridge プロファイルを取得する場合は、offset と limit を指定できます (3.0 以降)。
limit		
usageFilter	unreferenced referenced	グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない Web Bridge プロファイルだけを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 ヶ所で参照されている Web Bridge プロファイルだけを取得する場合は、「usageFilter=referenced」と入力します (3.0 以降)。

応答は、最上位レベルの <webBridgeProfiles total="N"> タグとして構成されます。これには、複数の <webBridgeProfile> 要素が含まれる可能性があります。

各 <webBridgeProfile> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前 (3.0 以降)。最大長は 200 文字です。

- /webBridgeProfiles/<web bridge profile id> で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前 (3.0 以降)。最大長は 200 文字です。
resourceArchive	url	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。 (3.0 以降)
allowPasscodes	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。 (3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。 (3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。 (3.0 以降)

応答値	タイプ/値	説明/注記
allowUnauthenticatedGuests	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザーがユーザポータルにログイン済みである場合にのみゲストアクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。(3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。(3.0 以降)
resolveLyncConferencelds	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	<p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません。 - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。
sessionLimit	数値	ユーザーごとに許可される Web セッションの最大数。範囲は 0 ~ 5 です。指定しない場合、デフォルトでゼロになり、セッション制御がないことを示します。
contentResolution	720p 1080p unrestricted	Web アプリケーションでコンテンツを共有する際のプレゼンター画面の最大解像度。

10.9.2 Web Bridge プロファイルを作成、変更する

この `/webBridgeProfiles` オブジェクトは、以下のリクエストパラメータを使用して Web Bridge プロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは次の操作をサポートします。

- 新しい Web Bridge プロファイルを作成するための、`/webBridgeProfiles` に対する POST 操作
- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>` を使用した、個別のプロファイルに対する PUT 操作

次の要求パラメータを使用します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前。(3.0 以降) 最大長は 200 文字です。
resourceArchive	url	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge 用に Meeting Server が使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降)
allowPasscodes	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
allowUnauthenticatedGuests	true false	<p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザーがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 (3.0 以降)</p>
resolveCoSpaceCallIds	true false	<p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 (3.0 以降)</p>
resolveLyncConferencelds	true false	<p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 (3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	<p>この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません。 - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「off」になります。</p>
sessionLimit	数値	ユーザーごとに許可される Web セッションの最大数。範囲は 0 ~ 5 です。指定しない場合、デフォルトでゼロになり、セッション制御がないことを示します。
contentResolution	720p 1080p unrestricted	Web アプリケーションでコンテンツを共有する際のプレゼンター画面の最大解像度。

10.9.3 指定した Web Bridge で現在有効な WebBridge プロファイルを確認する

API オブジェクト `/webBridges//effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、<web bridge id>指定された Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連付けられた値を確認できます。

- `/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
resourceArchive	url	この Web Bridge 用に Meeting Server が使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降)

応答値	タイプ/値	説明/注記
allowPasscodes	true false	この Web Bridge で、ユーザがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。(3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	この Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。(3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	この Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。(3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。(3.0 以降)
resolveLyncConferencelds	true false	この Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	<p>この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。

10.9.4 最上位レベル（グローバル）システムで現在有効な Web Bridge プロファイルを確認する

API オブジェクト `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、このシステムで現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連する値を確認できます。次の操作がサポートされています。

- `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
resourceArchive	url	Meeting Server がこのシステム上の Web Bridge のデフォルトとして使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。（3.0 以降）
allowPasscodes	true false	このシステム上の Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace（および coSpace アクセス方式）をロックアップすることを許可するかどうか。（3.0 以降）
allowSecrets	true false	このシステム上の Web Bridge で、ユーザーが数値 ID とシークレットを使用して会議参加リンクから coSpace（および coSpace アクセス方式）にアクセスすることを許可するかどうか。（3.0 以降）
userPortalEnabled	true false	このシステム上の Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。（3.0 以降）
allowUnauthenticatedGuests	true false	このシステムの Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するの、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するの。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。（3.0 以降）
resolveCoSpaceCallIds	true false	このシステム上の Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。（3.0 以降）
resolveLyncConferencelds	true false	このシステム上の Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。（3.0 では表示されませんが、機能しませんが、3.1 では削除されています）

応答値	タイプ/値	説明/注記
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	<p>このシステム上の Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、このシステム上の Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。

10.9.5 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する

API オブジェクト `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、指定されたテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連付けられた値を確認できます。次の操作がサポートされています。

- `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

応答値	タイプ/値	説明/注記
resourceArchive	url	このテナントの Web Bridge で Meeting Server がデフォルトとして使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降)
allowPasscodes	true false	このテナントの Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	このテナントの Web Bridge で、ユーザーが数値 ID とシークレットを使用して会議参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。(3.0 以降)

応答値	タイプ/値	説明/注記
userPortalEnabled	true false	このテナントの Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。 (3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	このテナントの Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。 false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。 (3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	このテナントの Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。
resolveLyncConferencelds	true false	このテナントの Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。 (3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	<p>このテナントの Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。 (3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません domainSuggestionEnabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。

10.9.6 webBridgeProfile の Web Bridge アドレスを作成、変更、取得する

3.1 から、**Web Bridge URI** および **IVR電話番号**の設定を許可していた Web Admin ユーザーインターフェイスの[設定 (Configuration)] > [全般 (General)]ページの**外部アクセス**が削除されます。これらの設定フィールドは、Web Bridge プロファイルに移動されました。

また、複数の IVR 番号と Web ブリッジアドレス（最大 32 件）を指定できるようになりました。Web ブリッジプロファイルごとに最大 32 の Web ブリッジアドレスと IVR 番号これらは、参加情報の表示、および電子メール招待の生成に使用されます。

注：ivrNumbers と webBridgeAddresses の設定には、システムレベルまたはテナントレベル（マルチテナンシーを使用している場合）で webBridgeProfile を使用することを強くお勧めします。

この API オブジェクトは次の操作をサポートします。

- /webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses に対する POST 操作
- /webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id> に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例：米国 Web アプリ（バージョン 3.1 以降）
address	url	電子メール招待をレンダリングするときに使用するアドレス。例： https://usa.mycompany.com/ （バージョン 3.1 以降）

- /webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses の列挙は、次の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目以外の Web Bridge アドレスを取得する場合は、offset と limit を指定できます。
limit		

応答は、最上位の <webBridgeAddresses total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <webBridgeAddress> 要素が含まれる可能性があります。

各 <webBridgeAddress> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例：米国 Web アプリ（バージョン 3.1 以降）

- を使用して、webBridgeProfiles の個々の Web Bridge アドレスで GET を実行します。その際、/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id> を使用して、実行します。を使用して、実行する。次の応答を示します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例：米国 Web アプリ (バージョン 3.1 以降)
address	url	電子メール招待をレンダリングするときに使用するアドレス。例： https://usa.mycompany.com/ (バージョン 3.1 以降)

10.9.7 webBridgeProfile の IVR 番号を作成、変更、取得する

この API オブジェクトは次の操作をサポートします。

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers` に対する POST 操作
- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id>` に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この IVR 番号を説明するラベル名。例：米国コールイン番号 (バージョン 3.1 以降)
number	文字列	電子メール招待をレンダリングするときに使用する IVR 番号。例： 888-123123 (バージョン 3.1 以降)

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers` の列挙は次の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		名目上のリストの 1 ページ目にある以外の IVR 番号を取得するために、オフセットと制限を指定できます。
limit		

応答は、最上位レベルの `<ivrNumbers total="N">` タグ (複数の可能性のあり) として構成されます。これには、複数の `<ivrNumber>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ivrNumber>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この IVR 番号を説明するラベル名。例：米国コールイン番号 (バージョン 3.1 以降)

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/ <ivr number id>` を使用して `webBridgeProfiles` の個々の IVR 番号で GET を実行し、次の応答を返します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
label	文字列	この IVR 番号を説明するラベル名。例：米国コールイン番号（バージョン 3.1 以降）
number	文字列	電子メール招待のレンダリング時に使用される IVR 番号。例：888-123123（バージョン 3.1 以降）

10.10 Call Bridge メソッド

10.10.1 Call Bridge に関する情報を取得する

「/callBridges」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ 上記 参照）。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	応答は、最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBridge> 要素が含まれる可能性があります。各 <callBridge> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 次のセクションを参照してください。

10.10.2 Call Bridge を設定および変更する

- 作成：「/callBridges」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callBridges/<call bridge id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name *	文字列	この設定済みのクラスタ化された Call Bridge の一意の名前
address	文字列	クラスタ内のこの Call Bridge に到達できるアドレス
sipDomain	文字列	このクラスタ化された Call Bridge とのピアツーピアリンクを確立するために使用する SIP ドメイン
callBridgeGroup	ID	指定されている場合は、この Call Bridge を指定された Call Bridge グループに関連付けます（バージョン 2.1 以降）

10.10.3 個々の Call Bridge に関する詳細情報を取得する

「/callBridges/<call bridge id>」 ノードで実行される GET メソッド。指定された Web Bridge ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

10.11 Call Bridge グループメソッド

10.11.1 Call Bridge グループに関する情報を取得する

「/callBridgeGroups」 ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	応答は、最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBridgeGroup> 要素が含まれる可能性があります。各 <callBridgeGroup> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 Call Bridge グループの名前

10.11.2 Call Bridge グループ を設定、変更する

- 作成：「/callBridgeGroups」 ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callBridgeGroups/<call bridge group id>」 への PUT

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	Call Bridge グループのオプションの名前
loadBalancingEnabled	true false	この Call Bridge グループの Call Bridge が、グループ内のコールのロードバランシングを試みるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで false になります (バージョン 2.1 以降)。
loadBalanceLyncCalls	true false	Lync から coSpace への着信コールが Call Bridge グループ内でロードバランシングされるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.1 以降)。 注：Lync クライアントとの間のコールのロードバランシングは、現在 Call Bridge グループではサポートされていません。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
loadBalanceOutgoingCalls	true false	coSpace からのコールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.2 以降)。
loadBalanceUserCalls	true false	coSpace への Web アプリケーションのコールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります (バージョン 2.3 以降)。
loadBalanceIndirectCalls	true false	Record-Route SIP ヘッダーを持つ着信コールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.4 以降)。 注: Exp C をコール制御として使用する場合は、このパラメータを true に設定する必要があります。これは、ロードバランシングが Expressway で機能するために必要です。

10.11.3 個々の Call Bridge グループに関する詳細情報を取得する

「/callBridgeGroups/<call bridge group id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された Call Bridge グループ ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

10.12 Call Bridge クラスタメソッド

10.12.1 Call Bridge クラスタの詳細を取得する

/system/configuration/cluster ノードで GET を発行して、次の情報を取得します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
uniqueName	文字列	この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。
peerLinkBitRate	数字	Call Bridge 間のコール分散接続に使用するために指定された最大メディアビットレート
participantLimit	数字	指定されている場合、この Call Bridge でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP コールは拒否されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
loadLimit	数字	指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数 (バージョン 2.1 以降)
newConferenceLoadLimitBasisPoints	数字	非アクティブな会議への着信コールが優先されなくなる負荷制限の基準点 (10,000 分の 1) は、0 ~ 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 (50% の負荷) です。値は、負荷制限に対してスケールリングされます。(バージョン 2.1 以降)
existingConferenceLoadLimitBasisPoints	数字	この Call Bridge への着信コールが拒否される負荷制限の基準点。範囲は 0 ~ 10000、デフォルトは 8000 (バージョン 2.1 以降)
maxPeerVideoStreams	数字	Call Bridge 間のコール分配接続を介して送信されるストリームの最大数。指定されていない場合はデフォルトで 4 になります。(バージョン 2.3.3 以降)

10.12.2 Call Bridge クラスタを設定、変更する

/system/configuration/cluster ノードで PUT を発行します

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
uniqueName	文字列	この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。
peerLinkBitRate	数字	指定されている場合、Call Bridge 間のコール分散接続に使用する最大メディアビットレート
participantLimit	数字	指定されている場合、この Call Bridge でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP コールは拒否されます。
loadLimit	数字	指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数 (バージョン 2.1 以降)
newConferenceLoadLimitBasisPoints	数字	非アクティブな会議への着信コールが優先されなくなる負荷制限の基準点 (10,000 分の 1) は、0 ~ 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 (50% の負荷) です。値は、負荷制限に対してスケールリングされます。(バージョン 2.1 以降)
existingConferenceLoadLimitBasisPoints	数字	非アクティブな会議への着信コールが拒否される負荷制限の基準点は、0 ~ 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 です (バージョン 2.1 以降)。

10.13 システム負荷メソッド

「/system/load」ノードで実行される GET メソッド。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
mediaProcessingLoad	数字	Call Bridge の現在のメディア処理負荷

10.14 互換性プロファイルメソッド

10.14.1 互換性プロファイル操作を取得する

「/compatibilityProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目にある以外の互換性プロファイルを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。
usageFilter	unreferenced referenced	別のオブジェクトで参照されていない互換性プロファイルのみを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されている互換性プロファイルのみを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答は、最上位の <compatibilityProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <compatibilityProfile> 要素が含まれる可能性があります。各 <compatibilityProfile> タグには、以下の要素が含まれる場合があります。
sipUdt	true false	SIP コール内で UDT の使用が許可されるかどうかを示します。（バージョン 2.1 以降）
sipMultistream	true false	SIP コール内で Cisco マルチストリームプロトコルの使用が許可されるかどうかを示します。（バージョン 2.2 以降）
sipMediaPayloadTypeMode	auto broadsoft	デフォルトのコーデック メディア ペイロードタイプが使用されるか、または特別なバリエーションが使用されるかを示します。（バージョン 2.2 以降）
chromeWebRtcVideoCodec	auto avoidH264	Chrome が WebRTC コールに使用するコーデックを示します。（バージョン 2.3 以降）

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
h264CHPMode	auto basic	H.264 Constrained High Profile (CHP) のどの部分が使用されているかを示します。 (バージョン 2.4 以降)
safariWebRtcH264interopMode	auto none	WebRTC コールに Safari ブラウザで使用される H.264 パラメータを示します。

10.14.2 互換性プロファイル操作を設定および変更する

- 作成 : 「/compatibilityProfiles」 ノードに対する POST メソッド
- 変更 : 「/compatibilityProfiles/<compatibility profile id>」 に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
sipUdt	true false	SIP コール内で UDT の使用を許可するかどうかを制御します。アクティブコントロールは、特定の機能に対して、UDT トランスポートプロトコルを使用します。たとえば、名簿リストをエンドポイントに送信することで、ユーザーが通話中に他の参加者の接続を切断し、さらに展開間の参加リストを接続解除できるようにするなどです。(バージョン 2.1 以降) true : SIP コール内で UDT が許可されます false : SIP コール内で UDT は許可されません
sipMultistream	true false	SIP コール内で Cisco マルチストリームプロトコルの使用を許可するかどうかを制御します。Cisco デュアルエンドポイントのデュアルビデオ機能は、このプロトコルを使用します。これが無効になっている場合、コールはデュアルスクリーンビデオを使用できません。(バージョン 2.2.3 以降) true : SIP コール内で Cisco マルチストリーム シグナリングが許可されます (<unset> の場合、SIP マルチストリームの動作はデフォルトで true に設定されます) false : SIP コール内で Cisco マルチストリーム シグナリングは許可されません
sipMediaPayloadTypeMode	auto broadsoft	デフォルトのコーデック メディア ペイロードタイプを使用するか、特別なバリエーションを使用するかを示します。(バージョン 2.2 以降) auto : 通常のメディアペイロードタイプ値が使用されるデフォルトモード broadsoft : H.264 ビデオコーデックがペイロードタイプ 109 でアドバタイズされる特別な例外モード。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
chromeWebRtcVideoCodec	auto avoidH264	<p>Chrome が WebRTC コールに使用するコーデックを制御します。</p> <p>auto : すべてのコーデックを許可し、Chrome で WebRTC に h264 を使用します (デフォルトの動作)</p> <p>avoidH264 : Chrome が代わりに VP8 を使用することになります</p> <p>(バージョン 2.3 以降)</p>
chromeWebRtcH264interopMode	auto none	<p>WebRTC コール用に Chrome で使用される H.264 パラメータを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - auto : デフォルトの動作。ハイプロファイルが無効にし、Chrome に SDP オファーでベースプロファイルレベル 5.0 をアダプタイズするよう強制します。 - none : 従来動作。SDP への変更はありません。(バージョン 2.9 以降)
h264CHPMode	auto basic	<p>H.264 Constrained High Profile (CHP) のどの部分を使用するかを制御します。</p> <p>auto : デフォルトの動作。エンドポイントの識別に基づいて、適切な部分が使用されます</p> <p>basic : 最小限のサブセットの部分のみが使用されます</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p>
passthroughMode	enabled disabled	<p>H.264 パススルー機能を許可するかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - enabled : 可能な場合、ビデオのトランスコーディングを避けることを可能にします - disabled : 常にビデオをトランスコードします <p>(バージョン 3.1 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
passthroughDualCamera	enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> 有効—デュアルカメラ エンドポイントとピア リンクのビデオをトランスコードしません。 無効—デュアルカメラ エンドポイントとピア リンクのビデオをトランスコードします。 <p>注：このパラメータは、passthroughMode が有効になっている場合にのみ無効にしてください。このパラメータは、passthroughMode が無効になっている場合は void です。</p> <p>SIP RX/TX およびピアリンクの最小ビットレートを 4 Mbps に設定してから、デュアルカメラ エンドポイントを使用して電話会議を行うことをお勧めします。</p> <hr/> <p>(バージョン 3.7 以降)。</p>
sipH224	true false	<p>このパラメータで、SIP コール内で H.224 の使用を許可するかどうかを制御します。このプロトコルは FECC (遠端カメラ制御) のサポートに使用されます。</p> <p>true : すべての SIP コールで H.224 が有効になっています。false : H.224 はすべての SIP コールで無効になっています。</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p>
distributionLinkMediaTraversal	enabled disabled	<p>クラスタ化された Meeting Server デバイス間の分散リンクにメディアトラバーサル (ICE/ STUN) を使用するかどうかを制御します。</p> <p>enabled : メディアトラバーサルを分散リンクに使用する必要があります</p> <p>disabled : メディアトラバーサルは分散リンクに使用しないでください。</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p>
safariWebRtcH264interopMode	auto none	<p>WebRTC コール用に Safari で使用される H.264 パラメータを制御します。</p> <p>auto : Safari で実行されている WebRTC クライアントに送信される SDP は、H.264 ハイプロファイルを無効にし、ベースプロファイルレベル 5 をアドバタイズします。これはデフォルト値です。</p> <p>none : SDP に変更はありません。(バージョン 3.2 以降)</p>

10.15 Lobby プロファイルメソッド

10.15.1 lobby プロファイル操作を取得する

「/lobbyProfiles」ノードで実行される GET メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明
name (オプション)	文字列	このプロファイルの識別に役立つオプションの名前ラベル (最大サイズ 200 バイト)
joinMethod (オプション)	unset presentationOnly audioVideo	<p>presentationOnly または audioVideo のいずれか。これは、webapp 参加者がプレゼンテーションのみで参加するか、オーディオビデオ参加者として参加するかを決定します。</p> <p>このパラメータには、lobbyProfiles の階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで既存のメソッドの audioVideo になります。</p> <p>ゲスト ユーザーの場合、パラメータは次の階層に従います。 accessMethod > coSpaces > tenant > system/profiles。</p> <p>[参加 (Join)] ボタンを使用して、自分がメンバーになっているスペースに参加しようとしているユーザーの場合、パラメータは次の階層に従います。 coSpaceUsers > accessMethod > coSpaces > tenant > system/profiles。</p>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
joinMethod	audioVideo presentationOnly	デフォルトの参加方法をオーディオとビデオまたはプレゼンテーションのみのモードに設定します。

10.15.2 lobby プロファイル操作を設定、変更する

- 作成: 「/lobbyProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更: 「/lobbyProfiles/<lobby Profile id>」に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明
name (オプション)	文字列	このプロファイルの識別に役立つオプションの名前ラベル (最大サイズ 200 バイト)

パラメータ	タイプ/値	説明
<code>joinMethod</code> (オプション)	<code>unset</code> <code>presentationOnly</code> <code>audioVideo</code>	<p>presentationOnly または audioVideo のいずれか。これは、webapp 参加者がプレゼンテーションのみで参加するか、オーディオビデオ参加者として参加するかを決定します。</p> <p>このパラメータには、<code>lobbyProfiles</code> の階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで既存のメソッドの audioVideo になります。</p> <p>ゲスト ユーザーの場合、パラメータは次の階層に従います。 accessMethod > coSpaces > tenant > system/profiles。</p> <p>[参加 (Join)] ボタンを使用して、自分がメンバーになっているスペースに参加しようとしているユーザーの場合、パラメータは次の階層に従います。 coSpaceUsers > accessMethod > coSpaces > tenant > system/profiles。</p>

10.16 システム診断メソッド

10.16.1 システム診断を取得する

新しい `/system/diagnostics` ノードで GET を発行して、次の情報を取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
<code>offset</code> <code>limit</code>	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。
<code>coSpaceFilter</code>	ID	指定されている場合、このフィルタは、返される結果を、指定された <code>coSpace</code> に対応する診断に制限します。
<code>callCorrelatorFilter</code>	ID	指定されている場合、このフィルタは、返される結果を、指定された <code>callCorrelator</code> に対応する診断に制限します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
<code>label</code>	文字列	指定された診断ログに関連付けられたテキストの説明

10.16.2 個々のシステム診断を取得する

`/system/diagnostics/<diagnostics ID>` ノードで GET を発行します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
<code>label</code>	文字列	特定の診断ログに関連するテキストの説明

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpace	ID	診断ログが特定の coSpace に関連付けられている場合、このパラメータはその coSpace の ID を保持します
callCorrelator	ID	このコールのすべての分散インスタンスで同じである ID。 この値は、同じコールに対する他の Call Bridge ピアの診断ファイルでも同じになります。
timestamp	文字列	診断ログが生成された時刻
contentsSize	数字	このログエントリの診断データのサイズ

10.16.3 個々のシステム診断の内容を取得する

/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents ノードで GET メソッドを発行して、システム診断に保存されているデータを取得します。

10.17 システムの時間ロギングメソッド

10.17.1 ロギングサブシステムのアクティブ化

バージョン 3.2 では、次の操作をサポートするために、新しい API ノード **/system/timedLogging** が導入されました。

- **/system/timedLogging** に対する PUT 操作
- **/system/timedLogging** での GET 操作

以下の表で詳細なパラメータをサポートしています。各パラメータには整数値を割り当てることができます。この値は、ロギングサブシステムがアクティブ化される時間（秒）に対応します。

パラメータを 0 または何も設定しなかった場合、ロギングサブシステムは非アクティブになります。たとえば、**sip=60** の **system/timedLogging** に対する PUT 操作は、SIP の詳細ロギングが 60 秒間アクティブ化されます。これらの 60 秒が経過する前に **sip=0** の **system/timedLogging** に対する PUT 操作を実行すると、ロギングが再度非アクティブになります。SIP と TIP の両方のロギングを次の 10 分間有効にするには、複数のパラメータ（たとえば **sip=600&tip=600** など）を同時に指定できます。

このオブジェクトには、次のパラメータを使用できます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
activeControl	数字	詳細な Active Control ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒）
activeSpeaker	数字	詳細で有効なスピーカーロギングを有効にする必要がある残り時間（秒）

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
api	数字	詳細な API ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
bfcpl	数字	詳細な BFCP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
cameraControl	数字	詳細なカメラ制御ログが有効になっている残り時間 (秒) (有効化されていない場合は 0)
dns	数字	詳細な DNS ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
events	数字	詳細なイベントログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
ice	数字	詳細な ICE ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
sip	数字	詳細な SIP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
tip	数字	詳細な TIP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)
webBridge	数字	詳細な Web Bridge ログを有効にする必要がある残り時間 (秒)

11 LDAP メソッド

オブジェクトツリーの「/ldapMappings」ノード、「/ldapServers」ノード、「/ldapSources」ノードにある階層内のオブジェクトは、Meeting Server と 1 つまたは複数の LDAP サーバー（Active Directory など）との対話に関連しています。LDAP サーバーは、ユーザーアカウントを Meeting Server にインポートするために使用されます。

- 1 つまたは複数の LDAP サーバーを構成する必要があります。各 LDAP サーバーには、Meeting Server がユーザーアカウント情報を取得する目的で接続するために使用するユーザー名とパスワード情報が関連付けます。
- 構成済みの LDAP サーバーからユーザーをインポートするときにシステムに追加されるユーザーアカウント名の形式を定義する LDAP マッピングも、1 つまたは複数必要です。
- 次に、一連の LDAP ソースを構成する必要があります。これは、一連のユーザーの実際のインポートに対応する独自のパラメータとともに、構成済みの LDAP サーバーと LDAP マッピングを結び付けます。
LDAP ソースでは、LDAP サーバー/LDAP マッピングの組み合わせを使用して、フィルタリングされた一連のユーザーをその LDAP サーバーからインポートします。このフィルタは、LDAP ソースの「baseDn」（ユーザーが属する LDAP サーバーのツリーのノード）と、ユーザーアカウントが特定のパターンに一致する LDAP オブジェクトに対してのみ作成されるようにするためのフィルタによって決定されます。

API LDAP メソッドでは、Web 管理インターフェイスの **[設定 (Configuration)] > [Active Directory]** ページの複数の「Active Directory 設定」のセットを追加できます。このページの **[Active Directory サーバーの設定 (Active Directory Server Settings)]** セクションは API が設定された LDAP サーバーに、**[インポート設定 (Import Settings)]** は LDAP ソースに、**[フィールドマッピング式 (Field Mapping Expressions)]** は LDAP マッピングに対応しています。

注： LDAP サーバーの資格情報は、次のフィールドを読み取るために使用されます。

mail	telephoneNumber
objectGUID	mobile
entryUUID	sn
nsuniqueid	givenName

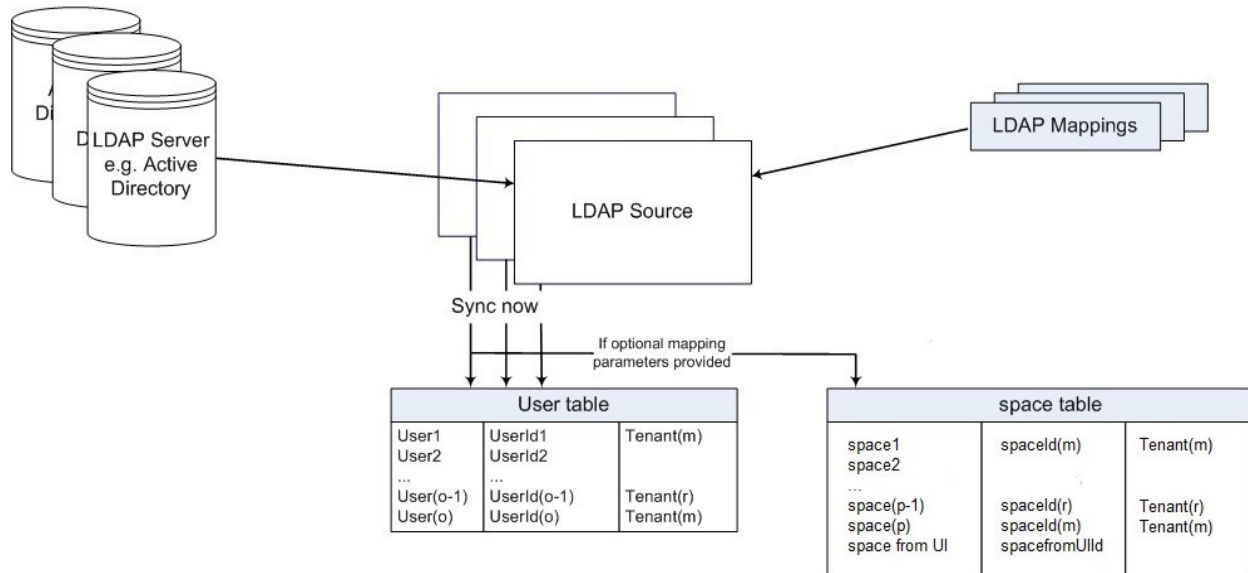
セキュリティ上の理由により、これらのログイン情報を使用して利用可能なフィールドと権限を制限することをお勧めします。

注： LDAP/AD 同期用に Meeting Server を構成する場合、LDAP/AD の属性を受け入れるフィールドには、大文字と小文字を区別するフォーマットで属性を入力する必要があります。たとえば、ユーザー名マッピングで属性 userPrincipalName を使用する場合は、次のようになります。

\$userPrincipalName\$ の場合、同期は成功しますが、\$UserPrincipalName\$ の場合は同期が失敗します。各 LDAP 属性が正しい大文字や小文字で入力されていることを確認してください。

11.1 LDAP サーバーメソッド

図 3 : LDAP プロセスの概要



11.1.1 LDAP サーバーに関する情報を取得する

「/ldapServers」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する LDAP サーバーのみが返されます。
offset	数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。
limit	数字	

応答要素	タイプ/値	説明/注記
		<p>応答は、最上位の <ldapServers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の「<ldapServer>」要素が含まれる可能性があります。</p> <p>返される「<ldapServer>」要素は、左側の一般的な形式に従います。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/注記
ldapServer id	ID	
address	文字列	
portNumber	数字	
secure	true false	

11.1.2 LDAP サーバーを追加、変更する

- 作成：「/ldapServers」ノードで実行される POST メソッド。LDAP サーバーがシステム上で正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- LDAP サーバーの変更は、「/ldapServers/<ldapServer id>」ノードの PUT メソッドです。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
address *	文字列	接続先の LDAP サーバーのアドレス。
name	文字列	関連付けられている名前（バージョン 2.9 以降）
portNumber *	数字	リモート LDAP サーバーで接続する TCP または TLS ポート番号
username	文字列	LDAP サーバーから情報を取得するときに使用するユーザー名
password	文字列	ユーザー名に関連付けられているアカウントのパスワード
secure *	true false	LDAP サーバーへのセキュアな接続を行うかどうか。「true」の場合、TLS が使用されます。「false」の場合、TCP が使用されます。
usePagedResults	true false	LDAP 同期中の検索操作で LDAP ページ結果制御を使用するかどうか。設定されていない場合、ページ結果制御が使用されます。Oracle Internet Directory では、このパラメータを「false」に設定する必要があります（バージョン 2.1 以降）。

11.1.3 個々の LDAP サーバーに関する詳細情報を取得する

「/ldapServers/<ldapServer ID>」ノードで実行される GET メソッド。指定された ldapServer ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
ldapServer id	ID	
address	文字列	
portNumber	数字	ドメイン名
username	文字列	directoryUser
secure	true false	

11.2 LDAP マッピングメソッド

11.2.1 LDAP マッピングを追加、変更する

- 作成：「/ldapMappings」への POST メソッド。LDAP マッピングがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更：「/ldapMappings/<ldapMapping id>」ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
jidMapping	文字列	たとえば、関連する LDAP サーバーのエントリからユーザー JID を生成するためのテンプレート。例： \$sAMAccountName\$@example.com。 注：jidMapping によって生成されたユーザー JID は URI としても使用されるため、一意である必要があり、URI またはコール ID と同じではありません。
nameMapping	文字列	関連する LDAP サーバーのエントリからユーザー名を生成するためのテンプレート。たとえば、「\$cn\$」で共通名を使用します。
cdrTagMapping	文字列	ユーザーの cdrTag 値を生成するためのテンプレート。固定値に設定するか、そのユーザーの他の LDAP フィールドから構築できます。ユーザーの cdrTag は、callLegStart CDR で使用されます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。
authenticationIdMapping	文字列	関連付けられた LDAP サーバーのエントリから認証 ID を生成するためのテンプレート（例："\$userPrincipalName\$"）。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
coSpaceUriMapping	文字列	これらのパラメータを指定すると、この LDAP マッピングによって生成された各ユーザー アカウントに、関連付けられた個人用 coSpace があることが保証されます。ユーザーは、 上記 で定義された権限を持つ coSpace のメンバーとして自動的に追加されます。
coSpaceSecondaryUriMapping	文字列	その coSpace を必要に応じてセットアップするために、これらのパラメータは、coSpace の URI、表示名、構成されたコール ID を設定するためのテンプレートを提供します。たとえば、coSpaceNameMapping を “\$cn\$ personal coSpace” に設定すると、各ユーザーの coSpace に名前の後に “personal coSpace” というラベルが付きます。
coSpaceNameMapping	文字列	生成された coSpace には独自の cdrTag があることに注意してください。これはユーザーの cdrTag と同じになり、上記の cdrTagMapping を変更して再同期する以外に変更することはできません (coSpace の cdrTag は、callStart CDR で使用されます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください)。
coSpaceCallIdMapping	文字列	通常の一意性ルールは、このように設定された coSpace の URI およびコール ID に適用されることに注意してください。指定された LDAP マッピングによってセットアップされた複数の coSpace に対して同じ URI またはコール ID を持つことは有効ではありません。そのような coSpace URI またはコール ID は、Meeting Server の他の場所で現在使用されているものと同じである必要があります。 注：jidMapping によって生成されたユーザー JID は URI としても使用されるため、一意である必要があります、URI またはコール ID と同じにすることはできません。

11.2.2 セカンダリ LDAP マッピングパラメータ

LDAP マッピングごとに、新しいオプションの coSpaceSecondaryUriMapping パラメータがあり、自動的に作成される coSpace がセカンダリ URI を持つようになっています。

- LDAP マッピングを作成するとき (前のセクションを参照)、または既存の LDAP マッピングの構成を変更するときに、「coSpaceSecondaryUriMapping」パラメータを指定できます。
- 個々の LDAP マッピングに関する情報を取得する場合 (「/ldapMappings/<LDAP mapping ID>」ノードでの GET メソッド)、その LDAP マッピングの coSpaceSecondaryUriMapping 値 (定義されている場合) が返されます。

11.2.3 LDAP マッピングに関する情報を取得する

「/ldapMappings」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	文字列	URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する LDAP マッピングのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
ldapMapping id jidMapping nameMapping	ID 文字列 文字列	応答は、最上位の <ldapMappings total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の「<ldapMapping>」要素が含まれる可能性があります。返される「<ldapMapping>」要素は、左側の一般的な形式に従います。

11.2.4 個々の LDAP マッピングに関する詳細情報を取得する

「/ldapMappings/<ldapMapping ID>」ノードで実行される GET メソッド。指定された ldapMapping ID が有効な場合、[セクション 11.2.1](#) で説明されている XML コンテンツとともに、「200 OK」応答が返されます。

11.3 LDAP ソースメソッド

11.3.1 LDAP ソースに関する情報を取得する

「/ldapSources」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられた LDAP ソースのみを返すように tenantFilter を指定します。

応答は、最上位の <ldapSources total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ldapSource> 要素が含まれる可能性があります。各 <ldapSource> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	LDAP ソースのオプションの名前ラベル (バージョン 3.1 以降)

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
server *	ID	以前に構成された LDAP サーバーの ID (上記 を参照)
mapping *	ID	以前に構成された LDAP マッピングの ID (上記 を参照)
baseDn *	文字列	ユーザーのインポート元となる LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名。「cn=Users,dc=<companyname>,dc=com」など。
filter	文字列	ユーザーとしてインポートするためにレコードが満たす必要がある LDAP フィルター文字列。「(objectClass=person)」など。
tenant	ID	指定されている場合、LDAP ソースを関連付ける必要があるテナントの ID。この LDAP ソースでインポートされたユーザーは、そのテナントに関連付けられます。
userProfile	ID	指定されている場合、これは、この LDAP ソースを介して重要なユーザーに関連付けるユーザー プロファイルの ID です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
nonMemberAccess	true false	<p>このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーアクセスを許可または禁止します。</p> <p>スペースは、LDAP 同期を介して自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメータを使用すると、企業はすべてのユーザースペースへのメンバー以外によるアクセスにパスワード保護を適用できません。</p> <p>true : スペースへのアクセスにパスワードは不要で、非メンバーは作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作に一致します。</p> <p>false : LDAP 同期の一部として、メンバーがメンバー以外のユーザーのアクセスを構成し、パスワードを設定する必要があります。</p> <p>注 : バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへのメンバー以外によるアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。</p>

11.3.2 LDAP ソースを追加、変更する

- 作成 : 「/ldapSources」ノードに対する POST メソッド。LDAP ソースがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更 : 「/ldapSources/<ldapSource id>」ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	LDAP ソースのオプションの名前ラベル (バージョン 3.1 以降)
server *	ID	以前に構成された LDAP サーバーの ID (上記 を参照)
mapping *	ID	以前に構成された LDAP マッピングの ID (上記 を参照)

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
baseDn *	文字列	ユーザーのインポート元となる LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名。「cn=Users,dc=<companyname>,dc=com」など。
filter	文字列	ユーザーとしてインポートするためにレコードが満たす必要がある LDAP フィルター文字列。“(objectClass=person)”など。
tenant	ID	指定されている場合、LDAP ソースを関連付ける必要があるテナントの ID。この LDAP ソースでインポートされたユーザーは、そのテナントに関連付けられます。
userProfile	ID	指定されている場合、これは、この LDAP ソースを介して重要なユーザーに関連付けるユーザー プロファイルの ID です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。
nonMemberAccess	true false	このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーアクセスを許可または禁止します。 スペースは、LDAP 同期を介して自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメータを使用すると、企業はすべてのユーザースペースへのメンバー以外によるアクセスにパスワード保護を適用できません。 true : スペースへのアクセスにパスワードは不要で、非メンバーは作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作に一致します。 false : LDAP 同期の一部として、メンバーがメンバー以外のユーザーのアクセスを構成し、パスワードを設定する必要があります。 注 : バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへのメンバー以外によるアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。

11.3.3 LDAP ソースに関する詳細情報を取得する

GET メソッドが実行される場所 : 「/ldapSources/<ldapSource ID>」ノード。指定された ldapSource ID が有効な場合、「200 OK」の応答が返され、前述の LDAP ソースの作成に従って XML コンテンツが含まれます。

11.4 LDAP 同期メソッド

LDAP 同期の API サポートには、次の機能が含まれます。

- API を介して新しい同期をトリガーする
- 保留中および進行中の LDAP 同期を監視する

オブジェクトツリーには最上位の /ldapSyncs ノードがあり、その下のオブジェクトで使用する、関連付けられた GET、DELETE、POST メソッドがあります。

11.4.1 スケジュールされた LDAP 同期メソッドを取得する

「/ldapSyncs」ノードでの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		結果を「<ldapSyncs total=N> ... </ldapSyncs>」の形式で返します。N は保留中および進行中の LDAP 同期メソッドの総数です。 包囲する「<ldapSyncs>」は 1 つ以上「<ldapSync id=ID>」ノード。左側の各フォームで、状態は「InProgress」（現在進行中）、「pending」（まだ開始していない）、完了または失敗のいずれかです。
ldapSyncid	ID	
state	InProgress pending complete failed	この LDAP 同期操作の現在のステータス : InProgress - この LDAP 同期操作は現在実行中です pending - この LDAP 同期操作はまだ開始されていません complete - この LDAP 同期操作は正常 failed - この LDAP 同期操作が失敗しました
failureReason	tenantDoesNotExist ldapSourceDoesNotExist clashOccurred ldapError	
numUsersImported	数字	進行中の LDAP 同期でこれまでにインポートされたユーザーの数
numLdapSourcesComplete	数字	複数の LDAP ソースの進行中の LDAP 同期に対して同期メソッドが完了している LDAP ソースの数。ただし、最初の LDAP ソース同期がまだ進行中であり、numLdapSourcesComplete=0 である場合、パラメータは省略されます。
creationTime	文字列	同期オブジェクトが作成された日時のタイムスタンプ (UTC)。RFC 3339 に従ってフォーマットされます。 "2014-02-11T12:10:47Z" (バージョン 3.1 以降)
startTime	文字列	同期操作が開始された時刻のタイムスタンプ (UTC)。(バージョン 3.1 以降)
endTime	文字列	同期操作が終了 (成功または失敗) した日時のタイムスタンプ (UTC)。(バージョン 3.1 以降)

11.4.2 新しい LDAP 同期を開始する

「/ldapSyncs」ノードの POST メソッド。次の表のいずれのパラメータも含まれていない場合、同期は、Web 管理インターフェイスの **[構成 (Configuration)] > [Active Directory]** ページの **[今すぐ同期 (Sync Now)]** ボタンの操作と同等になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
tenant	テキスト	指定された場合、同期はそのテナントに制限されます
ldapSource	ID	指定された場合、同期はその LDAP ソースに制限されます
removeWhenFinished	true false	<ul style="list-style-type: none"> ■ true : この LDAP 同期は、(正常にまたはエラーが発生して)完了すると、システムの追跡リストから削除されるため、照会できなくなります。 ■ false : この LDAP 同期は、完了時にシステムの追跡リストに保持され、その時点で成功または失敗のステータスを照会できません。システムの追跡リストに永続的に残らないようにするには、明示的に削除する必要があります。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。</p>

新しい LDAP 同期が正常に行われると、レスポンスには「/api/v1/ldapSyncs/<LDAPsync ID>」という形式の「Location」が含まれます。

11.4.3 スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルする

DELETE メソッドを「/ldapSyncs/<LDAP sync ID>」ノードで実行します。このメソッドは、スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルします。同期メソッドがすでに開始されている（または開始されて完了している）場合、このメソッドは失敗します。

11.4.4 単一の LDAP 同期メソッドに関する情報を取得する

「/ldapSyncs/<LDAP sync ID>」ノードでの GET メソッド。

指定された LDAP 同期 ID が有効な場合、結果は <ldapSync id<ldapSync id=LDAP sync ID>=LDAP sync ID> ...

の形式になります。上記の値に加えて、LDAP 同期操作が失敗した場合は clashOccurred の failureReason で次の値が返されます。</ldapSync>

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
clashesUserJid clashesUri clashingCallId		存在する場合、これらのフィールドには、衝突した ID が含まれます

11.5 外部ディレクトリ検索場所

API を介して、Web アプリのユーザーが検索を実行するときに参照される追加のディレクトリ検索場所を Call Bridge に追加できます。外部ディレクトリ検索場所は、テナントレベルで追加できます。これらの場所からの結果は、「通常」の結果（LDAP ソースのユーザーリストからの結果など）に追加され、Web アプリに表示されます。

11.5.1 外部ディレクトリ検索場所に関する情報を取得する

「/directorySearchLocations」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます（ 上記 参照）。
tenantFilter	ID	指定されたテナントに関連付けられた外部ディレクトリ検索場所のみを返すように tenantFilter を指定します。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
ldapServer tenant baseDn filterFormat label priority	ID ID 文字列 文字列 文字列 数字	<p><directorySearchLocations total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <directorySearchLocation> 要素が含まれる可能性があります。返される <directorySearchLocation> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>すべて、下記で説明する外部ディレクトリ検索場所の作成に従います</p>

11.5.2 外部ディレクトリ検索場所を追加、変更する

- 作成：「/directorySearchLocations」ノードに対する POST メソッド。LDAP ソースがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更：“/directorySearchLocations/<directory search location id>”ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
ldapServer *	ID	以前に構成された LDAP サーバーの ID (上記 を参照)
tenant	ID	指定されている場合、この外部ディレクトリが適用されるテナント。リモートディレクトリからのエントリは、このテナントに関連付けられたユーザーにのみ提供されます。
baseDn	文字列	検索対象の LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名
filterFormat	文字列	ディレクトリ検索結果の選択に使用される LDAP フィルタ。\$1 は、ユーザーが指定した検索文字列を表すために使用する必要があります。
label	文字列	要求クライアントによって表示されるときに、このディレクトリからの検索結果に関連付ける必要がある、人間が読める名前。
priority	数字	検索で directorySearchLocations を使用する順序を制御します。優先度の高いエントリが最初に使用されます。
displayName email sip		これらのフィールドは、検索結果の内容を入力するときに使用される LDAP のフィールドの名前を指定します。たとえば、正規名を使用するには、displayName を "cn" に設定します。

11.5.3 外部ディレクトリ検索場所に関する詳細情報を取得する

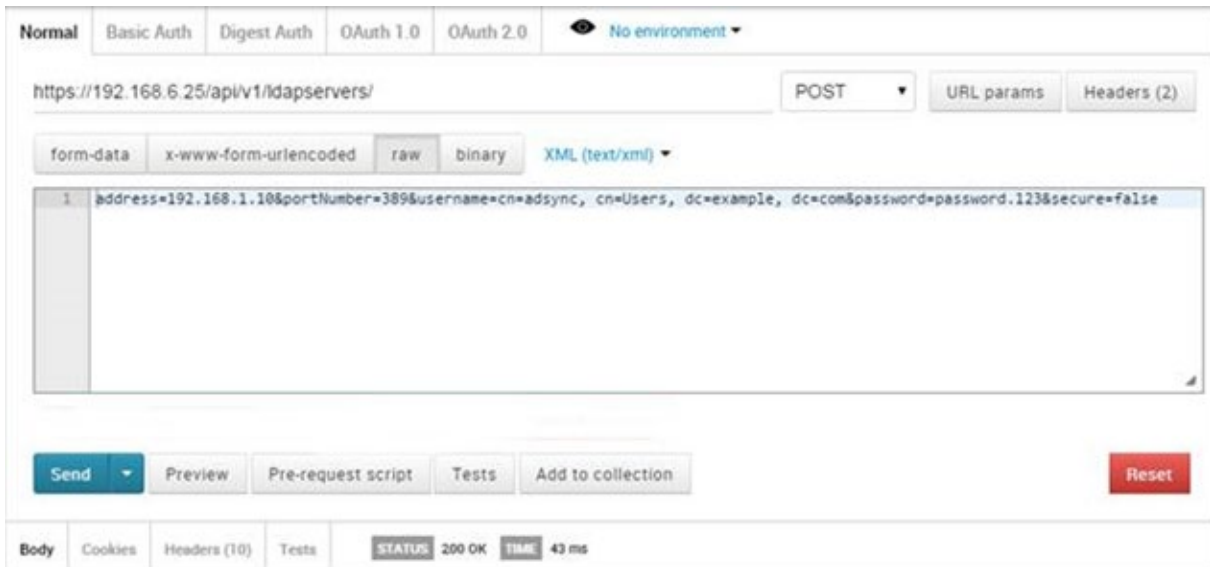
GET メソッドが実行される場所：「/directorySearchLocations/<directory search location id>」ノード。指定されたディレクトリ検索ロケーション ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、前述のディレクトリ検索ロケーションの作成に従って XML コンテンツが含まれます。

11.5.4 外部ディレクトリ検索場所の追加例

このセクションでは、Web アプリのユーザーが検索を実行するときに Call Bridge が参照する追加のディレクトリ検索場所を追加する例を示します。

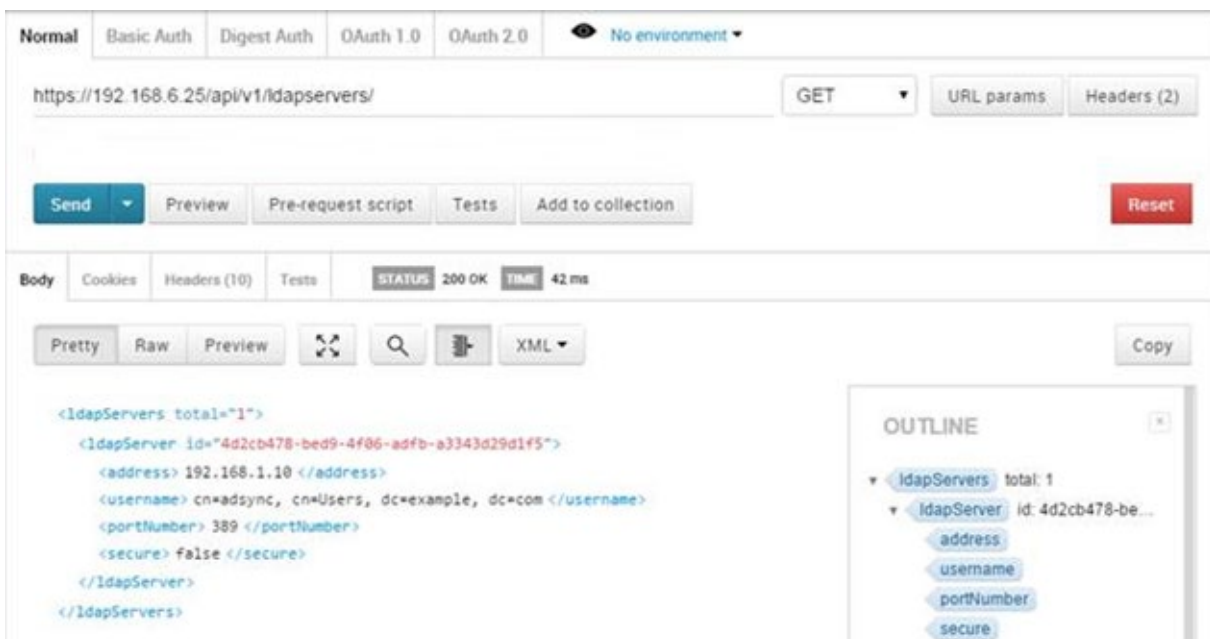
次の手順に従ってください。

1. Chrome Postman などのアプリを使用して、Meeting Server の API にログインします。
2. Meeting Server に LDAP サーバーエントリを作成します。次の図は、URL 192.168.6.25 の Meeting Server に POST される ldapserver エントリを示しています。このエントリは、URL 192.168.1.10 の LDAP サーバー用であり、認証情報が提供されています。

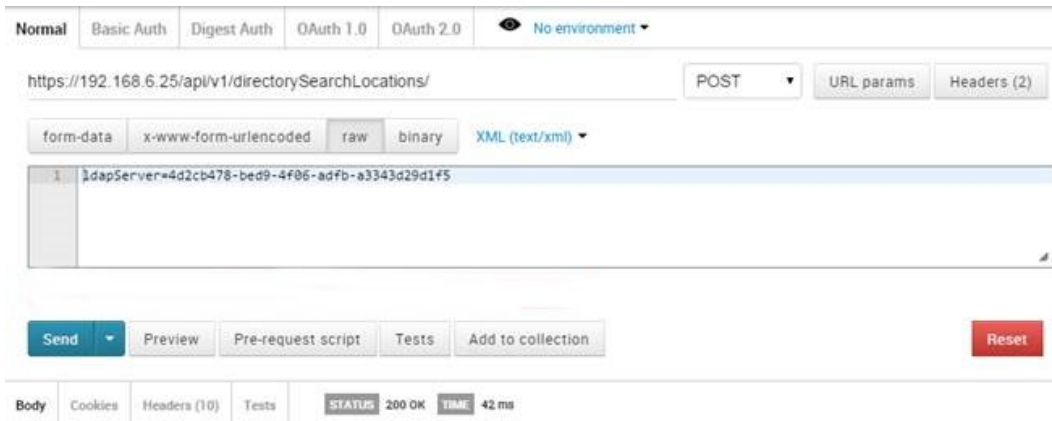


手順 2 では、Call Bridge が LDAP サーバーにアクセスすることを許可するために必要な情報を提供します。

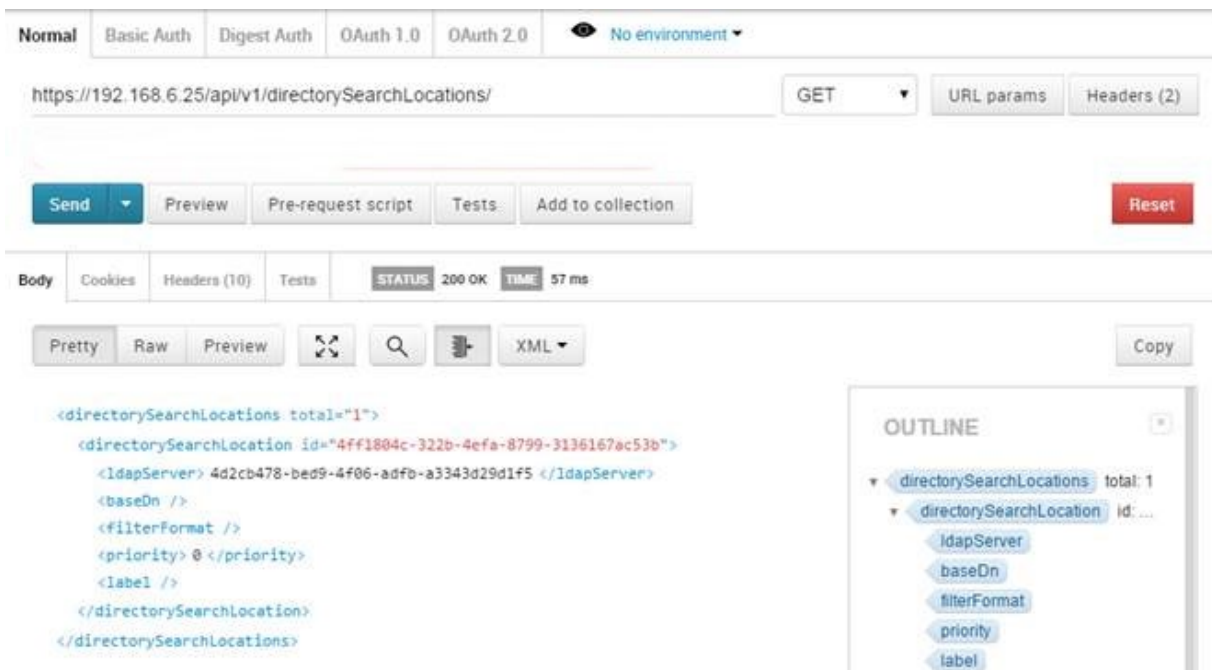
3. GET を使用して、手順 2 で作成した LDAP サーバーエントリの ID を取得します。



4. 手順 3 の LDAP サーバー ID を POST して、DirectorySearchLocation を作成します。DirectorySearchLocation 設定は、ディレクトリ検索の動作を定義します。データ形式は raw に設定してください。



5. GET を使用して、手順 4 で作成したディレクトリ検索場所の ID を取得します。



6. PUT を使用して DirectorySearchLocation を編集します。PUT URL に DirectorySearchLocation ID を追加し、baseDN および filterFormat に関する詳細情報を提供します。データ形式は raw に設定していることを確認してください。次に例を示します。

PUT :

<https://192.168.6.25/api/v1/DirectorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b>

baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterformat=cn=*\$1*&firstname=givenna me&lastname=sn&displayname=cn&sip=mail

Normal Basic Auth Digest Auth OAuth 1.0 OAuth 2.0 No environment

https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b PUT URL params Headers (2)

form-data x-www-form-urlencoded raw binary XML (text/xml)

```
1 baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterformat=cn=*$1*&firstname=givenname&lastname=sn&displayname=cn&sip=mail
```

Send Preview Pre-request script Tests Add to collection Reset

Body Cookies Headers (9) Tests STATUS 200 OK TIME 45 ms

7. DirectorySearchLocation の構成が期待どおりであることを確認します。

Normal Basic Auth Digest Auth OAuth 1.0 OAuth 2.0 No environment

https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b GET URL params Headers (2)

Send Preview Pre-request script Tests Add to collection Reset

Body Cookies Headers (10) Tests STATUS 200 OK TIME 60 ms

Pretty Raw Preview XML Copy

```
<directorySearchLocation id="4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b">
  <ldapServer> 4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5 </ldapServer>
  <baseDn> OU=contacts,DC=example,DC=com </baseDn>
  <filterFormat> cn=*$1* </filterFormat>
  <priority> 0 </priority>
  <label />
  <firstName> givenname </firstName>
  <lastName> sn </lastName>
  <displayName> cn </displayName>
  <phone />
  <mobile />
  <email />
  <sip> mail </sip>
  <organisation />
</directorySearchLocation>
```

OUTLINE

- directorySearchLocation id: ...
 - ldapServer
 - baseDn
 - filterFormat
 - priority
 - label
 - firstName
 - lastName
 - displayName
 - phone
 - mobile
 - email
 - sip
 - organisation

12 マルチテナンシー

The Meeting Server supports multi-tenancy; this refers to sub-dividing its capacity into a set of “islands” where each island has all of the functionality of the unit as a whole, but has no access to the resources (for instance users, coSpaces, or active calls) of other tenants.

API でのマルチテナンシーの主な影響は 2 つあります。

- API を使用すると、テナントを作成、変更、削除できます。これは、テナントを管理するための主要な手段です。
- API は、特定のテナントについて結果を返すことができます。
マルチテナンシーモードでは、通常、各 coSpace、コール、ユーザーはテナントにキー設定（つまり「所有」）されます。特定のユーザー、coSpace、またはコールオブジェクトに関する情報を取得する場合、API にはそのオブジェクトを所有するテナントが含まれ、列挙ベースの取得には、返されたリストに各オブジェクトのテナント情報が含まれます。
同様に、GET メソッドをフィルタ処理して、特定のテナントの情報のみを含めることができます。

このドキュメントで前述した API メソッドの大部分は、マルチテナンシーモードでも機能します。ほとんどの場合、これは、新しいオブジェクトがどのテナントに関連付けられるかをシステムが認識できるように、フォームパラメータを介して作成中のテナント ID (POST) メソッドを提供することと同じです。たとえば、マルチテナントモードでない場合に coSpace を作成するには、フォームパラメータとして「name」などのパラメータを使用して「/api/v1/coSpaces」への POST メソッドが必要になります。特定のテナントの coSpace を作成するには、POST は再び“/api/v1/coSpaces”に対して実行されますが、フォームパラメータに追加で「tenant=<tenant id>」を含めます。ここで、「<tenant id>」は以前のテナント作成の結果として、または以前の列挙を介して特定されています。

どの初期 POST メソッドでも、存在しない「tenant」パラメータまたは長さゼロの値は同等として扱われます。その効果は、オブジェクトがどのテナントにも関連付けられていないことです。

上記のルールによると、<tenant id> 値は、次のオブジェクトの作成および変更 (POST および PUT) メソッドで有効です (図 4 を参照)。

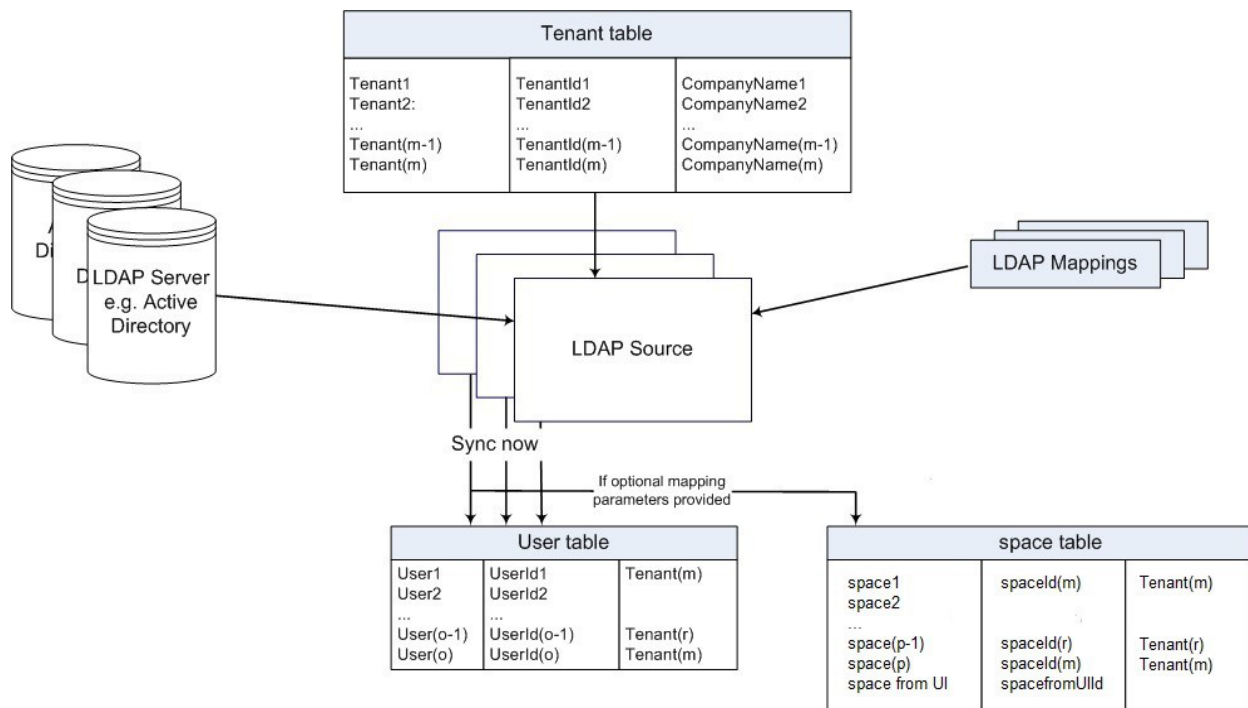
- coSpaces (「/coSpaces」または「/coSpaces/<coSpace ID>」)
- LDAP ソース (「/ldapSources」または「/ldapSources/<ldap source id>」)
- ダイアルプランルールの転送 (「/forwardingDialPlanRules」または「/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>」)
- 発信ダイアルプランルール (「/outboundDialPlanRules」または「/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>」)

<tenant id> 値は、Meeting Server によって次のオブジェクトの取得 (GET) メソッドで返されます。

- coSpaces (「/coSpaces」または「/coSpaces/<coSpace ID>」)
- ユーザー (「/users」または「/users/<user ID>」)
- callLegs (「/callLegs」、 「/callLegs/<call leg id>」、または「/calls/<call id>/callLegs」)
- LDAP ソース (「/ldapSources」または「/ldapSources/<ldap source id>」)
- ダイアルプランルールの転送 (「/forwardingDialPlanRules」
または「/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan
rule ID>」)
- 発信ダイアルプランルール (「/outboundDialPlanRules」または
「/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>」)

これらすべてのオブジェクトの列挙では、指定されたテナントに関連付けられたオブジェクトのみを取得するために、要求された URI に「tenantFilter」値を指定できます。

図 4 : マルチマルチテナンシープロセスの概要



12.1 テナント

12.1.1 テナントを取得する

「/tenants」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
filter	テキスト	URI で filter=<tenant> を指定すると、フィルタと一致するテナントのみが返されます。
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のみが返されます。

応答要素	タイプ/値	説明/注記
tenant id name	ID テキスト	応答は、最上位の <tenants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <tenant> 要素が含まれる可能性があります。 <tenant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。
tenantGroup	ID	指定されている場合は、このテナントを提供されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。

12.1.2 テナントを作成および変更する

- 作成：「/tenants」ノードへの POST メソッド。テナントが正常に作成されている場合、レスポンスヘッダーの「Location」フィールドに新しいテナントの ID が返されます。
- 変更：「/tenants/<tenant id>」ノードで実行される PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name *	テキスト	テナントのラベル
tenantGroup	ID	指定されている場合は、このテナントを提供されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこのテナントに関連付けます。
callProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールプロファイルをこのテナントに関連付けます。
dtmfProfile	ID	指定されている場合、指定された DTMF プロファイルをこのテナントに関連付けます。
ivrBrandingProfile	ID	指定されている場合、指定された IVR ブランディングプロファイルをこのテナントに関連付けます。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールブランディングプロファイルをこのテナントに関連付けます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
participantLimit	数字	指定されている場合、同時にアクティブにできる、このテナントに関連付けられた参加者の数に制限を設定します。この制限を超える新規参加者は許可されません。
userProfile	ID	提供されている場合、このテナントに関連付けるユーザープロフィール。他に上書きされない限り、このテナントに関連付けられているすべてのユーザーはこのユーザープロフィールを使用します。
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定された DTMF プロファイルをこのテナントに関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)。
webBridgeProfile	ID	指定した場合、指定された Web Bridge プロファイルをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)。

12.1.3 個々のテナントに関する詳細情報を取得する

「/tenants/<tenant ID>」ノードで実行される GET メソッド：指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

/tenants/<tenant id> で GET 操作を実行すると、次の応答の値が返されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name *	テキスト	テナントのラベル
tenantGroup	ID	指定されている場合、このテナントが関連付けられているテナントグループ。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコールレグプロファイル。
callProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコールプロファイル。
dtmfProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定された DTMF プロファイル。
ivrBrandingProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定された IVR ブランディングプロファイル。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコールブランディングプロファイル。
participantLimit	数字	指定されている場合、同時にアクティブにできる、このテナントに関連付けられた参加者の数の制限。この制限を超える新規参加者は許可されません。
userProfile	ID	提供されている場合、このテナントに関連付けられたユーザープロフィール。他に上書きされない限り、このテナントに関連付けられているすべてのユーザーはこのユーザープロフィールを使用します。
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定された DTMF プロファイルをこのテナントに関連付けます。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたダイヤルインセキュリティ プロファイル (3.0 以降)。
webBridgeProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられた、指定された Web Bridge プロファイル (3.0 以降)。

12.2 テナントグループの操作

12.2.1 テナントグループを取得する

「/tenantGroups」ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset limit	数字 数字	名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (上記 参照)。 応答は、最上位の <tenantGroups total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <tenantGroup> 要素が含まれる可能性があります。
tenantGroups	数字	テナントグループの数
tenantGroup id	ID	各テナントグループの ID

12.2.2 テナントグループを作成および変更する

- 作成：「/tenantGroups」ノードへの POST メソッド。テナントグループが正常に作成されている場合、レスポンスヘッダーの「Location」フィールドに新しいテナントグループの ID が返されます。
- 変更：「/tenantGroups/<tenant group id>」ノードで実行される PUT メソッド

12.2.3 個々のテナントグループに関する詳細情報を取得する

「/tenantGroups/<tenant group id>」ノードで実行される GET メソッド。指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

13 クエリメソッド

13.1 accessQuery メソッド

accessQuery メソッドは、特定の URI またはコール ID（たとえば、coSpace に関連付けられる可能性のあるもの）に到達する方法の詳細を検索します。1 つの用途は、「sales.meeting」という URI を持つ coSpace が SIP URI 「sales.meeting@example.com」を介して到達することを発見する外部システムです。

/api/v1/accessQuery ノードで実行される POST。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
uri	テキスト	URI の「ユーザー部分」とは、完全な URI の「@」文字の前の部分です。最大長は 200 文字です。
callId	数字	数値 ID（通常は 9 桁）
tenant	ID	指定されている場合、検索を特定のテナントに制限します

上記のパラメータはいずれも必須ではありませんが、クエリは uri または callId が指定されている場合にのみ意味があります。

応答の形式：

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
		応答には、「<accessQuery>」タグ内の左側の要素が 1 つ以上含まれています。
uri	文字列	リクエストで提供された uri に対応する完全な URI
webAddress	文字列	リクエストで提供された callId への Web アクセス用の HTTPS URI（バージョン 3.1 以降廃止）
ivr	文字列	リクエストで提供される callId で提供できる IVR に到達するための電話番号（バージョン 3.1 以降廃止）

13.2 conversationIdQuery メソッド

conversationIdQuery メソッドは、指定された ID を持つ会話が見つかったかどうかを調べます。

/api/v1/conversationIdQuery ノードで実行される GET。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
conversationId	文字列	検索する会話 ID

応答の形式：

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
conversationId	文字列	検索された会話 ID
found	true false	指定された ID の会話が見つかったかどうか。

13.3 uriUsageQuery メソッド

uriUsageQuery メソッドは、指定されたテナント内の指定された URI を使用して、coSpace やユーザー、IVR を検索します。

/api/v1/uriUsageQuery ノードで実行される POST。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
uri	文字列	URI の「ユーザー部分」。つまり、完全な URI の「@」文字の前の部分です。最大長は 200 文字です。
tenant	ID	指定されている場合、指定されたテナント内の coSpace、ユーザー、IVR のみが返されます。省略した場合、テナントのないエンティティのみが返されます。

応答の形式：

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
coSpaceId	ID	指定された URI を使用する coSpace の ID、またはそのアクセス方式が指定された URI を使用する coSpace の ID
userId	ID	指定された URI を使用するユーザーの ID
ivrId	ID	指定された URI を使用する IVR の ID

14 ダイアルインセキュリティプロファイルのメソッド

14.1 一般情報

バージョン 3.0 では、最小パスコード長の機能が導入されました。これは、セキュリティを強化し個別の企業のセキュリティポリシーを遵守するために、管理者が設定できます。最小パスコード長は、IVR、直接 SIP ダイアル、Web アプリケーションなど、さまざまなダイアルインの方法すべてに適用できます。

最小パスコード長は、新しい API オブジェクト `/dialInSecurityProfiles` で定義されます。新しく定義されたセキュリティプロファイルは、最上位（グローバル）のプロファイル、テナント、coSpace、accessMethods のいずれかに割り当てることができます。このプロファイルは、coSpaceTemplates および `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates` にも割り当てることができます。

プロファイルには階層があり、階層の下位にあるプロファイルの値が上位の値より優先されます。また、パラメータが設定されていない場合やダイアルインセキュリティプロファイルが設定されていない場合は、階層内で次に上位にあたるプロファイルから継承されます。

dialInSecurityProfile の階層は次のとおりです。

- 最上位（グローバル）プロファイル (`/system/profiles`)
- テナント (`/tenants/<tenant id>`)
- coSpaces (`/coSpaces/<cospace id>`)
- accessMethod (`/coSpaces/<cospace id>/accessMethods/<access method> id>`)

ダイアルインセキュリティプロファイルは、次の coSpace テンプレートおよび coSpace アクセス方式 テンプレートにも適用できます。

- coSpaceTemplates (`/coSpaceTemplates/<coSpace template id>`)
- accessMethodTemplates (`/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method template id>`)

coSpaces および関連するアクセス方式がテンプレートからインスタンス化されるときに、テンプレートからダイアルインセキュリティプロファイルが対応するインスタンス化されたオブジェクトに割り当てられます。

注：スケジュールされた会議でバージョン 15.12.0 より前の TMS を使用する場合、CUCM アドホック会議コールではシステムレベルまたはテナントレベルでセキュリティプロファイルが設定されません。

注：パラメータ `minPasscodeLength` が 0 に設定されている場合、パスコード長は適用されませ

ん。

14.1.1 ダイアルインセキュリティプロファイルを使用した最小パスコード長の実装

dialInSecurityProfile のパラメータはすべて任意です。これらのパラメータがどのレベルでも指定されない場合、デフォルト設定は `minPassCodeLength=0` と `allowOutOfPolicy=true` になります。dialInSecurityProfiles でのデフォルト設定は `<unset>` です。

14.2 ダイアルインセキュリティプロファイルを取得する

`/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id>` を使用した個別のプロファイルでの GET 操作
次の応答を示します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前最大長は 200 文字です。
minPasscodeLength	数字	許容される最小パスワード長、0～200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスワードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。

`/dialInSecurityProfiles` の列挙は以下の URI パラメータを受け入れます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/注記
offset		offset と limit は、名目上のリストの 1 ページ目以外のダイアルインセキュリティプロファイルを取得する場合に指定できます。
limit		
usageFilter	unreferenced referenced	グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないダイアルインセキュリティプロファイルだけを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 ヶ所で参照されているダイアルインセキュリティプロファイルだけを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。

応答は、最上位レベルの `<dialInSecurityProfilestotal="N">` タグとして構成されます。これには、複数の `<dialInSecurityProfile>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<dialInSecurityProfile>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前最大長は 200 文字です。
minPasscodeLength	数字	許容される最小パスワード長、0～200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注記
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスコードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。

14.3 ダイアルインセキュリティプロファイルを作成、変更、取得する

新しい `/dialInSecurityProfiles` オブジェクトは、ダイアルインセキュリティプロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは次の操作をサポートします。

- 新しいダイアルインセキュリティプロファイルを作成するための `/dialInSecurityProfiles` に対する POST 操作
- `/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id>` を使用した個別のプロファイルでの PUT 操作

次の要求パラメータを使用します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注記
name	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前。最大長は 200 文字です。
minPasscodeLength	数字	許容される最小パスコード長、0 ~ 200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスコードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。

15 スケジューラ API

スケジューラは、バージョン 3.3 で新しい API ノードを導入します。スケジューラには独自の HTTPS インターフェイスがあり、これを有効にすると、スケジューラ API を使用してスケジューラ会議を構成するために使用できます。

Meeting Server 管理 API インターフェイスは、スケジューラ API をサポートしていません。Postman などのサードパーティツールはすべての要求に使用でき、ブラウザは GET API にも使用できます。「使用するサードパーティツール」を参照してください。

新しいノードは、新しいコマンド **scheduler https listen<interface> <port>** で指定されたアドレスで使用でき、**https://hostname:port/api/v1/scheduler** のプレフィックスが付きます。

例

https://hostname:port/api/v1/scheduler/health または
https://hostname:port/api/v1/scheduler/meetings

スケジューラ API ノードは次のとおりです。

- /health
- /meetings
- /meetings/<meeting id>
- /meetings/<meeting id>/participants
- /meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence> id>
- /meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence> id>/participants
- /meetings/<meeting ID>/refreshEmails
- /meetings/<meeting ID>/recurrences/<recurrence> id>/refreshEmails
- /timedLogging

15.1 スケジューラの HTTPS インターフェイスを設定する

スケジューラには独自の HTTPS インターフェイスがあり、これを有効にすると、スケジューラ API を使用してスケジューラ会議を構成するために使用できます。ただし、Web Bridge は、管理 API を使用してスケジューラと通信しません。HTTPS サーバーを有効にすることは必須ではありませんが、診断およびトラブルシューティング機能を提供するため、有効にすることをお勧めします。

次のコマンドを使用して、HTTPS サーバーがリッスンするインターフェイスを構成します。

scheduler https listen <interface> <port>

例：

scheduler https listen a 8443

次のコマンドを使用して、サーバーの証明書キーペアを構成します。

```
scheduler https certs <key-file> <crt-fullchain-file>
```

例：

```
scheduler https certs scheduler_https.key scheduler_https.cer
```

15.2 スケジューラ API メッセージ形式

API 操作の場合、スケジューラのメッセージ本文は JSON 形式を使用します。

次の例を参考にしてください。

`http://localhost:8082/api/v1/scheduler/meetings` への POST：

```
{
  "coSpace": "9ed57ad2-26aa-469f-85d1-e62bbe75cdd6",
  "summary": "Test meeting",
  "dtStart": "2021-07-20T22:00:00.000",
  "dtEnd": "2021-07-20T23:00:00.000",
  "rrule":
  "FREQ=YEARLY;BYMONTH=7;BYMONTHDAY=9;UNTIL=20220710T235900Z",
  "timeZone": "Europe/Budapest",
  "participants": [
    {
      "accessMethod": "527f439b-9527-4718-bc1c-d2511856c268",
      "userName": "testuser",
      "email": "testuser@example.com"
    }
  ],
  "organizerUserName": "testorganizer",
  "organizerEmail": "testorganizer@example.com",
  "organizerDisplayName": "Test Organizer"
}
```

15.3 コンテンツヘッダー形式

Header key: Content-Type

Header value: application/json

15.4 レスポンスコード

レスポンスコード	説明
200	要求が成功しました。

レスポンスコード	説明
400	要求が不正です。検証に失敗しました。
403	API へのアクセスが禁止されています。通常、ユーザーがメンバーではないスペースで会議を作成しようとした場合に発生します。
404	会議 ID は見つかりませんでした。
405	メソッドは許可されていません。POST の代わりに PUT が使用された場合など。
415	コンテンツタイプがサポートされていません。ユーザーが JSON 以外のコンテンツタイプで本文を送信しようとした場合に発生します。
500	内部サーバーエラー。
503	サービスを利用できません。通常、スケジューラが実行されているが、データベースに接続していない場合に発生します。

15.5 カスタムエラーコード

以下は、エラー ID とユーザーエラーが発生した場合にスケジューラが送信する対応するエラーメッセージのリストです。エラー ID は、エラーメッセージに割り当てられた一意の ID を表し、エラーメッセージをスケジューラ インターフェイスに対応付けるために使用できます。

エラーID	エラー メッセージ
1003	会議の必須フィールドがありません
1004	会議の開始日時の形式が無効です
1005	会議の終了日時の形式が無効です
1006	会議の開始と終了の日付/時間の順序が無効です
1007	会議の作成/更新中の繰り返しルール値が無効です
1008	会議の作成中の参加者フィールド値が無効です
1009	会議主催者のメールが無効です
1010	会議主催者の電子メールの表示名が無効です
1013	会議終了日時がなく、終日会議もありません
1018	タイムゾーンが無効です
1019	この会議は既存の会議と重複しています

15.6 リクエストとレスポンスの例

これは、指定された期間にスケジュールされた会議を取得する例です。

リクエスト：

```
GET /api/v1/scheduler/meetings?fromTime=2021-06-27T22%3A00%3A00.000Z&untilTime=2021-07-04T21%3A59%3A59.999Z&maxMeetings=50 HTTP/1.1
Host: localhost:8082
```

レスポンス :

HTTP/1.1 200 OK Content-Type: application/json

```
[
  {
    "coSpace": "9ed57ad2-26aa-469f-85d1-e62bbe75cdd6",
    "summary": "Test 1",
    "dtStart": "2022-07-09T22:00:00",
    "dtEnd": "2022-07-09T23:00:00",
    "timeZone": "Europe/Budapest",
    "meeting": "1aa0cf29-ea53-4fa8-b63a-7675aba85e36",
    "isSchedulerSpaceOwner": false,
    "isFullDayMeeting": null,
    "rrule":
      "FREQ=YEARLY;BYMONTH=7;BYMONTHDAY=9;UNTIL=20220710T235900 Z",
    "organizerEmail": "amilicev@example.com",
    "organizerUserName": "amilicev@example.com",
    "participantCount": 1,
    "isInvited": null,
    "recurrence": "2022-07-09T22:00:00"
  }
]
```

これは、開始時刻の形式が間違っている会議を作成する例です。

リクエスト :

POST to <http://localhost:8082/api/v1/scheduler/meetings>
HTTP/1.1 with:

```
{
  "coSpace": "0002c44c-9abb-4ff2-a522-29e67082fd56",
  "summary": "Test Meet",
  "dtStart": "2022-09-08T12:00:00.000ZZ",
  "dtEnd": "2022-09-08T13:00:00.000",
  "timeZone": "Asia/Calcutta",
  "isSchedulerSpaceOwner": false,
  "participants": [
    {
      "accessMethod": "18579b6f-072d-4e93-b8bc-8d7a6d5853ce",
      "userName": "test@example.com",
      "email": "test@example.com"
    }
  ]
}
```

```

    }
  ],
  "organizerUserName": "test@example.com",
  "organizerEmail": "test@example.com",
  "organizerDisplayName": "Test"
}

```

レスポンス :

HTTP/1.1 400 Bad Request Content-Type: application/json

```

{
  "code": 400,
  "errorId": 1004,
  "message": "Invalid meeting start date/time format."
}

```

15.7 スケジューラ関連メソッド

スケジューラ API は、1 回または複数回の会議のスケジュール、変更または削除、参加者の追加または削除、健康情報の取得、電子メール通知の送信または更新をサポートします。

15.7.1 サービス正常性ステータスを取得する

サービス正常性ステータスの取得は、次のメソッドを使用して API ノード `/health` によってサポートされています。

- `/health` での GET 操作

リクエスト要素	タイプ/値	説明/注意事項
status	文字列	サービス正常性ステータス全体

リクエスト要素	タイプ/値	説明/注意事項		
component	配列			
		status	文字列	UP または DOWN
		mail :		
		status	文字列	UP または DOWN
		details	Object	サーバーのアドレスとポート。 cmsWebScheduler :
		status	文字列	UP または DOWN
details	オブジェクト	c2w 接続でスケジューラの ID として使用される guid。		
ping :				
status	文字列	UP または DOWN		

15.7.2 coSpace での会議の作成、変更、および削除

- `/scheduler/meetings` に対する POST 操作
- `/scheduler/meetings` での GET 操作
- `/scheduler/meetings` での DELETE 操作

会議の作成は、次のパラメータを使用した `/scheduler/meetings` に対する POST 操作によってサポートされています。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace*	ID	coSpace ID。
organizerEmail	文字列	会議主催者のメール。
organizerUserName	文字列	会議主催者の userName。
organizerDisplayName (オプション)	文字列	電子メールに表示される会議の主催者の名前。
summary	文字列	会議の概要、最大長 50。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する場合は true。 注：true に設定すると、スケジュール担当者は会議/一連の会議の終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。												
isFullDayMeeting	true false	会議が終日会議である場合は true。dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。例：2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
dtStart*	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例：2021-01-30T08:30:00.000												
rrule	文字列	定期的な会議の頻度。 例：FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z												
participants	配列	参加者オブジェクトの一覧。 <table border="1" data-bbox="755 1018 1421 1438"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子メール</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザの電子メール。</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>文字列</td> <td>会議参加者の userName。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項	電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。	userName	文字列	会議参加者の userName。	accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。												
userName	文字列	会議参加者の userName。												
accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。												
timeZone	文字列	dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。 例：「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合、デフォルトは「UTC」になります。												

会議の開催の取得は、次の要求パラメータを使用した `/scheduler/meetings` に対する GET 操作によってサポートされています。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace	ID	coSpace ID。
maxMeetings	数字	取得する会議の最大数。最初の n 回の会議 (fromTime の後) を、startDate の昇順で返します。 最小値は 1 で、デフォルトは 5 です。
fromTime	文字列	ISO 8601 フルタイム形式の会議終了日に対して計算されます。例：2021-01-30T08:30:00Z。設定されていない場合、デフォルトで現在の時刻になります。
untilTime	文字列	ISO 8601 フルタイム形式の会議開始日に対して計算されます。例：2021-01-30T08:30:00Z。 設定されていない場合、untilTime に上限はありません。
userName	文字列	organizerUserName または参加者の userName。

/scheduler/meetings に対する GET 操作の応答要素は会議のリストであり、各会議には次のパラメータを含めることができます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace	ID	coSpace ID。
summary	文字列	会議のタイトル
dtStart	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例：2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。 例：2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
meeting	ID	会議 ID。
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する場合は true。 注： true に設定すると、スケジュール担当者は会議/一連の会議の終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。
isFullDayMeeting	true false	会議が終日会議の場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注意事項
rrule	文字列	定期的な会議の頻度。 例：FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z
organizerEmail	文字列	会議主催者のメール。
organizerUserName	文字列	会議主催者の userName
participantCount	数字	会議に招待された参加者の数。
recurrence	文字列	ISO 8601 のフルタイム形式での定例会議の最初の発生時刻。
timeZone	文字列	dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。 例：「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合、デフォルトは「UTC」になります。

coSpace での会議の削除は、`/scheduler/meetings` で `coSpace` パラメータを使用した `DELETE` 操作によってサポートされています。

リクエスト要素	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace*	文字列	coSpace ID、GUID 検証付き、長さ 36

15.7.3 個々の会議を取得、変更、削除する

個別の会議に関する情報の取得は、`/scheduler/meetings/<meeting id>` 上の GET 操作によってサポートされ、次のパラメータを返すことができます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace	ID	coSpace ID。
summary	文字列	会議のタイトル
dtStart	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例：2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。 例：2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
meeting	ID	会議 ID。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注意事項
isSchedulerSpaceOwner	true false	<p>スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する場合は true。</p> <hr/> <p>注： true に設定すると、スケジュール担当者は会議/一連の会議の終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。</p>
isFullDayMeeting	true false	<p>会議が終日会議の場合は true。</p> <p>dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。</p>
rrule	文字列	<p>定期的な会議の頻度。</p> <p>例：FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z</p>
organizerEmail	文字列	会議主催者のメール。
organizerUserName	文字列	会議主催者の userName
participantCount	数字	会議に招待された参加者の数。
recurrence	文字列	ISO 8601 のフルタイム形式での定例会議の最初の発生時刻。
timeZone	文字列	<p>dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。</p> <p>例：「ヨーロッパ/ロンドン」</p> <p>指定しない場合、デフォルトは「UTC」になります。</p>

個々の会議の変更は、`/scheduler/meetings/<meetingId><meetingId>` に対する PUT 操作でサポートされています。

次のパラメータを使用します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace	ID	coSpace ID。
organizerEmail	文字列	会議主催者のメール。
organizerUserName	文字列	会議主催者の userName。
summary	文字列	会議のタイトル
isSchedulerSpaceOwner	true false	<p>スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する場合は true。</p> <hr/> <p>注： true に設定すると、スケジュール担当者は会議/一連の会議の終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
isFullDayMeeting	true false	会議が終日会議の場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。												
dtStart	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000												
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。例 : 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。												
timeZone	文字列	dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。 例 : 「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合、デフォルトは「UTC」になります。												
rrule	文字列	定期的な会議の頻度。 例 : FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z												
participants	配列	参加者オブジェクトの一覧。 <table border="1" data-bbox="755 976 1421 1396"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子メール</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザの電子メール。</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>文字列</td> <td>会議参加者の userName.</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項	電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。	userName	文字列	会議参加者の userName.	accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。												
userName	文字列	会議参加者の userName.												
accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。												

会議インスタンスの削除は、 `/scheduler/meetings/<meeting Id>` での DELETE 操作によってサポートされています。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
meetingId	ID	削除する会議の会議 ID。

15.7.4 会議の参加者リストを変更、取得する

会議の参加者の取得は、
`/scheduler/meetings/<meetingId>/participants` 各参加者には

次のオブジェクトを含むことができます。

リクエスト要素	タイプ/値	説明/注意事項												
participants	配列	参加者オブジェクトの一覧。												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子メールの電子</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザー</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>string</td> <td>電子メール 会議参加者のユーザー名。 ユーザー名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	タイプ	説明	電子メールの電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー	userName	string	電子メール 会議参加者のユーザー名。 ユーザー名。	accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。
属性	タイプ	説明												
電子メールの電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー												
userName	string	電子メール 会議参加者のユーザー名。 ユーザー名。												
accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。												

会議または一連の会議の参加者の変更は、
/scheduler/meetings/<meetingId>/participants に対する PUT でサポートされており、次のパラメータを使用します。

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
newParticipants	配列	招待リストに追加される参加者。												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子メールの電子</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザー</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>string</td> <td>電子メール 会議参加者の userName。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま ず。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	タイプ	説明	電子メールの電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー	userName	string	電子メール 会議参加者の userName。	accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま ず。
属性	タイプ	説明												
電子メールの電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー												
userName	string	電子メール 会議参加者の userName。												
accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま ず。												
deletedEmailParticipants	array または strings	これらの電子メールアドレスを持つ参加者は、招待リストから削除されます。												
deletedUserParticipants	array または strings	これらのユーザー名を持つ参加者は、招待リストから削除されま ず。												

15.7.5 会議のオカレンスを作成、変更、削除する

会議のオカレンスの取得は、**/scheduler/meetings/<meeting id>/recurrences/
 <recurrence id>** での GET 操作によってサポートされており、次の値を返します。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/注意事項
coSpace	ID	coSpace ID。
summary	文字列	会議のタイトル
dtStart	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例：2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。 例：2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
timeZone	文字列	dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。 例：「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合、デフォルトは「UTC」
meeting	ID	会議 ID。
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する場合は true。 注： true に設定すると、スケジュール担当者は会議/一連の会議の終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。
isFullDayMeeting	true false	会議が終日会議の場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
rrule	文字列	定期的な会議の頻度。 例：FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z
organizerEmail	文字列	会議主催者のメール。
organizerUserName	文字列	会議主催者の userName。
participantCount	integer	会議に招待された参加者の数。
isCancelled	true false	会議がキャンセルされた場合は true。

会議の開催の変更は、`/scheduler/meetings/<meeting id>/recurrences/ <recurrence id>` に対する PUT 操作と次のパラメータでサポートされています。

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
summary	文字列	会議のタイトル

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
isFullDayMeeting	true false	会議が終日会議の場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
dtStart	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議開始日。 例：2021-01-30T08:30:00.000												
dtEnd	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の会議終了日。例：2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
timeZone	文字列	dtStart および dtEnd 要素に対応する領域または場所。 例：「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合、デフォルトは「UTC」になります。												
participants	配列	参加者オブジェクトの一覧。 <table border="1" data-bbox="722 856 1422 1276"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子メール</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザの電子メール。</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>文字列</td> <td>会議参加者のユーザー名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項	電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。	userName	文字列	会議参加者のユーザー名。	accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項												
電子メール	文字列	電子メール認証を含むユーザの電子メール。												
userName	文字列	会議参加者のユーザー名。												
accessMethod	ID	accessMethod ID。指定しない場合、招待には Cospace レベルの参加情報が使用されます。												
isCancelled	true false	会議がキャンセルされたかどうかを示します。true に設定すると、繰り返し ID によって会議インスタンスがキャンセルされます。												

15.7.6 会議オカレンスの参加者を取得または変更する

会議の参加者リストの取得は、

`/scheduler/meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence id>/participant` に対する GET 操作と次のパラメータでサポートされています

リクエスト要素	タイプ/値	説明/注意事項															
participants	配列	参加者オブジェクトの一覧。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>の電子</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザー</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>電子メール</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>string</td> <td>会議参加者のユーザー名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>				の電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー			電子メール	userName	string	会議参加者のユーザー名。	accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。
の電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー															
		電子メール															
userName	string	会議参加者のユーザー名。															
accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されます。															

会議の参加者の変更は、
/scheduler/meetings/<meeting id>/recurrences//<recurrence id>participant に対する GET 操作と次のパラメータでサポートされています

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項															
newParticipants	配列	招待リストに追加される参加者。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>の電子</td> <td>文字列</td> <td>電子メール認証を含むユーザー</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>電子メール</td> </tr> <tr> <td>userName</td> <td>string</td> <td>会議参加者の userName。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま す。</td> </tr> </tbody> </table>				の電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー			電子メール	userName	string	会議参加者の userName。	accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま す。
の電子	文字列	電子メール認証を含むユーザー															
		電子メール															
userName	string	会議参加者の userName。															
accessMethod	ID	accessMethod ID. 指定しない場合、招待には coSpace レベルの参加情報が使用されま す。															
deletedEmailParticipants	array または strings	これらの電子メール アドレスを持つ参加者は、招待リストから削除されます。															
deletedUserParticipants	array または strings	これらのユーザー名を持つ参加者は、招待リストから削除されま す。															

15.7.7 coSpace の電子メールを更新する

coSpace の電子メールの更新は、以下によってサポートされています。

/scheduler/meetings/refresh?coSpace=<coSpace id> に対する POST 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
meeting*	ID	会議 ID。

15.7.8 単一の会議および一連の会議全体の電子メールを更新する

会議の電子メールの更新は、以下によってサポートされています。

`/scheduler/meetings/<meeting ID>/refreshEmails` に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
meeting*	ID	会議 ID。

一連の会議からの 1 回の会議の定期的な電子メールの更新は、次の方法でサポートされています。`/scheduler/meetings/<meeting ID>/recurrences/<recurrence id>/refreshEmails` に対する PUT 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
meeting*	ID	会議 ID。
reccurence*	文字列	LocalDateTime フルタイム形式の単一インスタンスの ID。 例：2021-01-30T08:30:00Z

15.7.9 時間指定ログ情報を変更および取得する

この機能では、新しい API ノード `/scheduler/timedLogging` を導入して、次の操作をサポートします。

- `/scheduler/timedLogging` に対する PUT 操作
- `/scheduler/timedLogging` での GET 操作

パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
webBridge	数字	詳細な Web Bridge ロギングを有効にする必要がある残り時間 (秒)
api	数字	HTTPS サイド ロギングの残り時間 (秒)。
email	数字	電子メール ロギングの残り時間 (秒)。

16 プロファイルを使用する

使用できるプロファイルは多数あります。

- /system/profiles (これは最上位のプロファイルです)
- /callProfiles
- /callLegProfiles
- /callBrandingProfiles
- /dtmfProfiles
- /ivrBrandingProfiles
- /userProfiles
- /compatibilityProfiles
- /dialInSecurityProfiles
- /webBridgeProfiles
- /lobbyProfiles

最上位のプロファイルには、他のすべてのプロファイルを含めることができます。

同様に、他のすべてのプロファイルは、テナントに対して設定、変更、または取得できます。たとえば、テナントごとに異なる `callBrandingProfile` を最上位のシステムプロファイルに設定して、テナント A のコールが、テナントに属していないユーザーへのコールとテナント B のコールから異なるブランディングを持つようにすることができます。

coSpace、アクセス方式、ユーザー、IVR は、いくつかのプロファイルで作成できます。次の図を参照してください。これらの定義のプロファイルに設定された値は、最上位またはテナントレベルで設定された値を上書きします。たとえば、coSpace の `callLegProfile` セットの値は、その coSpace のコールレグに使用され、coSpace が関連付けられているテナントレベルまたは最上位のプロファイルに指定された `callLegProfile` の値セットを上書きします。

最後に、個々のコールレグのプロファイルにも表示されるパラメータの 1 つに値を指定できます。その後、ほとんどのパラメータにプロファイルを使用できますが、コールレグの `defaultLayout` などの 1 つのみを上書きします。

プロファイルの使用は、すべてのレベルで任意です。

次の図は、プロファイル間の関係、継承、オーバーライドを示しています。

図 5 : プロファイルによる値の継承

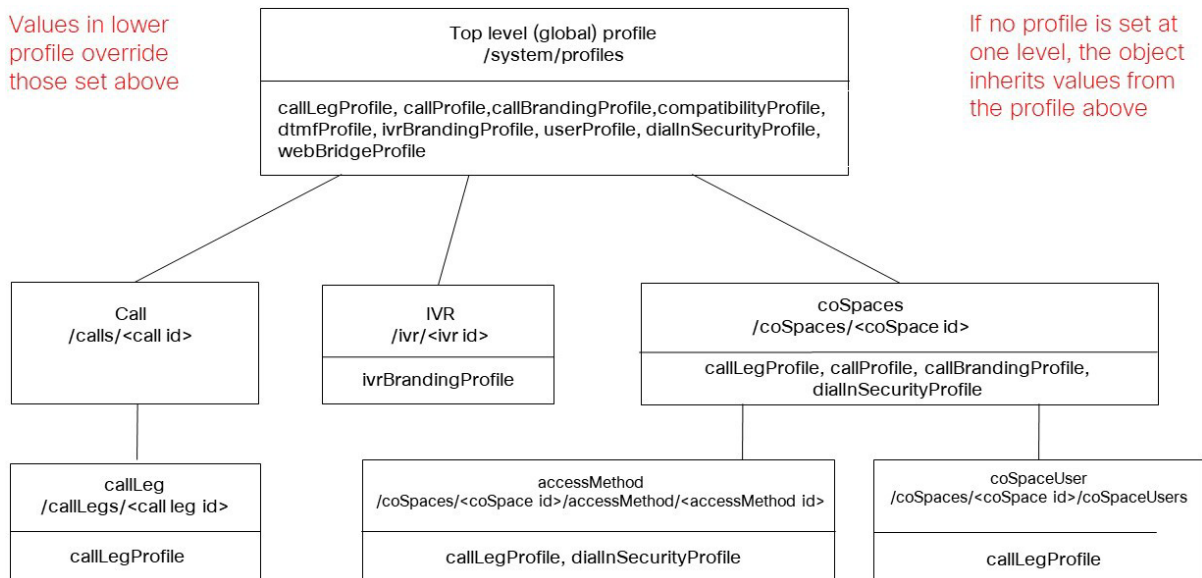
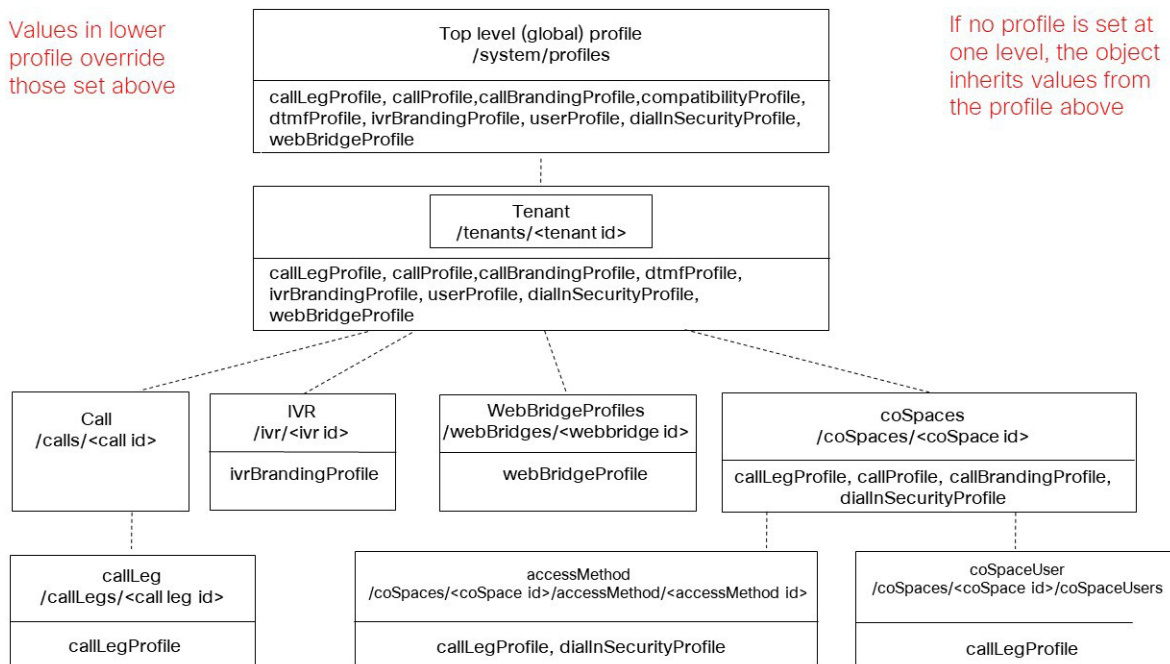


図 6 : テナント使用時のプロフィールによる値の継承



付録 A Web アプリ会議の参加者のロールをモールド変更する

Meeting Server には、会議参加者の役割が事前に設定されていません。管理者は、Meeting Management を使用して Meeting Server をプロビジョニングする際に、ロール名とそれに関連する権限を定義します（詳細については、『[管理者向け Meeting Management ユーザーガイド](#)』を参照してください）。ユーザーには、会議への参加に使用するアクセス方法に基づいて、これらのロールが割り当てられます。Cisco Meeting Server Web アプリを介して接続された会議参加者が、他の参加者のロールを変更できます。この機能は、coSpace 呼び出し用の Web 管理 API 経由でもサポートされています。

注：このリリースでは、この機能は、Web アプリおよび SIP/CE エンドポイントまたはクライアントから参加する参加者に対してのみサポートされています。Lync や Skype などの他のクライアントから参加した参加者の役割の変更はサポートされていません。

注：ActiveControl が有効になっている Cisco エンドポイントは、通話中のロールの変更によってビデオまたはビデオ + プレゼンテーションのアクセス許可を変更しません。これにより、ビデオまたはビデオとプレゼンテーションが無効から有効に、またはその逆に変更される可能性があります。たとえば、ビデオの許可が無効になっているゲストとして参加した参加者などです。通話中に、ビデオの許可が有効になっているホストにロールが変更された場合、ビデオはエンドポイントで無効のままです。

callLegProfiles、callLegs、および参加者にサポートされる **changeRoleAllowed** パラメーターは、参加者が通話中の他の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。**changeRoleAllowed** の実効値は、コールレグ プロファイルの階層の既存のルールに基づいて計算され、階層のすべてのレベルで定義されていない場合、デフォルトで **false** になります。

A.1 使用可能なロール

ウェブアプリでの場合

イニシエータ（参加者のロールを変更する）には、以下に基づいて割り当て可能な特定の役割があります。

- ・ アクセス方式の範囲
- ・ coSpace のメンバーシップ/所有権
- ・ イニシエータの参加者の初期ロール
- ・ ロールを変更中の対象参加者の現在のロールイニシエータの参加

者には、以下のアクセス権があります。

- イニシエータの参加者が coSpace の所有者である場合、スコープに関係なく coSpace のすべてのアクセス方式。
- coSpace のすべてのパブリックおよびディレクトリ アクセス方式。
- coSpace の所有者であるか、coSpace のメンバーである場合にのみ、メンバー スコープを持つアクセス方式。
- それらが coSpace の所有者である場合、またはその特定のアクセス方式を coSpace メンバーとして使用して参加している場合は、プライベート スコープのアクセス 方式。

イニシエータの参加者が、任意のアクセス方式にアクセスできる場合、役割を元の状態に戻すことができれば、それを別の参加者に割り当てることができます。このルールの例外は、ロール「スペースのデフォルト」です。イニシエータは、別の役割を持つ参加者に「スペースのデフォルト」のロールを割り当てることはできません。「スペースのデフォルト」のロールの詳細については、「スペースのデフォルトのロール」を参照してください。

Web 管理者からの場合

管理者ユーザーは、/callLegs/<call leg id> で PUT 操作を実行するときに accessMethod の値を指定することにより、参加者またはコールレグのオブジェクトのアクセス メソッドを変更できます。管理者ユーザーは、coSpace で構成されたすべてのアクセス メソッドにアクセスでき、さらにアクセス メソッドを設定解除できます。つまり、値「」を指定します。これにより、アクセス メソッドのコールレグ プロファイルがオブジェクトのコールレグ プロファイル階層から削除され、アクセス方法の重要度の値の設定が解除されます。

A.2 特別なロール

参加者のロールは、次のシナリオで「スペースのデフォルト」または「カスタム」として表示されます。

A.2.1 スペースのデフォルトのロール

会議が Meeting Management 管理者によって（「管理者用の Meeting Management ユーザーガイド」に記載されている手順を使用して）プロビジョニングされている場合、すべてのユーザーまたはアクセス方法に名前付きロールが割り当てられます。スペースが古い方法を使用して作成された場合、役割が [スペースデフォルト (Space default)] として表示される可能性があります。

- coSpace に coSpace オブジェクトの callId/uri がある場合、Web アプリスペースポータルに、coSpace メンバーのため GUID 00000000-0000-0000-0000-000000000001 を使用して、仮想アクセス方式「ロール 1」が作成されます。coSpace メンバーがこのロールを使用して通話に参加すると、通話中のロールが「スペースのデフォルト」として表示されます。
- この仮想アクセス方式がない場合、coSpace メンバーに Web アプリスペースポータルから「スペースデフォルト」として割り当てられたインコール ロールがある場合、インコールロールは「スペースデフォルト」として表示されます。

- 通話中、[ロールの変更]メニューにオプションの1つとして[スペースのデフォルト]が表示されません。参加者の役割が「スペースのデフォルト」から他の役割に変更された場合、その役割を「スペースのデフォルト」に戻すことはできません。

A.2.2 カスタムロール

coSpaceUser に設定された callLegprofile が、いずれかのアクセス方式または coSpace オブジェクトのコールレグ プロファイルと一致しない場合、ロールは Web アプリで「カスタム」インコールとして表示されます。このロールは Web アプリでは変更できません。

A.3 ロールと coSpace メンバーシップの割り当て

A.3.1 メンバー

ホストやゲストなどの名前前のロールは、割り当てられた設定またはアクセス許可に対応します。coSpace メンバーの場合、ロールは coSpace ユーザ コールレグ プロファイルを変更することによって変更されます。アクセス方法が変更されていないため、ロール変更の結果は /callLegs/<call leg id>および /participants/<participant id> に対する GET 操作に反映されません。重要度の値も影響を受けません。

スペースに複数のアクセス方法があり、GUID が 00000000-0000-0000-0000-000000000001 の Role1 がそれらの1つである場合、ミーティングの作成中に、ユーザーは非メンバーのロールとして Role1 を追加することはできません。Role1 はメンバーのみが使用できます。

スペースにアクセス方法が1つだけあり、それが GUID が 00000000-0000-0000-0000-000000000001 の Role1 である場合、ミーティングの作成中に、Web アプリのユーザーはメンバーのみを参加者リストに追加できます。非メンバーをが追加しようとする、「スペースメンバーのみを追加できます (Only space members can be add)」というメッセージが表示されません。

A.3.2 他の参加者

非 coSpace メンバーの場合、ロールは accessMethod を変更することによって変更されます。/callLegs/ および /participants/ に対する GET 操作をする accessMethod パラメータの値はその変化を反映しています。<call leg id>

その変化を反映しています。<participant id>さらに、アクセス方式のコールレグ プロファイルがコールレグ プロファイル階層にプラグインされ、アクセス方式の重要度の値が参加者にも適用されます。

付録 B コールレグに関する追加情報

B.1 コールレグ情報

特定の個々のコールレグに関する情報を取得する場合、その構造は次の形式に従います。

```
<callLeg id="386621ab-927b-4624-a77d-0288913c92ac">
```

コールレグ応答値 ([セクション 8.3.6](#) を参照)

```
<configuration>
```

コールレグの構成 ([下記](#)を参照)

```
</configuration>
```

```
<status>
```

コールレグのステータス ([下記](#)を参照)

```
</status>
```

```
</callLeg>
```

B.1.1 コールレグ設定

返される設定セクションには、そのコールレグの PUT メソッドで変更できるものと同じ値が含まれます。

設定セクションの例を以下に示します。

```
<configuration>
  <ownerId>2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac</ownerId>
  <chosenLayout></chosenLayout>
  <needsActivation>>false</needsActivation>
  <defaultLayout>speakerOnly</defaultLayout>
  <participantLabels>>false</participantLabels>
  <presentationDisplayMode>dualStream</presentationDisplayMode>
  <presentationContributionAllowed>>false</presentationContributionAllowed>
  <presentationViewingAllowed>>true</presentationViewingAllowed>
  <endCallAllowed>>true</endCallAllowed>
  <muteOthersAllowed>>true</muteOthersAllowed>
  <videoMuteOthersAllowed>>true</videoMuteOthersAllowed>
  <muteSelfAllowed>>true</muteSelfAllowed>
  <videoMuteSelfAllowed>>true</videoMuteSelfAllowed>
  <changeLayoutAllowed>>true</changeLayoutAllowed>
  <joinToneParticipantThreshold>0</joinToneParticipantThreshold>
  <leaveToneParticipantThreshold>0</leaveToneParticipantThreshold>
  <videoMode>>false</videoMode>
  <rxAudioMute>>false</rxAudioMute>
  <txAudioMute>>false</txAudioMute>
  <rxVideoMute>>false</rxVideoMute>
  <txVideoMute>>false</txVideoMute>
```

```

<sipMediaEncryption>allowed</sipMediaEncryption>
<audioPacketSizeMs>20</audioPacketSizeMs>
<deactivationMode>disconnect</deactivationMode>
<deactivationModeTime>1</deactivationModeTime>
<telepresenceCallsAllowed>false</telepresenceCallsAllowed>
<sipPresentationChannelEnabled>true</sipPresentationChannelEnabled>
<bfcfMode>1</bfcfMode>
</configuration>

```

B.1.2 コールレグステータス

返されるステータス情報には、コールレグのアクティブ状態に関連するライブ値が含まれています。メディア情報は、1つ以上の rxAudio、txAudio、rxVideo、および txVideo サブセクションに含まれています。複数のビデオストリームまたはオーディオストリームは、「main」または「presentation」のいずれかである「role」属性によって識別および区別できます。

各メディアセクションには、パケット損失率とジッターが含まれています。ステータスデータのセットの例を以下に示します。

```

<status>
  <state>connected</state>
  <durationSeconds>349</durationSeconds>
  <direction>incoming</direction>
  <sipCallId>6ff025ec40843df0b5153cab4a8601ee</sipCallId>
  <groupId>8b29e92d-27c2-421a-8d73-47daf09d7fe7</groupId>
  <recording>true</recording>
  <streaming>false</streaming>
  <deactivated>false</deactivated>
  <encryptedMedia>true</encryptedMedia>
  <unencryptedMedia>false</unencryptedMedia>
  <layout>telepresence</layout>
  <activeLayout></activeLayout>
  <availableVideoStreams></availableVideoStreams>
  <rxAudio>
    <codec>aac</codec>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
  </rxAudio>
  <txAudio>
    <codec>aac</codec>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>0</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
    <roundTripTime>66</roundTripTime>
  </txAudio>
  <rxVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>768</width>
    <height>448</height>
    <frameRate>29.7</frameRate>
    <bitRate>544603</bitRate>

```

```

    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <txVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>720</height>
    <frameRate>29.9</frameRate>
    <bitRate>1098095</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>11</jitter>
    <roundTripTime>60</roundTripTime>
  </txVideo>
  <rxVideo role="presentation">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>768</height>
    <frameRate>15.0</frameRate>
    <bitRate>3433</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <activeControl>
    <encrypted>true</encrypted>
    <remoteSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
      <selfInfo />
      <speakerInfo />
    </remoteSubscriptions>
    <localSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
    </localSubscriptions>
  </activeControl>
</status>

```

さらに、「<sipCallId>」の値が含まれる場合があります。これは、コールレグが SIP 接続に対応する場合に存在し、SIP プロトコルヘッダーからのグローバルで一意的「Call-ID」値になります。

Call Bridge からリモート側へのアクティブなビデオストリームがある場合、そのコールレグに現在使用されている実際のレイアウトを示す「layout」値があります。これは、そのユーザーのその部分（Web アプリのコールレグ）に選択されているものか、coSpace のデフォルトまたはコールレグのオーバーライドに起因します。

付録 C 追加の Multiparty ライセンス情報

C.1 /system/licensing に関する情報

/system/licensing ノードから情報を取得すると、その構造は次の形式に従います。

```
<licensing>
  <features>
    <callBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
    </callBridge>
    <webBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
    </webBridge>
    <turn>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
    </turn>
    <ldap>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
    </ldap>
    <branding>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
      <level>whiteLabel</level>
    </branding>
    <recording>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100 年 1 月 1 日</expiry>
      <limit>30</limit>
    </recording>
    <personal>
      <status>noLicense</status>
    </personal>
    <shared>
      <status>noLicense</status>
    </shared>
    <capacityUnits>
      <status>noLicense</status>
    </capacityUnits>
  </features>
</licensing>
```


C.2 /system/multipartyLicensing に関する情報

/system/multipartyLicensing ノードから情報を取得すると、その構造は次の形式に従います。

```
<multipartyLicensing>
  <timestamp>2016-07-20T14:22:17Z</timestamp>
  <personalLicenseLimit>0</personalLicenseLimit>
  <sharedLicenseLimit>0</sharedLicenseLimit>
  <capacityUnitLimit>0</capacityUnitLimit>
  <users>545</users>
  <personalLicenses>0</personalLicenses>
  <participantsActive>0</participantsActive>
  <callsActive>0</callsActive>
  <weightedCallsActive>0.000</weightedCallsActive>
  <callsWithoutPersonalLicense>0</callsWithoutPersonalLicense>
  <weightedCallsWithoutPersonalLicense>0.000</weighted>
    CallsWithout>PersonalLicense>
  <capacityUnitUsage>0.000</capacityUnitUsage>
  <capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense>0.000</capacityUnit>
    UsageWithoutPersonalLicense>
</multipartyLicensing>
```

付録 D RESTer をインストールし API で使用する

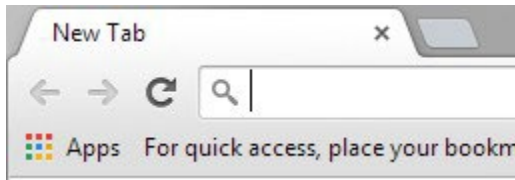
この付録では、API ツール RESTer のインストールと使用の例を示します。他のツールも利用できます。[セクション 3.4](#) を参照してください。

注：バージョン 2.9 以降、サードパーティ アプリケーションを必要とせずに API を使用できます。Web 管理ユーザーインターフェイスを介して API 構成を簡単に実行できます。詳細については、[セクション 3.3](#) を参照してください。

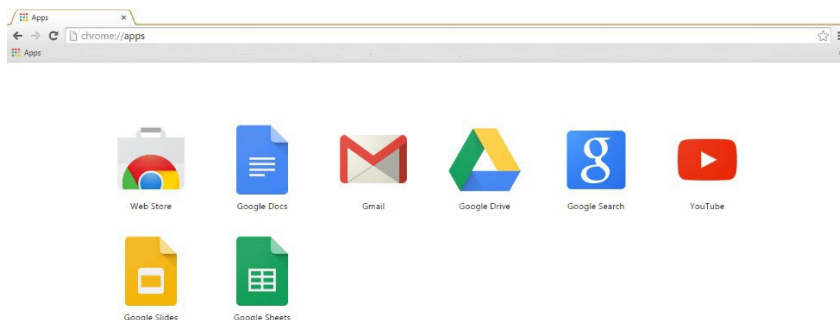
[以前に](#)説明したように、API アクセスを持つアカウントがあることを確認してください。

D.1 RESTer のインストール

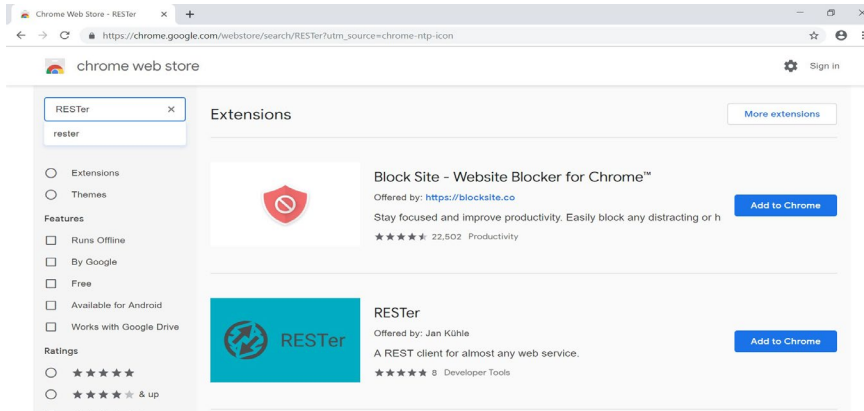
1. ブラウザとして Google Chrome を開き、ブラウザウィンドウの左上隅にある[アプリ (Apps)] アイコンを選択します。または、Chrome ブラウザウィンドウで <https://chrome.google.com/webstore/category/extensions> をクリックして、[手順 3](#) にスキップします。



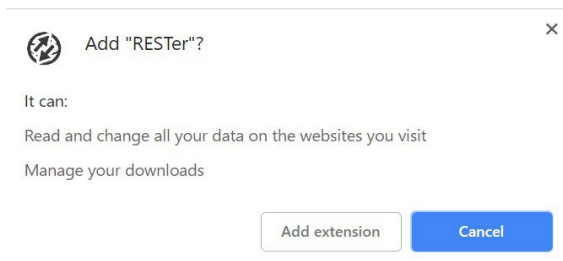
2. [ウェブストア (Web Store)] をクリックして Chrome のアプリストアを開き、[拡張機能 (Extensions)] を選択します。



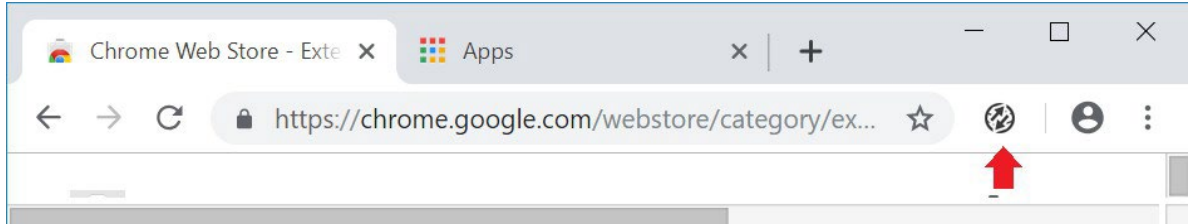
3. 検索フィールドに RESTer と入力して Enter キーを押し、結果から RESTer 拡張機能を見つけて [Chrome に追加 (Add to Chrome)] をクリックします。



4. [拡張機能を追加 (Add extension)]をクリックして、インストールを続行します。



5. インストールが完了すると、確認ダイアログが表示され、メニューバーに RESTer アイコンが表示されます。



D.1.1 SSL 例外の追加/確認

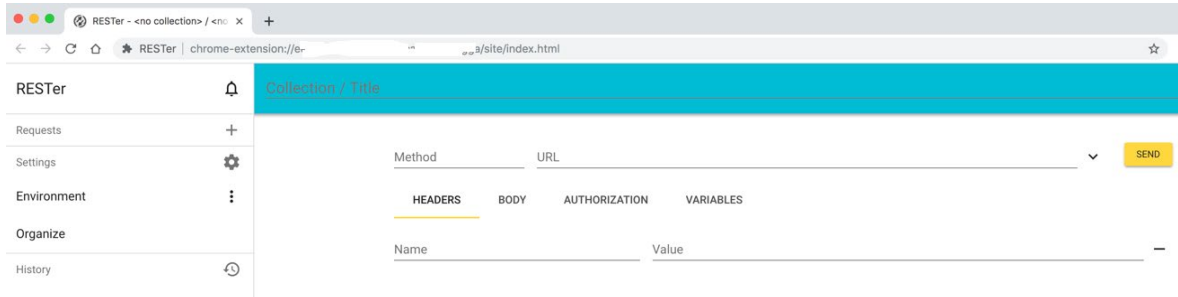
RESTer は、ブラウザが構成されているのと同じ SSL 証明書の検証および例外ルールに従います。Web 管理サイトの URL が証明書の検証に合格しない場合、または例外が保存されていない場合、RESTer はすべての要求を拒否します。例外を確認または追加するには：

1. Chrome ウィンドウで、Meeting Server Web 管理インターフェイスの URL を開き、HTTPS とポート番号（非標準ポートでリッスンしている場合）を使用していることを確認します。例：**https://cms.lab:445**
2. Chrome がエラーなしで Meeting Server Web ページをロードした場合は、続行しても問題ありません。
3. Chrome でプライバシーエラーが表示された場合は、[詳細設定 (Advanced)]をクリックし、リンクをクリックしてアドレスに進みます。

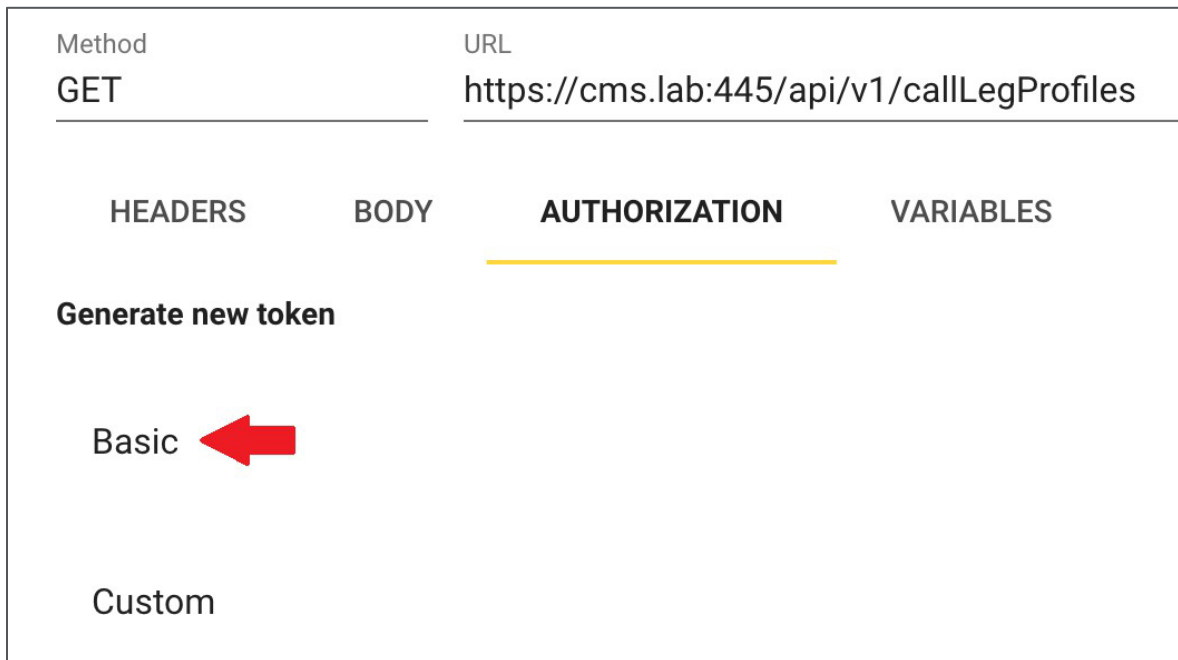
D.1.2 Basic 認証ヘッダーを生成する

要求はサーバーに対して認証を行う必要があります。RESTer では認証ヘッダーを生成して保存できるため、コマンドごとにこの手順を繰り返す必要はありません。

1. まだ開いていない場合は、ブラウザのメニューバーの RESTer アイコンをクリックしてツールを開きます。



2. [認証 (Authorization)]タブをクリックし、[Basic]をクリックします。



3. 表示されるポップアップにサーバーの適切な資格情報セットを入力し、[保存 (Save)]をクリックします。

4. タブが更新され、[認証 (Authorization)]タブが保存された資格情報を使用していることを示します。

Method	URL		
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		
HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Use existing tokens			
<input checked="" type="checkbox"/>	admin		
	Custom		
	Never expires		
Generate new token			
	Basic		
	Custom		

D.1.3 GET コマンドの例

- [RESTer] タブを開きます（まだ開いていない場合）。これが新しいセッションの場合は、[セッション](#)
[D.1.2](#) の手順に従って認証ヘッダーを設定します。認証ヘッダーをクリックして確認し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します。（上記の手順 4 の画面を参照してください）。
- [RESTer] タブで、[メソッド (Method)] をクリックし、ドロップダウンリストから **[GET]** を選択します。
- URL フィールドをクリックし、クエリする API オブジェクトへの完全な URL を入力します。これには、webadmin アドレス、ポート、API パスが含まれます。この例では、callLegProfiles に関する情報を取得します。

Collection / Title	
Method	URL
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

4. [送信 (Send)]をクリックして要求を送信すると、ページの下部に応答が表示されます。

Response 200 OK 1.12 KB 418 ms

```

Date: Wed, 20 Mar 2019 00:45:57 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Content-Type: text/xml
Vary: Accept-Encoding
Content-Encoding: gzip
Content-Length: 688
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive

```

```

1 <?xml version="1.0"?>
2 <callLegProfiles total="28">
3   <callLegProfile id="08c75fd5-7a05-42a3-8be8-1583e160a73">
4     <needsActivation>true</needsActivation>
5     <name>Example</name>
6   </callLegProfile>
7   <callLegProfile id="09127467-c932-48f2-8b11-4b793541eee9">
8     <needsActivation>>false</needsActivation>
9   </callLegProfile>
10  <callLegProfile id="18b9b86c-3ae6-4631-93cd-c61185c87be6">
11    <needsActivation>true</needsActivation>
12  </callLegProfile>
13  <callLegProfile id="1dd5bfbcb-30da-4ec5-85a2-0e83fdb5ba28">
14    <needsActivation>true</needsActivation>

```

5. このツールは、応答を自動的に検出し、XML としてフォーマットします。

D.1.4 POST コマンドの例

- [RESter] タブを開きます (まだ開いていない場合)。これが新しいセッションの場合は、[セッション](#)
[D.1.2](#) の手順に従って認証ヘッダーを設定します。認証ヘッダーをクリックして確認し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します

Method	URL		
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		
HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Use existing tokens			
<input checked="" type="checkbox"/>	admin		
	Custom		
	Never expires		
Generate new token			
Basic			
Custom			

2. [RESTer]タブで、[メソッド (Method)]をクリックし、ドロップダウンリストから[POST]を選択します。
3. URL フィールドをクリックし、クエリする API オブジェクトの完全な URL を入力します。これには、webadmin アドレス、ポート、API パスが含まれます。この例では、新しい callLegProfile を作成します。

Collection / Title	
Method	URL
POST	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

4. POST 要求 (オプション) でデータを送信するには、リクエストで送信するデータを [本文 (Body)]タブに入力する必要があります。
[本文 (Body)]をクリックし、ウィンドウの右側にある 3 つの点のドロップダウンをクリックします。ドロップダウンリストから [フォーム (Form)]を選択します。

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

Name	Value	Type
		Text

Type dropdown menu options: Plain, JSON, XML, **Form** (checked)

5. このリクエストで設定するプロパティの[名前 (Name)]フィールドと[値 (Value)]フィールドに入力します。利用可能な設定については、[セクション 8.4.3](#) を参照してください。

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

Name	Value	Type
Name	API Demo	Text
defaultLayout	allequal	Text
allowMuteOthers	true	Text
Name	Value	Text

6. 要求には、正しいコンテンツタイプのヘッダーが含まれている必要があります。これを行うには、[ヘッダー (Headers)]タブをクリックし、新しいヘッダーを **Content-Type : application/x-www-form- urlencoded** として入力します。

そうしないと、要求の送信時に HTTP 502 エラーが発生します。ただし、RESTer はユーザーが何をしようとしているかを検出し、ユーザーに代わって次の要求でヘッダーを設定するように提案します。ハイライト表示された警告バナーをクリックすると、RESTer は自動的に必要なコンテンツヘッダーを要求に追加します。

Response 502 Proxy Error 1.12 KB 418 ms

```
Date: Wed, 20 Mar 2019 00:47:41 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Content-Length: 424
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive
Content-Type: text/html; charset=iso-8859-1
```

```

1 <!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//IETF//DTD HTML 2.0//EN">
2 <html><head>
3 <title>502 Proxy Error</title>
4 </head><body>
5 <h1>Proxy Error</h1>
6 <p>The proxy server received an invalid
7 response from an upstream server.<br />
8 The proxy server could not handle the request <em><a href="/api/v1/callLegProfiles">POST</a></em></p>
9 Reason: <strong>Error reading from remote server</strong></p></p>
10 </body></html>
11
```

Suggested content type based on body is application/x-www-form-urlencoded. SET CONTENT TYPE X

7. 正しいコンテンツヘッダーが要求に追加されます。

Method: POST URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles SEND

HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Name	Value		
Authorization	Basic YWRtaW46QzFzY28xMjM=		
Name	Value		
Content-Type	application/x-www-form-urlencoded		
Name	Value		

8. [送信 (Send)] をクリックして、要求を送信します。応答ヘッダーと本文がページの下部に表示されます。**Location** ヘッダーには、リクエストによって作成されたオブジェクトへのパスと ID が含まれていることに注意してください。

Method	URL		
POST	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		SEND
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> HEADERS BODY AUTHORIZATION VARIABLES </div>			
Name	Value	Type	
Name	API Demo	Text	⋮
Name	Value	Type	
defaultLayout	allequal	Text	—
Name	Value	Type	
allowMuteOthers	true	Text	—
Name	Value	Type	
		Text	—
Response		200 OK	549 B 415 ms
<pre> Date: Wed, 20 Mar 2019 00:49:44 GMT Server: Apache X-Frame-Options: DENY Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate Pragma: no-cache X-XSS-Protection: 1; mode=block X-Content-Type-Options: nosniff Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains Location: /api/v1/callLegProfiles/147fb83d-622b-4372-8c6e-96c0d22d00c7 Vary: Accept-Encoding Content-Encoding: gzip Keep-Alive: timeout=5, max=100 Connection: Keep-Alive Transfer-Encoding: chunked </pre>			

D.1.5 PUT コマンドの例

RESTer で PUT コマンドを完了するには、HTTP メソッドが異なることを除いて、POST コマンドの場合と同じ手順に従います。[前のセクション](#)の POST の例に従い、メソッド設定を設定するときに POST の代わりに PUT オプションを使用します。

付録 E Web Bridge 3 によって提供される API メソッド

バージョン 2.9 では、Web Bridge 3 に特化した、情報を取得する新しい API メソッドが導入されました。

3. これらの新しい API メソッドは、通常の Meeting Server API では見つからず、Web Bridge 3 によって提供される API でサポートされます。この API は、Web Bridge 3 と通信するためにブラウザで実行される Web アプリケーションによって使用されます。これらのメソッドは、管理者が診断目的で使用するために用意されています。

たとえば、Web Bridge 3 が `join.meeting.space` で実行されている場合、これらの API メソッドは `https://join.meeting.space/api/bridge/info` に配置されます。

`https://join.meeting.space/api/bridge/info`

新しいメソッドは次のとおりです。

- `/api/bridge/info` で GET を実行すると、この Web Bridge 3 の識別子が返されます。
- `/api/v1/load` で GET を実行すると、この Web Bridge 3 の識別子が返されます（従来の用途向け）。
- `/api/bridge/callbridges` で GET を実行すると、この Web Bridge 3 に対する現在の Call Bridge 接続に関する情報が返されます。
- `/api/bridge/connections` で GET を実行すると、この Web Bridge 3 によって提供されている現在の HTTP 接続に関する情報が返されます。*
- `/api/bridge/websockets` で GET を実行すると、この Web Bridge 3 によって提供されている現在の WebSocket に関する情報が返されます。
- `/api/configuration` で GET を実行すると、カスタム電子メール招待およびその他の機密でない設定情報で利用可能な言語が返されます。

* 認証（Web アプリケーションのユーザーがログインに使用するのと同じ認証）が必要です。

Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト www.cisco.com/go/offices をご覧ください。

© 2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco の商標または登録商標

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉が使用されていても、Cisco と他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)